275.6
7

始

歐米通俗教育の實際

大正
2. 11. 22
内交

緒言

一、本書は、著者が曩に歐米諸國出張に際し、文部内務兩省の囑託を受け歐米通俗教育に關して調査せる材料に、多少の取捨を加へたるものなり。

二、歐米諸國の通俗教育は公益事業にして慈善事業にあらず、隨つて彼の感化教育、盲啞教育の類までも、之を通俗教育として論ずるは、此區別を無視するものとす。是故に著者は本書に於て專ら公益事業としての通俗教育を說けり。

三、記實は大概著者が實地の見聞に基き、之を關係協會等の年報、規則等に參考したるものなれども、中には全く書類のみに據れるものもあり。

四、文字はすべて摯實を旨とし、且一般の領會に便にせんが爲に、特に口語體を用ひ、又成る丈事の眞相を傳へんが爲に、表面の規則等よりも、寧ろその實際の作用を明にせんことを期せり。

五、書中の記事は頭緒多端にして、且頗る繁瑣に流れたるが故に、初に概說一篇を掲げて其要領を示せり。

六、附錄の一篇、杞憂の徒之を見て或は無くもがなの感あらん。然れどもこは彼地に於ける彰著の事實なり。耳を掩うて鈴を盜まんよりも、寧ろ善用して履霜の戒となすに若かざるべし。

七、著者歸朝の後、今日は既に一年を經過したるも、其間彼地の通俗教育に關して起りたる新事實は、出來る限り新着の

日刊新聞、教育雜誌等に據つて、之を追加補足し置けり。

八、最後に彼地に於ける視察調査に便宜を與へられたる大使、公使、領事並に大公使館員各位、及び本書の作成に多大の助力を與へられたる僚友文學士乙骨三郎、並に福田勘藏の二君に對して、茲に深厚なる感謝の意を表す。

"Educate the people" was the first admonition addressed by Penn to the colony which he founded. "Educate the people" was the legacy of Washington to the nation which he had served. *Macaulay.*

「人民を教育せよ」これペンが彼が設けたる植民に對する訓戒なりき。「人民を教育せよ」これワシントンが彼が救ひたる國民に對する遺訓なりき。

マコーレー

概說

今日歐米諸國で通俗教育、卽ち獨逸語で言ふフォルクスビルヅンゲ(庶民又は平民陶冶の義)と稱する事業は、其範圍から見ても、其動機から見ても、頗ぶる多樣複雜なものである。

それで第一に其名稱にも一定したものがない。右のフォルクスビルヅンゲにしても、之が一般に通用する譯ではない。同じ獨逸語の行はるゝ瑞西でも、此語を普通は國民教育の意味に用ひて居る。獨逸でも通俗教育に緣遠い人などにフォルクスビルヅンゲと言つても、直ぐとこの教育の意味に取つては吳れない。英國のポピュラー、エヂュケーションは最も通俗教育の意味に近い原語であるが、これも本國では多くは國民教育の義に用ひて、必し

も獨逸で一部の人が用ひて居るフォルクスビルヅングの如き意味ではない。佛蘭西ではウーブル・ポストスコレール卽ち學校外教育と言つて、通俗教育を總稱して居る人もあるが、これも其意味が空漠で、決して適切な稱呼とは謂はれない。矢張り獨逸語のフォルクスビルヅングの方が、今日の實際には比較的好く當嵌るやうである。庶民又は平民を陶冶すると云ふ心持は、此事業のいづれの場合にも直接、又は間接に必ず見えて居る。

次に通俗教育の事業の範圍は、普通の學校に施す教育よりも遙に廣く、又頗ぶる多岐である。併し大體に於ては之を狹義の通俗教育と、平民的娯樂及び平民的懇親の三に區別することが出來る。而して今日の稍完全に近い通俗教育の事業には、少くも前の二丈は必ず含んで居て、後の一も追々と其上に加つて來て居る勢である。初めて通俗教育の起つた頃は、此教育は何れの國でも、主として小學校の教育の延長、卽ち今日の所謂補習教育に重を置いたものであつたが、近年は社會問題の盛んに研究せらるゝに伴うて、通俗教育は其解決の一手段となつたのである。隨つて歐米諸國の通俗教育は、一面から見ると、恰も勞働者教育たるが如きの觀がある。それで國に依つては、所謂通俗教育の勃興するのを、內心は甚だ之を喜ばぬ政府もある。

それから此通俗教育の動機と云ふものも亦樣々である。多くは先覺者の主唱で、特に勞働者等の位置を高むる爲に之を興したものであるも、中には先覺者の主唱を待たず、勞働者自から進んで之を經營するものもある。或は政黨が自己の勢力を扶植せんが爲に之を企てたものもある。或は教會が其信仰を維

持せんが爲に之を創めたものもある。或は教育家が其教育上の主義を宣布せんが爲に之を計畫したものもある。又或は政府が自から進んで、其國是を遂行する一手段として、之を大規模に勵行するものもある。而して其相手は、此最後のものと、其外の二三が特に青年の爲にする外は、多くは年齢を問はず、寧ろ中等社會以下のもの、卽ち就中勞働者である。

次の一篇は、自分が嘗て國定國語讀本の資料として起稿した「歐米通俗教育の一斑」と題するもので、讀者の爲に、豫め歐米通俗教育の大體を知るの便宜を與ふるものと信ずるから、之を玆に掲ぐる。

歐米諸國に於ては今や學校教育のみを以て足れりとせず、更に進んで圖書館の設置、講演の開催並に娯樂運動の設備等を奬勵し、以て凡そ小學校卒業後

正式に學校教育を受くる能はざるものゝ爲に一種自由の教育を施す。之を名けて通俗教育といふ。

圖書館は最も北亞米利加に盛んなり。就中ボストン、ニューヨーク、シカゴ等に於ては圖書館は啻によく普及せるのみならず、其目錄の調製、貸附の方法等亦善く工夫せられたり。加之、別に講堂を備へ、講演と相俟ちて圖書の活用を圖れるものも少からず、元來米人は最も多く讀書する國民と稱す。「圖書館の利用」は既に之を小學校の課程に加へて、此年頃よりして早く讀書の習慣を養成せんとす。かくて圖書館は小學校と同じく、市町村の公課に依りて設立せられたるもの少しとせず。北亞米利加に次ぎて圖書館の善く發達せるは英吉利にして、歐洲大陸の諸國は以上の二國に比すれば稍〻遜色あるを免れず。然れども今や謂ゆる圖書館運動は到る處盛んに行はれて、公私の圖書館競ひ起り、或は特に兵營、病院の爲にするものあり、或は特に兒童、勞働者の爲にするものあり。國民讀書の趣味は年を追うて益〻普及するを見るなり。

講演は英吉利の大學通俗講演を以て其最とす。ケンブリッヂ、オクスフォル

ド及び倫敦等の大學は久しき以前より、國内各地に於て大學以外のものゝ爲に、諸般の學科に關して平易通俗の講演を爲せり。講演には短期のものと長期のものとあり。短期のものに依りて聽衆の講演に對する興味を振作し、長期のものに依りて之をして更に進んで組織的研究を爲さしむ。大概一週一時間の講演にして、講演梗概を與へて聽衆をして豫め講演の經路と目的とを知らしめ、又講師聽衆相互の交際を親密にし、質問應答に依りて聽衆の領會を十分にせんことを期し、之が爲に講演の前後に約一時間の問答を爲し、また聽衆より答案を徵して之を批評訂正す。特に講演梗概の適否は講演の成績と至大の關係を有するが故に、其選定は此事業の秘訣として講師の最も苦心する所なりといふ。講演の終りには聽衆に試驗を施し、其成績に依りて修了證を授くるの外、また規定の期間、規定の學科を修了したるものには、大學在學生又は大學卒業生と略同一なる資格を與ふるの制あり。英吉利の大學通俗講演は北亞米利加を始め歐洲大陸諸國も漸次之を學び、特に維納大學のそれは政府事業にして其組織の整頓を以て大陸に名あり。中には之を常設の事業として大學に代用するものあり。ホンブルグの通俗講演館は則ち其一例なり。

右の外、大學の教授、學生進んで市の貧民區に移居し、親しく貧民の子弟と交際し、或は之が爲に講話し、或はこれと運動遊戯を共にし、是に依りて貧民の子弟を感化し、兼ねて自から其事情を研究せんとする一種の組織あり。倫敦の「トインビー會館」は則ち其最も古くして、且最も著名なる者なり。英吉利の大學學生は學業の餘暇かゝる事業に從事するを以て、紳士の資格を全うする所以となし爭ふて之に赴く。此組織も亦多く歐米諸國に學ばれ、就中維納の平民館は其事業成績共に最も顯著にして、今は殆んど出藍の稱あり。其他大學學生が青年勞働者の爲にする教育事業も到る處に存するも、學生の之に對する態度は尚未だ英吉利の其れの如くに眞摯ならざるが如し。

通俗教育の目的を有する娯樂の施設に關しては、倫敦の「平民殿堂」、アムステルダムの「我等の家」等は最も世に知られたるものにして、二者共に建築壯大にして、其設備も亦善く完全せり。講演教授を施すの外、演劇奏樂等を開催し、主

として勞働者に慰安を與へ、其品性の向上を圖る。伯林及び維納に「自由劇場」なるものあり。會員組織にして高尚なる演劇を廉價にて觀せしむるを以て其目的とす。此外之に類似の協會他の市にも多く存す。王立市立等の劇場もまた、一定の期間に於て、勞働者に割引觀劇の便を與ふるもの少からず。音樂を通俗敎育に使用すること亦甚だ盛んに行はる。第一流の名人亦進んで勞働者の爲に其妙技を演ずることを吝まず。要するに藝術的娯樂を與へて情性の涵養を圖るは、歐米諸國の通俗敎育に通有する一施設なり。

運動遊戲は歐米諸國に在りては學校生徒の專有に屬せず、男女、貴賤、老若を問はず、國民擧りて之を好めり。特に近時は室内籠居の惰風を斥けて、大に戸外の運動遊戲を奬勵するの必要一般に認められ、通俗敎育亦之を以て其事業の一となすに至れり。隨つて市内郊外に於ける運動遊戲の設備到らざる所なく、年々之が爲に投ずる公私經費の支出も亦頗ぶる巨額に上れり。

前述の如く通俗敎育の事業中には、官公の設置に係るものなきにあらざるも、其主たる經營者は各種の私立團體なり。伯林の「民育普及會」は歐洲大陸に

於ては最も古き歷史を有し、且其事業の範圍も亦頗ぶる廣汎なり。朝野知名の人々を以て其幹部を組織し、獨逸全國に散在する幾多同一目的の團體を糾合して其會員となし、盛んに活動して通俗敎育の普及を圖れり。巡廻文庫、出張講演は其主たる事業にして、近時は又一劇場と交渉して巡廻演劇を行ふ。此他、尚機關雜誌「民育」の外、多く通俗敎育の施設に關する有益なる小冊子を出版して、當事者の爲に極めて懇切なる指導を爲す。「維納民育協會」も亦世に盛名あり。其事業は略ゝ「民育普及會」に同じ。但民育協會は直接に其會員の爲に事業を經營し、特に重きを通俗圖書館の普及に置く。今や此會は既に市内に十餘の圖書館を有するも、尚將來に於ては更にこれを增加せんことを計畫せり。會の組織は會員本位にして、幹部は一切會員總會の選擧に係り、寄附金の募集を始め、會の事務は悉く會員中の篤志者自から進んで之を處辨す。中には晝間の疲勞未だ癒へざるに夜間又圖書館に赴きて、其事務を佐くる勞働者の會員も少からずといふ。又ニューヨーク州の「チャトカ講演」もそのチャトカ湖畔に於ける夏期講習會の盛大なるを以て廣く世に知らる。平生寂寞たる僻村

も、講習の時期に入れば四方より男女の聽衆雲聚して、忽ち殷賑の巷となる。講演は總ての學科に渉れども、特に重きを宗教教育に關するものに置く。其他娯樂遊戯の具も亦善く整備し、新知舊交打混じて學業の餘間に交歡其樂し、これに依りて間接に好個の薫化を品性上に授くること少からず。又此會は右の講習の外に盛んに通信教授の業を營み、倫敦の「國民私宅講習會」と對峙して、この事業に於ける東西の巨擘と稱す。巴里の「好工協會」も亦頗る盛大に通俗教育の事業を經營し、市の内外各處の學校に於て種々の講演を開催す。而かも比較的語學を重んずるの外、別に取立てゝ言ふべき著しき特色を有せず。以上は歐米諸國に於ける通俗教育を目的とする私立團體の最も顯者なるものにして、其規模の小なるものに至りては、殆んど之を枚擧するに遑あらず。

概して言へば、通俗教育は特に都會に盛んにして、地方は尚未だ多く其恵に浴せざるが如し。但し丁抹に於ては事情全く之と相反す。此國には地方到る處に「平民大學」と稱する素朴なる講習所の設置あり。其規模及び程度は區々にして一定せざれども、就れも皆主として國文國史を授けて、農民の思想品

格を高尚にせんことを以て其目的とす。大概冬季夏季の二期に學校を開き、生徒は之を寄宿舍に收容す。又講演の外、運動會、討論會等を催し、之をして成るべく任意の修養に勵ましむ。此平民大學の特色は、其智育よりも體育德育を重んずる點にあり。特に熱誠なる講師の「生きたる言語」に依りて直接に聽衆の品性を陶冶せんとするは、此學校の開祖たるグンドウィグの遺意にして、此學校の生命は則ち此遺意の傳承に在りと稱す。蓋爾たる群島國にして農業を以て國本を培養し、政治家、學者、詩人いづれも多く農村より出で、樸實重厚の氣風上下に充滿す。其由る所を繹ぬれば、實に此平民大學の教育に負ふ所少しとせざるなり。

通俗教育の中には、特に或る年齡の青年の爲に施設するものあり。小學校卒業後兵役に就く迄の間には青年の邪徑に迷入るもの最も多し。此弊を救はんが爲に一種の通俗教育起れり。之を名けて「青年教養」と云ふ。此事も亦普ねく歐米諸國に行はるゝも、就中普魯西に於て最も善く發達せり。普魯西政府は、近時一般生活狀態の激變に伴ひ青年子女の道德の漸く頽敗するを憂

ひ、巨額の國費を支出し、力を盡して之が救濟を圖れり。同政府は曩に地方長官に訓令して、官吏、公吏、教員は言ふまでもなく、僧侶、醫師、辯護士等凡て地方知名の人々の互に協心戮力して、所在青年の教養に努めんことを希望し、同時に其方法として青年集會所、青年圖書館を設け、運動遊戯を奬勵し、及び其設備を整へ、講演會を開き、修學旅行を催し、並に博物館を參觀し、名所舊蹟を探る等の事を詳論して、事業經營者の參考に資せり。此熱心なる政府の奬勵は普魯西は勿論、獨逸全國到る處に反響を起し、青年教養の必要は忽ちにして擧國一致の輿論となれり。かくて今は首府伯林に「青年獨逸」と稱する一大協會起り、獨逸全國に散在する青年教養に關する大小の團體を聯合し、前記の方法に準據して大に獨逸青年の氣風を振勵せんとす。會長は文武兼備の稱あるゴルッ元帥にして、其外文武知名の士多く其中央地方の局に當り、凡て十四歳以上二十歳以下の獨逸の青年にして學籍に在らざるものを網羅して、之に一定の規律的訓練を施さんことを期す。其規模の大にして又其抱負の高き、眞に欽羨に堪へざるものあるなり。

右は勿論、歐米通俗教育の輪廓に觸れたに過ぎない、其詳しい内容は次の各條の下に述べてある。

最後に尚一言して置きたきは、通俗教育は學校教育の如く國の法規に檢束せられず、全然自由に發達したものであるから、其中には關係者の要求が遺憾なく實現されて居る。それで之を見ると、歐米諸國の多數國民、就中其下層社會の教育に對する希望が最も明白に解かる。勿論、此希望は一々首肯し難い者ではあるが、併し歐米近時の大勢は漸次此希望の幾分を容れざるを得ない境遇にあるから、見樣に依ては通俗教育こそ却て歐米教育の將來を指導するものと言はれないでもない。歐米諸國の通俗教育と其學校教育との關係は、一寸我國の私立學校と官公立學校との關係に似た處がある。放膽なる私立學校が小心な

る官公立學校に對して、毎に新なる刺撃を與ふるやうに、歐米特に歐洲諸國では、進歩的なる通俗教育が保守的なる學校教育の爲に、斷えず新しい方針を示して居るやうである。それで歐米教育を極く廣い意味に於て善く其眞相を領會せんと欲する者は、必ず此通俗教育の研究を怠つてはならぬと思ふ。其學校教育を法規の上からばかり調査するのは、恰も人の家を唯表玄關から覗いて、勝手口からの出入を爲さぬやうなもので、到底其國の本當な教育事情は分かるものでない。それで自分は此調査をいつも此勝手口からの觀察の積りで行つたのであるが、尤も其の成績は、必しも皆我國に採用すべきものとは信じない。併しいづれにしても歐米教育の眞相を領會する爲には、多少の參考にはなるであらうと思ふ。

歐米通俗教育の實際

目次

第一　維納市の通俗教育……一
一　維納民育協會……一
二　中央圖書館協會……六
三　大學通俗講演會……七
四　平民館……四
五　自由平民劇場……五
六　ウラーニア附民育聯合會……六
七　結論……七
第二　伯林市の通俗教育……七
一　伯林の大學通俗講演……七

二　自由大學……七
三　フンボルト・アカデミー及びレッシング大學……八一
四　海洋學館及び高等商業學校の講演……八七
五　ウラーニア及びトレブトー天文臺……八九
六　學生勞働者講習……九六
七　通俗圖書館及び博物館の案内……一〇〇
八　自由平民劇場及び其他の通俗興行……一〇七
九　各種の平民娯樂事業……一一六
第三　獨逸に於ける最も著名なる民育機關……一二三
一　民育普及會……一二三
二　ライン・マイン民育聯合會……一四六
三　聖ボロモイス協會……一五四
四　ハンブルグの講演館……一六〇

第四　獨逸に於ける俗惡文學の跋扈並に其取締法……一六七
第五　獨逸に於ける俗惡フィルムの跋扈と其取締法……一七九
第六　獨逸及び瑞西に於ける良書出版及び普及法……一九五
（公益事業としての圖書刊行）
一　獨逸青年讀物委員聯合會……二〇八
二　瑞西の良書出版會……二二五
三　獨逸詩人記念會……二六一
第七　青年獨逸……二六七
（獨逸の青年元氣振興策）
第八　獨逸農村の敎化事業……二九二
（獨逸地方幸福及び鄉土保護協會）
第九　ドレスデンに於ける民福協會の事業……三一六
（平民娯樂及び平民親睦會）

第一〇　カール・ツァイス財團法人とエーナ市……三三一
（營利的事業と公益事業との一致）
第一一　平民娯樂事業の實際的施設……三五三
第一二　獨逸劇場の組織並に其保護監督に就いて……三七六
第一三　丁抹の平民大學（平民高等學校）……四三三
附　瑞典那威に於ける通俗教育
第一四　倫敦大學擴張講演……四七一
第一五　トインビー・ホール（倫敦に於けるセットルメント）……四八九
附　平民殿堂
第一六　英國に於ける勞働者教育……五一二
一　勞働者學校……五一二
二　ラスキン學校……五二九
三　勞働者教育協會……五三三

第一七　佛蘭西の通俗教育……五五四
第一八　北米合衆國の通俗教育一般……五六九
一　公立夜學校……五七〇
二　中學夜學校……五七三
三　紐育市の通俗講演……五七四
四　通俗圖書館……五七八
五　ソーシャル・セットルメント……五八八
六　看護婦セットルメント……五九五
七　チャトカ講演……五九九
八　大學通俗講演會……六〇三
九　クーパー・ユニオン學館及びカーネギー學館……六〇六
一〇　紐育慈善學校……六一五
一一　國民教育會と公共教育會……六一七

目次

附錄　社會黨の通俗教育……六三
一　維納に於ける社會黨及び勞働者同業組合の教育事業……六三
二　伯林に於ける社會黨及び勞働者同業組合の教育事業……六三
三　獨逸社會黨の學校教育に關する意見……六四

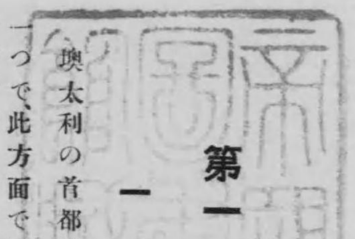
終

歐米通俗教育の實際

湯原元一著

第一　維納市の通俗教育

一　維納民育協會



墺太利の首都維納に於ける通俗教育の施設と云へば、今日は西洋でも評判物の一つで、此方面では模範的のものだと呼ばれて居る。其特色を言へば、第一に各種の同一目的を有する種々の會の間には巧に聯絡が付いて居て、其間に能く重複又は衝突を避けてある事。次にすべての會に於て、會員は其會を以て自分のものとして責任を負ひ多くの場合は自治であつて役員も會員が之を選擧し、就中會員中の勞働者迄が自分の會の爲に獻身的に力を盡すことである。いづれの國にも今日は無論多少通俗教育の施設はあるが、其會と會との間の聯絡はどうも甘く行つ

*Wiener Volksbildungsverein.

て居らぬ。例へば後に述ぶる伯林市の通俗教育に關する施設の如きも、各會任意の方向をとつて、相互の間に聯絡がない。一部の人は此缺點を矯正しようとつとめて居るが、容易に其目的は達しられさうにもない。

維納民育館

維納の通俗教育機關として先づ第一に擧ぐべきは「維納民育協會」である。之はもと下墺太利州民育協會の支部として設けられたものであるが、其後、今から二十年前(一八九三年)に之から分離して獨立したのである。當初は誠に微々たるものであつたが、近來は大に發展して、本部の建物「民育館」の如きも、或篤志者から多額の寄附を得て之が建築に着手し、今日は既に三十萬クローネ以上を費して宏大なるものを建てゝ居る、(第五區マルガレーテン街)此建築の際に早くも前に申した會と會との好い聯絡を見るに足る事實があつた。それは此建築には固より右の寄附金丈では足りぬ。會員一同も大に他に寄附金を集めたが、第一に聲援を與へたのが、本會より以前に成立して居る後に話す「平民館」で、館は七萬五千クローネの金を貸して呉れた。さて此新建築の内には八百人を容るゝに足る大講堂があつて、又其中には優に五十人一組のオーケストラを置くを得る舞臺も設けてある。尚他に普通教室三つ、閲覧室及び圖書室各一つあつて、又多少の標本、器械等をも備附けてある。其中には前の多額の寄附をした篤志家――此人はフォン・アッセンバッハといつて地方裁判所の判事であつて動物採集が好きであつた――の寄附に係る動物の標本が澤山にある。但し事務所は今日では尚此建物とは離れた下墺太利民育聯合會の事務所と一緒になつて居る。

此協會は會員組織を本體となし、男女年齢を問はず、年額二クローネを納める者は誰れでも會員となることが出來る。會員は集會に出席し、圖書を閲覧し、講演を聽き、又役員を選擧し、又自らも役員に選擧せらるゝ等の權利を有し、其組織は凡て

平民的である。會務を處理する爲に會員の選舉に係る幹部（アヂアスタンド）があつて、三箇年の任期で、二十四名を定員とし、二箇年目毎に其三分の一宛抽籤を以て退職させ、其後任者を新に選舉する。其他幹部には各區の支部よりの代表員も役員として之に加はることになつて居る。維納は二十一區に分れて居るが、近來は其各區に支部を設けて、其區限りの事務はこゝで處理して居る。此協會の主なる事業は圖書館閲覧室の設置及び維持、並に通俗講演及び高尚なる娯樂事業であつて、其爲に幹部には圖書館委員と講演委員といふ二種の委員がある。其他普通の庶務は一人の書記があつて、之が一切を擔任して居る。

本協會の設置にかゝる通俗圖書館（レールリングスビブリオテー）は其數十三であるが、されば丈では維納市の各區に一つ宛の割合には ならない。けれども後に述べる「中央圖書館」が其支館を各處に設けて居る故、之を合すれば維納は各區に一つ以上の圖書館を有する勘定になる。本會の通俗圖書館は大小不同で小さいのは五千冊、大きいのは二萬五千冊位の圖書を藏して居る。本會は此通俗圖書館以外に尚種々なる圖書館を經營して居る。先づ徒弟圖書館（レールリングスハイム）といふのがあつて、維納徒弟館といふ徒弟の

集會所兼寄宿所に設けてある。而して其成績が良好であると云ふので、過般實業補習學校長會の意見に從つて、向後五箇年を期して尚四つを增加する豫定である。又勞働者圖書館とも名づく可きものがあつて、之は現皇帝フランツ・ヨゼーフ一世の記念の爲に設けた勞働者住宅の在る處と、國有鐵道の工夫の爲に建てた工夫住宅の在る處とに設けてある。又病院圖書館と云ふものがあつて、公立の病院の特に外科患者を收容する部分に設置して、其管理方を院長又は其病院內の助手などに依頼してある。又裁判所圖書館（ゲリヒツビブリオテー）と云ふものもある。之は地方裁判所の判事の意見によつて、青年の拘留者或は在監者等に讀ましむる目的で、維納の地方裁判所と、其他一箇處の區裁判所とに之を設けてある。又兵營圖書館（ガルニゾンビブリオテー）と云ふものもあつて、之は協會から陸軍大臣に交涉して、在營中の兵士に讀ましむる目的で維納及び其附近にある各種の兵營に設置してある。此外に尚溫泉場等の如き保養場にも圖書館を設け度いといふ計畫もあるが未だ實行には至らない。要するに本會が非常に注意して讀書の良習慣を人々につけさせようと努力して居ることは、これで十分に分かるであらう。

本會の希望では、言ふ迄もなく會員からは貸出料を取らない様にしたいが、何分會員の會費だけでは事業の經營が出來ないから、止むを得ず今日では一箇月二十ヘルラー又は一冊十ヘルラー位宛の割合を以て之を徴收して居る。元來維納の市廳は此事業に對して極めて冷淡で、初めの内は圖書館の敷地等も無料で貸附して置いたが、後になつては之を取上げたから、本會で支拂ふ借家料等も自然多額になつたので、已むを得ず斯樣に貸出料を取る事にしたのである。各處にある通俗圖書館の事務は小學校教員又は篤志の夫人等が之を助ける。中には終日の勞働をした後、圖書館に來て其事務を無報酬で助ける勞働者なども少くない。これは或圖書館の事であるが、此處に或門番の娘が助手として働いて居る。親爺の門番は毎晩缺かさず遣つて來て娘の手傳ひをする。而して此老爺中々の圖書館通で、而かも其處に來る借出人の趣味を能く知つて居つて、何某が來たら何の本を出して遣れと云ふ風で、チヤンと其人の希望に合ふやうに早速に取計つて遣る。これは固より一例であるが、總てこんな風で、本會の圖書館といふものは、一般に人氣が好い。特に勞働者間に人氣が好い。

備附圖書の重なるものは文學的のもの、卽ち小說旅行記等であつて、多くは唯娛樂を與へるものであつて、堅苦しいものは餘り備附けてない。此方面の圖書は前述の「中央圖書館」の方にある、又備附圖書の購入に關しては、會員の希望を聞き、成る可く其所望に應ずる仕組にして、會員は自由に其希望を申出る事が出來る。圖書目錄の如きも大に注意して拵へたもので、著明な書物の如きは活字の字體を別にして、檢出に容易ならしめ、又重なる著者の略傳をも附してある。其他圖書の選擇に就ては、それ〴〵閱覽者の相談に應じて遣るなど總て成る可く多く讀書する習慣を一般につくるやうに工夫をなして居る。但し此通俗圖書館は貸出を主とし、各人家に持歸つて讀む事になつて居るから閱覽室はない。閱覽室の必要は本會に於て夙に之を認めて居るが、到る處の圖書館に之を設ける事は經費の都合上許さないから、今日は其方に向ける金の幾分を以て努めて圖書の充實を圖る事にして居る。それでも本會が有つて居る一つの閱覽室がある。それは本會が其兄分である維納平民館と六、七年前に相談して、同館中に設置したものである。これも聯絡の善くついて居る一例である。此閱覽室は百四十二人分の座席を有し、同

館中の光線の工合の最も好い晴々とした一室を以て之に充てゝある。其中には内外の日刊新聞五十種、幷に内外雜誌二百八十種を備へ、又別に多少の書籍を備附けて、希望者には之も貸渡す仕組になつて居る。此閲覧室も平民館の會員以外の者からは、閲覧料として五ヘルラー許りを取立てる事にして居る。さて此閲覧料を取立てるに就いては、前述の如き經費上の關係の外に他の理由があるといふ事である。それは何であるかと云ふに、此事に關して嘗て本會から勞働者側の意見を徴したことがあつたが、其意見といふのが面白い。「吾々維納ッ兒は貧乏でも心は武士である。何の理由もなく他人より物を貰ふ事は好まない、寧ろ進んで善良なる事業を、相當の金を分擔して維持し發展せんことを好むものである。」との意見であつたから、本會に於ては之を採用した譯である。尚此理由の外に又一切貸出料なしに書物を讀む時は、自然濫讀に流るゝ弊もあるから、必ずしも經費上の都合からのみさうしたものではない。本會は平民館に閲覧室を設けて館の會員の便利を圖るから、其報酬として、平民館から年々三百クローネを支拂ふことになつて居る。併しこればかりの收入は何の足しにもならない。それから閲覧料を一

人五ヘルラー許り宛取立てたからと云つても、此れも殆んど手數倒れになる位のものである。本會は此閲覧室の爲に支出する金は一座席につき年々四十クローネの割合である。然るに之に對する閲覧料の收入は一座席につき年々九クローネの割合に過ぎないから、貸出料を徴收しないでも、全體の會計上から云へば左程の影響はない。然るにも拘らず之を取立つるのは、全く前述の理由に基づくものである。さて本會が此閲覧室を建つるに際しても亦一の美談がある。前に言つた如く、會の方では夙に此閲覧室を欲しいと思つて居たが、如何うも金が無いので困つて居る。或時其設立の話しが出た時、之を聞いた二人の勞働者は大に感激して、率先寄附金帳を工場や製造場の間に持廻つて、忽ちにして二千クローネ近くの金を集めて會に寄附したと云ふことである。

本協會の通俗圖書館は亦「中央圖書館」とも聯絡がよくついて居る。前述の如く通俗圖書館は文學的圖書を主として備附けて居るに對して、中央圖書館は自然科學に關する圖書に重きを置いて居る。故に通俗圖書館は中央圖書館に聯絡を求めて、其所藏の自然科學に關する圖書を融通して貰ふ事として、卽ち希望者があれ

ば、通俗圖書館から中央圖書館の書物を借出して、之を希望者に貸與するのである。無論之が爲には別に何等の手數料を要しない。總て通俗圖書館には其所の藏書目錄の外に中央圖書館の自然科學に關する目錄も備附けてある。かくて本會は中央圖書館に對して、圖書運搬費として年々千四百クローネを支拂ふ、而已ならず又新刊圖書の購入費として年額千クローネを支拂つて居る。中央圖書館で此金で買入れた圖書の所有權は固より本會に屬するのである。今日迄斯うして中央圖書館が通俗圖書館の爲に買入れた圖書の費用は總額二萬クローネ以上に上つて居る。これも維納の諸會が互に其長所を利用し合つて、其間に不利益の生じないやうに努めて居る實例の一つである。

本協會第二の事業は通俗講演である。通俗講演は毎年十一月から翌年三月末迄毎日曜日其他の休日に開催する。又之と同時に折り〳〵種々の音樂演奏會なども開く。講演は身分を問はず、男女を論ぜず誰れでも無料で聽講することが出來る。冬季の日曜日は維納では最も人の注意する日であつて、午後四時から五時の間には、所々に講演が開催され、會場には役人も來れば職工も來る。商人も來れば徒弟も來る。會場としては大學を初め中學校などを無料で貸附せられ、殊に平民館の如きも亦無料で其講堂を使用に供するのである。講演の種類は學問、技術の兩方面に亘つて居る。學問の方面では醫學、理化學、法學等に關するもの〻外、旅行談などもある。就中幻燈又は活動寫眞入りの講演には、他のもの〻殆んど二倍以上の聽講者がある。之に次いでは實物を示すもの又は實驗の伴ふものが評判が好い。此等の講演は年々の經驗に鑑みて、今日は眞に通俗の名に負かぬものとなつた。ヘルデルの言つた「學問は講義の方法如何によつて、之を沙漠にも將た又樂園にもなすものである。」との考へは、此會の最も注意する處であつて、彼の朗讀的講演の如きは效果ないものとして今日は一切之を止めた。講師は大學の敎授又は中學校の敎授であつて、其中には隨分世に名高い學者も少くない。講演の方法は、一回打切りのものと、*チクルースとて數回を一圓とするものとの二種がある。前者は多くは初めて講演をなす、云はゞ未開拓の地方に於てなすものであつて、後者は既に定まつた聽講者のある場所に於て行ふ方法であつて、毎日曜日に一回づつ二三回乃至十七八回に及んで始めて完結するものもある。西洋では概して此

*Zyklus.

種の短期講習に似たものが多くて、一回打切りのものは少い。此點は日本の通俗講演に於ても將來は大に學ぶべき事である。然らざれば通俗講演で以て纏つた知識を授けることは不可能である。

此講演は後に話すやうに現今凡そ二十箇所位に開いて、講演は百五十、聽講者は二萬人以上に達するが常である。嘗て本會で調査して見た處に依ると、當時十七箇年以上引續いて毎季講演に出席したものが十六人あつて、其外に六年以上引續いて出席したものが二十七人、以上之に準じて一年以上のものは百三十六人あつたといふことである。其中にはいろ〳〵な篤志者がある。八十歳の婆さんが四年間も引續いて出席したといふ珍談もある。或教授が此人を評して、此老婆が棺桶に足を入れながら尚修養を怠らぬのは、恰も千載不朽の著書を遺した天才の精神と同じであると言つたさうだが、實に其通りである。此外に聽講者の中には、中中感心すべきものが少くない。學術でも最も困難である微分、積分の講演の終りに、其試驗に應じたものに、小學校教員や、活版所の職工のやうなものもあつた。特に此講演の間接の消極的效能と云ふものは、元來日曜日には、別けて勞働者は兎角

酒色に近づいて過ちが多いものである。然るに此日曜日に而かも西洋では最も人の浮かれる冬季に於て、此講演が開かれて、此處に多くの勞働者が集つて、高尚な話しを聽くと云ふのは、實に此勞働者の爲に有益此上もなき施設と云はねばならぬと思ふ。

次に本會では以前英吉利の大學通俗講演（ユニヴァーシチー・エキステンション）に倣つて、日曜日講演の外に普通の日に、法文理の三科に就いて連續講義を企て、下埃太利州から少し許りの補助を得て、之を實施したが、日曜日以外には講師に相當の報酬をしなければならぬので、其經費の支出に困難があつて、之を繼續する事が出來ずして、遂に中止して了つた。併し此企ては後に話す維納大學の通俗講演の動機となつたので、其率先の功は決して沒すべからざるものである。

又本會では朗誦（レヂタチオン）及び音樂の演奏を殆んど冬季の毎日曜日に催して、有名なる維納の俳優や音樂者が無料で出演して、朗誦や演奏を聽かする。俳優中には王室劇場（ブルグテアー）附きの人も是れまでは之に加はつたが、近來其演技に對しては俳優養老基金を作る爲に一定の報酬を取立つることになつて、本會の資力では到底これは出來な

いから、これは追々無くなつて、今日では重に新進の藝術家が自己の廣告がてらに本會の事業を助くることになつた。其他此會では音樂の演奏も絶えず擧行するが、之に就いては、維納樂友會の管絃樂組合*が會の事業を賛成して、會員幷に會の圖書館を利用する人の爲に割引券を發行して、組合所屬の音樂堂で行ふ管絃樂を聽かせる。又一方に於ては本會員に對しては、特に王室劇場からも一定數の入場券を配付するが、其數は到底希望者の意を滿たすに足らず、加之、土曜日の晩の通俗物及び日曜日の晝興行のクラシック物のみに限つて入場券を出すのであるから、かたがた以て會員の滿足を買ふといふ譯には行かぬ。それで後に話すやうに、維納では他に此必要に應ずる爲に「自由平民劇場」といふものが設けてある。

此會が一九〇八年乃至同九年迄の冬季間(十一月から三月迄)十九の日曜日に擧行した講演百四十一、演奏三十八、朗誦三十七、合計二百十六であつて、出席者は三萬七千〇五十四人に達した。其中講演に出席したものが二萬〇六百六十二人(一回平均百四十七人)で、音樂演奏に出たものが一萬一千二百六十九人(一回平均二百九十七人)朗誦に出たものが五千百二十三人(一回平均百三十八人)の割合で、比較的演

* Orchesterverein der Gesellschaft der Musikfreunde.

奏會が最も盛んである。講演は無料であるが、演奏と朗誦とは三十ヘルラー程の入場料を取る。而して出席者の種類は中以下の社會に屬する丁稚、勞働者其他學生、下級官吏等である。

本會では過般三十萬クローネ以上を費して本館を新築した事は前に言つた通りであるが、以來は此本館に於ても平民館と同じく講演も演奏も行つて居る。加之、毎晩其數場で一時廢止した日曜日以外の繼續講義を再興して居る。併し此點に於ても平民館の事業と重複する事を避ける爲に多くは商店の傭人等を相手に普通學、語學等の數授をなし、又專門學術に關する講義をしても重に文科に限つて、理科に關する事は平民館に讓つて居る。平民館には理化學實驗室等もあつて、理科を數授するに都合よいが、此會の本館中にはまだ其設備が出來て居ない。併し他日之を擴張した場合には理科の方面にも着手する計畫である。尤も此處で催して居る繼續講義は後に話す大學通俗講演に比すると程度も低く、大に其趣を異にして居る。それから此會では此外にオッタクリングと云ふ勞働者町に裁縫料理の學校を設けて、勞働者の爲に特に實用的な數授を無料で施して居るが、これも

中々好成績で評判が好い。それから極最近始めた「自家の工場から」と云ふ特殊な講演がある。これは有名な學者、藝術家などに依頼して自己の經驗を話して貰ふのである。例へば「醫師の祕訣」とか「畫家に必要なる注意」とか云ふやうな題目に就いて、其人自身の經驗に依つて講話してもらふのである。即ち、樂屋内の實際談であるから聽講者には餘程面白いので、此企は就中好評を博して、以來一層之を盛んにすることになつて居る。

又本會では維納の市内に四つの區支部を有つて居る。支部の仕事は本會の主義を鼓吹して會員を募集し、また支部地方限りに講演、演奏等をなす事もあるが、多くは團體旅行を企てるのである。今日迄此支部で企てた旅行は非常に多い。初は日歸りのものであつたが、今日では瑞西、獨逸、伊太利方面に迄も行く。其費用なども成るべく少くする爲に豫め行先の旅宿等とも交渉して、普通の半額で出來るやうにしてある。のみならず資力少き者には月賦拂の便法も設けてある。又出發前に行先きの歷史、風俗、天然の形勢等を幻燈等によつて充分に說明して、然る後出發するのである。さて此旅行の起りと云ふものが頗る面白いのである。或時

一人の勞働者があつて、圖書館で或旅行記を讀んで、之に非常に興味を感じ、如何うかして、此樂しみを一般の會員と共にしたいものと考へ、他の一人の同志と相談し、會員一同を勸誘し、始めて之を企つるに至つたのが、抑其始めである。そこで此事業も矢張り本會の特色たる平民主義を發揮したもので、即ち上に立つ人の指導から出たのではなく、會員自身が其必要を感じて之を起したものである。

最後に本會の大凡の經濟狀態を述ぶれば歲出歲入共に約十二萬クローネである。歲入中の主なるものは會員費一萬九千クローネ、圖書館收入三萬七千クローネ、其他は下墺太利地方廳から二千四百クローネ、篤志者の寄附一萬三千三百八十クローネ等で、年々三萬乃至四萬クローネの不足を生ずるも、幸に時々多額の寄附金があるから、之を積立てて、之からそれを補ふことにして居る。

歲出の主なるものは圖書館費七萬七千クローネで、其他は講師、演奏者の謝金千二百六十クローネと會の雜費一萬八千二百クローネ位で、一切の役員は名譽職で、唯圖書館員と雇員とに多少の手當を給するに過ぎない。會員中の篤志者の獻身

的行爲は前に述べた通りであるが、此外にも講師、演奏者にして無報酬にて働くものもある。又新聞雜誌書籍を無代若くは割引を以て寄贈するものもある。更に又講演、演奏の場所も同樣無代若くは割引で貸與せらるゝのであるから、本會には別に目に見えぬ收入も多い。それで其事業も表面に現はれた金高以上に出て、大なる成績を擧げて居る譯である。以上は一九〇八年の計算であるが、最近一九一〇年の分も略同樣である。

二　中央圖書館協會[1]

(1)フエルアイン、チエントラールビブリオテーク

維納民育協會の主要なる事業は圖書館であるが、此圖書館は前述の如く其數も充分でないのみならず、其圖書も通俗的のものが多い。それで此缺を補ふ爲に他に此「中央圖書館」の必要があるのである。之はもと民育協會の圖書館員卽ち司書であつた人で、圖書館事業に熱心なるプロフェッソール・ドクトル・エドワード・ライヤーと云ふ人の熱心の結果出來たものである。[2] 此人はボンフォルトと云ふ人が嘗て主張した「圖書館員は學者で紳士で又實業家でなければならぬ。[3]」と云ふ理論を其

(2)Prof. Dr. Eduard Reyer.
(3)Bonfort.(1)Verein Zentralbibliothek.

事業に於て十分に實現したのである。始め其考へをグラーツで實行して好結果を見たので、維納に歸つて來て又此處でも之を實行したのである。これが今から凡そ十六年許り前(一八九七年)の事である。

初めは維納の或る横町の薄暗い陰氣な家を借りて之を創めて、誠に微々たるものであつたが、今は本館の外に支館二十三箇所に於て盛んに貸出しを行つて居る。此圖書館の特色とも見る可き點は之も亦善く他の圖書館と聯絡を保つて居る事である。此圖書館は「維納法政讀書會」の圖書館及び商業會議所の圖書館との聯絡がある、卽ち此協會の會員となるものは併せて此二つの圖書館の藏書を無料で借用する事を得るのである。而して此二つの圖書館の藏書は中央圖書館の目錄の中に掲載してある。かくして中央圖書館の方では法律經濟等に關する高價の圖書を金を出さずに利用する事が出來て、又此二つの圖書館に於ては其所藏の書籍を空しく死藏する不利益を免るゝといふ、謂ゆる一擧兩得の好結果になる。此他此協會と民育協會との關係は前に述べた通りである。元來ライヤーと云ふ人が維納に歸つて此事業を起さうとした時には、最初此民育協會で之を遣らせようと

*デア、ユリスチツセポリチツセ、レーゼフエルアイン

したのであつたが、其幹部が聽かないので、已むを得ず別に旗揚げをしたので、表面から見れば、此協會とは競爭者の位置に立つて居るやうであるが、併し實際は前に申すやうに中々能く調和がとれて居る。

本館には科學部、美文學部、音樂部、青年文學部の四部があるが、併し最も重きを置いて居るのは科學部である。科學の知識を充分に普及さするのが此協會の主なる目的であるけれども、初めから讀者の嗜好を顧みず此方の考へのみを以て餘り嚴格な選擇をなすと、却つて讀者をして圖書館から遠ざからせる結果に終るから、圖書の買入れは成るたけ一方に偏しないやうにする方針を採つて居る。併し貸出の圖書の三分の二は科學に關するものであるから、事實に於ては既に此目的を達して居ると云つても可い。此點に關しては圖書館の方でも多少の手加減は加へて居る。例へば貸出は美文學の本は十四日を限りとし、又科學の本は三十日を限りとし、又科學の本の上に美文學の本は貸出さないといふ風にして居る。かく此圖書館では科學の外美文學等に關する書籍も充分備附けてあるが、特に音樂に關係した圖書は最も豐富である。音樂に關する圖書の利用は巴里及びミュンヘンが世界で第一と世間では云つて居るが、實際は維納が一番多く、年々音譜の貸出は十萬冊以上に達して居る。

それから尚此外にも此圖書館の特色と云ふべきものが多少ある。第一に此圖書館の本館は三四年前から稍〻立派な建物に引越したが、それでも一般の圖書館と較ぶれば誠に粗末なもので、到底同日の論ではない。現今はステファンプラッツといふ雜沓の巷にあつて、恰も商店といふ見えの建物の中にある。それから支館の多數は純粹な店舖であつて、其硝子窓には新刊書などの上包を張附けて廣告してある處は、一寸普通の書籍店といふ格で、而かも之よりは概して立派でない。併し今日此支館の中で漸次專門的のものも出來て、例へば醫學、法學に關する書籍のみを貸出す處もあつて、特に學生などに便利を與へて居る。それから此圖書館は固より協會の所有ではあるが、其定款に於て管理を維納大學に依託してある。圖書の買入に關して大學の圖書館員の指圖を受けるのみならず、萬一當事者の經營にして定款に違背する場合には、大學は其必要に依つては此協會の事業を自ら經營し、又は之を維納市等に引繼がしむることが出來る權限を有つて居る。これは詰り

創立者が死んでも其精神が何時までも殘るやうにとの考へから出たものである。尙一つ此處の施設で目先きの變つて居る事は、會員には正會員と準會員とあつて、正會員は年に二クローネ以上を納むるもので、これが幹部の選擧もし、又それに選擧せらるゝのである。準會員は閲覽券を所有して居るものは皆それで、之は唯會合に列席して其希望を述ぶるだけの權利を有つて居るのみである。而して此者に對する待遇法は一種特別である。借出す圖書の種類に依つて其月極めの手數料が違ふ。例へば美文學ならば月一クローネであるが、科學であると月五十ヘルラーである。それから又地方によつてもそれが違ふ。場末の貧乏町では月十乃至三十ヘルラーであるに中央の金持の多く住んで居る處では月五十ヘルラーであるといふ風にしてある。それから此月極めの手數料の外に何人でも別に一冊につき二ヘルラーを出すことになつて居る。

それから前に申す如く此圖書館の外見は誠につまらぬものであるが、併し其事業の成績といふものは中々大なるものがある。一九〇九年中の總ての貸出數は約三百三十九萬九千二百八十一冊で、本館だけの毎日平均貸出數は五千冊に達して居る。而して貸出しに關しては多少取締的規定も設けて居るが、圖書の紛失などは極めて少く、六千乃至一萬冊の貸出しに對して僅かに一冊である。シカゴや伯林ではそれが五千冊に對して二冊の割合であるさうであるから、維納の方が餘程好成績である。

次に此協會の經濟狀態であるが、元來ライヤーの主義は圖書館は慈善事業にあらず、Library work is not philanthropy. と云ふにあつて、讀者自身の力で以て之を維持するを以て其原則としたいのであるが、此協會の會計を見れば、此主義が能く實行されて居る。一年の全收入が一九〇八年に約二十萬クローネで、其中約十六萬クローネ即ち收入の約九割は會員の會費並に貸出料である。其他政府から七百クローネ、市から三千クローネ、商業會議所から四百クローネ、前の民育協會から圖書運搬費として一千四百クローネを得、爾餘の寄附金を合せても、全收入の六分乃至七分に過ぎない。それで此圖書館といふものは、大體に於て會員自身の力に依て維持せられて居る。是等の點は我國民としては大に參考とすべき事であらうと思ふ。支出の中で最も多いのは俸給で、之は五十四人の女子の圖書館員と一人の

小使に仕拂ふもので、約五萬六千クローネである。其外は約四萬クローネの圖書買入費、一萬五千クローネの製本費並に二萬五千クローネの借家料位で、他は必要の諸雜費の少額で、此以外に俸給など貰つて居るものはない。但し此圖書館員を待遇するにつき、借出人の多少及び其執務の巧拙に依つて其手當の割增又は割減をすることがあるが、これもいろ〳〵話した特色と同じく創立者たるライヤーの言つた圖書館員は同時に實業家でなければならぬといふ考への一端と見るべきである。要するに此圖書館はライヤー一流の主義に據つて巧みに經營せられて居るので、其經費の割合には其擧げて居る成績といふものは非常に大なるものである。

此處に附帶して述ぶ可きは、維納に「通俗閲覽所」（ボフオルクスレーゼハレ）といふものがあることである。之は舊敎の宗敎家の設置に係り、宗敎上の敎育を目的とするもので、地方にも圖書館を有つて居るが、維納には本部の外に七箇所の閲覽所を設けて居る。誰れでも少許の閲覽料を出せば之を利用することが出來る。大體の仕組は略ゝ民育協會及び中央圖書館と同一であるが、但し圖書の選擇は宗敎家の見地から出るのであるから閲覽所備附の圖書は大概宗敎に關するもので、科學に關するものなどは殆んど缺乏して居る。其經費も前者よりは少く、約四萬クローネ內外に過ぎない。併し其仕事の割合には多額の公けの補助を受けて居る、卽ち市から一萬六百クローネ、下墺太利地方廳から二千クローネを得、其他は私人の寄附及び閲覽料等もあつて、經濟は比較的に豐かである。

以上の如く維納には通俗圖書館の設置が普及して居るが、今其年々貸出の冊數の大略を云へば、中央圖書館が首位を占めて、年々約三百四十萬冊、次には民育協會が二百萬冊近く、通俗閲覽所が約六十萬冊、總計約六百萬冊に達する。但し維納では二百四十頁を以て一冊と數へることになつて居るから、こゝの三冊は他國の約二冊として數ふべきものださうである。かく換算して見て、維納と他の圖書館の發達で名ある都市とを比較すれば左の通りである。

	人口	（貸出圖書館數）對する割合（人口一人に）
維納	二、一〇〇、〇〇〇人	三、八〇〇、〇〇〇冊 一・八冊
シカゴ	二、二〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇 一・〇一

倫敦	四、四〇〇、〇〇〇	一・四
巴里	二、七〇〇、〇〇〇	〇・六
伯林	二、一〇〇、〇〇〇	〇・六
ハンブルグ	八〇〇、〇〇〇	一・五
	六、〇〇〇、〇〇〇	一・四
	一、八〇〇、〇〇〇	〇・六
	一、五〇〇、〇〇〇	〇・六
	一、三〇〇、〇〇〇	一・五

右の割合であるから、一家族に對して一年間に維納は九冊、倫敦、ハンブルグは七冊、シカゴは五冊、巴里及び伯林は三冊の割合を以て配布さるゝ事となる。であるから維納市民は世界第一の讀書市民と云つても可い。卽ち維納の人が三冊讀み了る間に伯林や巴里の人はやつと一冊讀み了る割合である。しかも前に述べたやうに、此世界に稀なる成績は主として其關係市民自身の力で以て擧げて居るといふに至つては、誠に感服の至りである。維納市は一九〇三年卽ち今から十年前迄は中央圖書館に對してすら何等顧慮する所がなかつた。併し現今では前に言つたやうに、中央圖書館に三千クローネ、民育協會に千二百クローネ、通俗閲覽所に一萬六百クローネを補助して居る。それで市からは貸出百冊につき中央圖書館に七ヘルラー、民育協會に八ヘルラー、通俗閲覽所に百七十四ヘルラーを補助して

居る割合になる。市の此事業に對する補助は誠に少い。伯林では通俗圖書館の爲に一九〇八年には十六萬マークを支出し、ハンブルグでさへ七萬マークを支出して居る。而して維納では之が爲に總計で一萬四千二百クローネを支出するに過ぎぬ。而かも通俗閲覽所は宗教殊に舊教徒の設立に係るものであるから、之に對して前述の如く他とは比較にならぬ多額の補助を與へて居る。元來維納は舊教の盛んな處で、隨つて市役所は殆んど舊教徒を以て組織し、其專橫跋扈は一般市民の憤慨する所であつたが、今日では最近市會議員改選の結果、漸次其勢力を失墜しつゝあるやうであるが、併し右の一例を見ても、如何に市廳がこれまで偏頗な處置をなしたかゞ知らるゝであらう。維納に通俗教育の盛んになつた原因の一つは、市民の舊教徒及び其同類に對する不平であつて、下層社會特に勞働者の實力を高めて、以て舊教徒及び其同類の跋扈を抑へねばならぬと云ふ一種の反抗心から して今日の盛況を見るに至つたやうである。

三　大學通俗講演會

*フオルクスチユームリツヘ、ウニウエルジテートクルセ

前述の如く民育協會の繼續講義は費用の爲に失敗に終つたが、此事業の起るに先つて、既に維納大學私講師ドクトル・ハルトマン*と云ふ人があつて、豫てより英吉利の大學通俗講演（ユニヴアーシチー・エキステンション）に倣つて、大學通俗講演を試み度いと思つて居つたので、こゝに於て同大學の多數の助教授や教授の人々と謀つて――その中には世界に聞えた學者もあつた――連署して、其開設の必要を述べた請願書を大學評議員會に提出した。然る處、恰も此際私講師（プリヴートドチエント）の俸給を高める必要に就いて問題が起つて居て、而かもそれが容易に出來ないので困つて居たので、右の評議員會では此事業を起し、て、これで以て多少の收入を私講師に得させようとの考へからして、かた〳〵此請願書の趣旨を採用する事に決し、直に委員を設けてそれに關する規則を作つて、之を文部省に進達した。處が幸にして其同意を得て成功したのである。文部省は一八九五年即ち今から十八年前、時の議會に之に關する豫算一萬二千クローネを提出して、其協贊を得て茲に政府の補助を以て大學通俗講演を開催する事になつたのである。而してこれが歐洲大陸に於ける大學通俗講演の嚆矢である。而かも政府の事業として此事を行ふのは西洋にも餘り多くないやうである。

*Dr. Hartmann.

此大學通俗講演の目的は、維納及び其附近に通俗講演を開き、次で之を他の地方にも及ぼして、大學教育を受けないものに高等なる學術的教育を施すといふにある。此事業の爲には三箇年を任期とする十一名の委員が大學に設けてあつて、此委員には哲學（文理）科大學より二名其他の法學、醫學、神學の分科大學よりは各一名合せて五名を選出し、其他の四名の委員と其委員長及び副委員長は之を大學評議員會で任命する。會計は大學の會計に兼務させ、庶務は前述のドクトル・ハルトマンが之に當つて居る。講師は大學の教授、私講師、助手に限り、大學以外のものゝ講演に出るのは唯除外例としてある。而して之は維納大學通俗講演の一特色である。卽ちこゝでは同國一流の研究家若くは學者が講演の任に當つて、隨つて通俗講義に劣ることがない。爾餘の國では講師の資格は斯う高いものになつて居ないのである。中學校などの教員も講演を擔任する。殊に英吉利、亞米利加に於てはさうである。此點に於ては本場の英吉利よりも勝つて居る。

毎年四月に委員から廻狀が教授以下の人々に廻つて來る。講演を引受けようと

と欲する人は題目を選んで委員の手許迄回答する。委員は一面に於ては維納の勞働者同業組合の代表者等と常に聯絡を保つて講演の種類については其希望を聽くのである。此勞働者同業組合の希望と照し合せて、其年になす可き講演目錄を決定する。講演は毎年九月に始まつて翌年の三月に終る。卽ち七箇月に亙るのである。而して又之を六週間を一期として四期に分つ。卽ち第一期は九月乃至十月、第二期は十一月乃至十二月、第三期は一月乃至二月、第四期は二月乃至三月である。一期の講演が六晩より成り、毎晩七時半より九時二十五分頃まで、凡そ一時間半宛を以て常例として居る。此時間は維納には頗る不適當である。何故かと云へば維納では大概工場は六時又は七時、商店は八時に閉づることになつて居るから、七時半の開會は早過ぎる。然るに又維納では十時になると閉門料と云つて二十ヘルラーを取られるから、此開會を遲くすることは尙更不都合を生ずる。それで已むを得ず此時間に定めたのである。それから講演目錄が出來れば乃ち廣告に取りかゝる。廣告には中々重きを置き之が爲には可なり多くの費用を投ずる。講演開催の間際になると維納市の要所々々には大きな廣告を掲げて講演

(1) Das Wissen für Alle.
(2) Die Bildungsarbeit.

の題目、講師の姓名、講演の場所及び日割其他入場料——之は一期の一科目につき一クローネである——を一般に知らせる。此外委員は日刊新聞に講演の要領を書いた通信をするのみならず、大學私講師の機關雜誌「敎育事業には凡ての講演に關する完全なる目錄を發表する。其他の日刊新聞にも講演に關して其都度詳細に報道を怠らない。かくて講演開催中は自然一般の人氣が之に集るのである。

講演の爲には市から市廳の一部、市立學校の講堂等を無料で使用させ、其他大學の研究室、勞働者集會所(二つ)、平民館、民育協會等も進んで講演の場所を提供する。

講演は政府事業であるから、公平を主として、一切時事問題等を避けて、凡ての黨派の人が快く聽くことを得るやうに題目を選ぶ。經濟學中の勞働者と資本家との紛爭の原因となる部分の如きは之を講演しないことにしてある。又普通學科の講演は民育協會、平民館又は勞働者敎育協會の仕事に一任して、此處ではしない。此處では唯專門の學科に就いて通俗の講演をなすのみである。又一回限りの講演も同じく前の諸會に一任して、此處では唯繼續的講演のみを行ふ。而かも此繼

續的講演はその期内に於て内容上の聯絡があるばかりでなく、時としては次期の講演と内容上の聯絡を保つて、事實一期以上に亙る講演であることも多い。例へば解剖學の講演で第一期に於て呼吸器の話を爲し、次の第二、第三、第四期に於て循環器、腦・脊髓、感覺器といふ風に講演を續けて、一期だけでも一通りの知識は得らるるも、更に數期に亙つて遂に解剖學全體に關する知識を得らるゝといふ仕組になつて居るものもある。而かも此繼續的講演といふものが、次第に盛んになつて來て、今日では六週間、即ち一期で終るものよりは二期、三期、四期と繼續するものが多く、中には更に翌年度、翌々年度即ち三箇年も繼續する長い講演をもなす事も少くない。而して之は此通俗講演の教育上の成績と非常に大關係を有するもので斯樣な繼續的講演を聽くものが多くなればなる程、それは此講演は成功した譯で、又かくして初めて大學通俗講演といふ其名に背かぬものになる譯である。今試みに其一例を擧ぐれば、一八九五年乃至同六年にかけての講演は二期以上のもの十七あつて、一期限りのもの四十一合せて五十九であつた。然るに一九〇八年乃至同九年に至つては、二期以上のもの七十七、一期限りのもの十七、合せて九十四となつた。凡て講演の數も增加したが、特に著しく目に著くのは長期講演が十七から七十七となつた事である。前に其數が全講演の三割であつたものが、近頃では八割二分にも增加して居る。

又講演の題目の選擇法にも能く注意して、頗る其宜しきを得て居る。講演の範圍は大學の授業と同じく法、醫、文、理の各領分に觸るゝのみならず、其題目を日常生活とよく關係をつけて、何人にも必要で、又興味あるやうに巧に選定してある。例へば法律では「毎日の法律(權利)問題」とか、醫學では「食物及び其贋造」とか、文學では「日常生活の心理學」とか、理科では「レントゲンの光線」とかいふ風に、一寸其題目を見ても誰でも之を聽いてみたい氣になるやうな種類のものを選擇してある。又聽講者の方で、講演を聽き流しにしないやうに、之が爲にも頗る能く注意を加へてある。即ち聽講者には、必ず講演要目(二十ヘルラー)を買はする。而して之は簡單なる所謂目錄ではなく、英吉利の「講演綱要(ネシツバス)」に倣つて、講演の内容の梗概を記載したものである。聽講者は之を一覽して豫め將に聽かんとする講演の概要を知ることが出來る。此外又一回の講演毎に其終りに試驗問題と必要な參考書とを掲げて質問

*Syllabus

自修の便宜を圖つてある。又講演の方法に關しても、大に注意してある。之に就いては、大學の通俗講演委員から、講演者に頒つて居る注意書がある。此注意書は親切丁寧を極めたもので、今其要點を述ぶれば、講演をして實際有效ならしめんとならば、第一に講演は明白であつて曖昧ではならぬ。講演者は聽講者に對しては、其題目に關する豫備的知識を過大に豫期してはならぬ。出來得る限り術語、外國語を用ひないようにするを要する。又講演は聽講者の日常生活と聯關せしむるが可い。聽講者の多數は中學校の生徒よりは經驗に於ては勝るとも、理論的知識に於ては劣れるものと見れば大差ない。講演は如何に巧妙でも抽象的では可くない、成る可く直觀に訴ふる事を勤めねばならぬ。普通の談話口調を以てし、演說口調を避る事が必要である。之は聽講者と講師との間に精神上の接觸を期する爲にも必要な事である。講師は常に聽講者が自己の考案に從つて追付いて來るやうに心を用ひねばならぬ。而して之が爲には第一に講義がよく論理に合つて、且又用語が明晰でなければならぬ。加之、講師は常に其聽講者をして達せしめんとする目的を眼中から失はぬやうにせねばならぬ。此目的と關係ない事柄を多く並べ立てゝ、聽講者の心を橫路に外れさするのは可くない。朗讀演說の如きは徒に聽講者を苦しめるのみで、何等教育上の效力はない。又講師と聽講者との間に親密な關係を附けん爲には、講演が一時間半のものならば、常に其終りの三十分は講演に就いての質問應答の爲に費すが可い。尙此際講師は勉めて聽講者をして遠慮なく質問せしむる樣に仕向くる必要がある。其他、問題に對する答案等も必ず提出せしむるやうにすべきである。要するに一度講演した事項は必ず聽講者をして能く之を咀嚼せしめて、之を動機として更に獨立研究をさせるやうに注意を加ふる事が必要である。又講師は聽講者と親しく交際して、其個人性を知つて、夫々に適切なる指導をなさねばならぬ。講演の效果の有無は講演の巧拙に關するのみならず、聽講者の信賴を得ると否とに大なる關係がある。大學通俗講演の如き自由の教育に於ては、特に然りである。聽講者の講師に對する信賴は實に此教育の基礎となるものであるから、講師は最も此信賴を得る樣に注意することを要する。又事柄によつては、實驗をなし、或は標本を示し、又幻燈、活動寫眞等を用ひて直觀的に教ふる事を要する。之が爲には標本も器械も之を委員の方で必要

だけ買入れて其使用に供する。又古代史、藝術史、乃至天文學等の講演に際しては、博物館、天文臺等に聽講者を伴つて、實地について指示し、又音樂史の講演の際にはピアノを用ひ、又は合唱を利用して之を說明するが可い云々。これが委員から講師に宛てた注意書の大要である。

右の如き注意に基いて、近來行ふ講演には成るべく多く幻燈、活動寫眞等を用ふるのみならず、實驗をなし、標本を示し、又は見學（デスクツシオン）をなさする。此見學といふは巡廻（ワンデル）教授（クールス）とも云つて、言語と實際との雙方を結合したもの、卽ち實物を見つゝ講演を聽き、講演を聽きつゝ實物を見るもので、之も近來は盛んに行はるゝやうになつた。主として文明史乃至自然科學卽ち地理、礦物、植物、地質等に關しては、聽講者を引率して、實物又は實地に就いて講演を行ふ。例へば「墺太利に於ける羅馬人」と題する講演では、昔の羅馬人の古跡を研究し、又「墺太利の中世紀の僧庵」といふ題目の下では、其僧庵の古跡に就きて見學し、又斯く〳〵の處の地質、地層、植物の分布などいふ題の場合には、之も其處の實地に行つて見て之を研究するといふ風にする。かうなると啻に實驗上の知識を得るのみならず、近來歐洲で盛んに唱へらるゝ鄕土保（ハイマートシュ）

護（ツツ）の思想を助長する一因ともなる。

尙又講演を有效ならしむる爲には、其場所に講演文庫（クールスビブリオテーク）と名付けて、其講演に關係ある圖書を備附ける。此事については、前の中央圖書館と民育協會とが大に盡力して呉れる。卽ち講演に關係ある圖書を其講演の場所に持出して備附けて呉れる。就中、民育協會では講演に關係ある書物を聽講者に其場に於て貸與する。例へば、若しゲーテのファウストの講演があれば、此ファウストを聽講者の全部に分配する。尙民育協會では此目的を以て現に小さな巡廻文庫を多數作つて、講演關係の圖書を取揃えて之を其場所々々に送る計畫を立てゝ、地方に於ける通俗講演の場合でも、其注文があれば直ぐに之を其地迄送つて遣る事にして居る。又講演の後に三十分位の問答をなす事に止つて居るが、これ丈では無論足らぬから、別に聽講者をして更に進んで獨立自修をなさしむる必要がある。併しそれには講演の場所に其設備が缺けて居る。で、此目的を達する爲には、前の平民館が進んで其便宜を與ふることになつて居る。卽ちこゝには化學の實驗室があつて二十人分の席が設けてある。其他物理室、顯微鏡室等もあつて、之に就いて實驗も練習も相

當に出來る。其他また經濟、法律、歷史、哲學、心理學等につきての研究も亦相當に出來る設備がしてある。そこでこゝは右聽講者中の篤志者が集つて來て、種々なる事項について獨立研究をなして居る。多くは工場に出る職工などであるが、之が此處に來て理化學の實驗をなし、又は經濟學上の問題などを研究するのである。中には立派な論文などを書いて公にする卓越した人物もある。勿論實驗其他研究には之を指導する教師が囑託してある。又志望者には三期に亙る繼續的講演を聽いた上ならば試驗を施して其學力を證明して遣る規定も設けてある。併しこれは此講演の重なる目的では無いことは云ふまでもない。

今日迄、各種學科の講師の報告によれば、聽講者の講義を了解する程度は豫想外に良好であつて、其中には大學の學生にも劣らざるものも少くない。此講演が本となつて、中學校の卒業試驗を受け、進んで大學に哲學を學び、遂にドクトルの學位を得、更に教員檢定試驗に合格して、今は高等女學校に立派な教員となつて居る人などもある。其他此講演を聽いて工場の技師などになつたものは非常に多い。又其位置には格別變動はなくとも、此講演を聽いた爲に、其技術上に大なる進歩をなし、その結果收入の上に於て利益を得たものは比々皆然りと云ふべき有樣で、要するに此講演を聽いたものは誰でも之に對して滿足の意を表して居るといふことである。

又此講演は規程によつて地方にも之を開催するが、此場合には其地元に於て一切其費用を負擔する事になつて居る。而して此地方の講演も大抵大入りである。併し稀には農民のみ集るであらうと豫想して行つたのに、職工のみ集つて、講師も爲に面喰つたと云ふ事もあつたので、今日では地方に委員を設け、之には種々なる方面から、例へば學校教員、役場吏員、勞働者等を擧げて豫め開催の準備を研究して置く事にしてある。今日迄の經驗によれば、地方に始めて講演をなす場合には、其講演は成るべく廣い一般的なものが適して、特殊にして餘り專門的なるものは可くない。「宇宙の構造」とか、「地球の歷史」とか、「人類の起源」とかいふ如き素人でも一寸注意を惹き易く、且一般誰でも聽いて見たいと思ふものが可いと云ふ事である。それから愈一定の聽講者が出來ると、そこで前に云つたやうな繼續的な講演に移る。而して之が持續して行はれると、茲に始めて大學通俗講演の教育的效果が現

(4)Lemberg (1)Innsburg
(5)Prag (2)Graz
(6)Chernowiz (3)Brünn

はるゝのである。

最後に此講演の大體の景況を云へば、一九〇七年冬期には、全獨逸國で擧行した大學通俗講演の數は百五で、其時間數が五百九十六であつたのに對して、維納大學のみで同年に行つた講演が其數百十四で、其時間の數が六百八十四になつて居る。これで以て其盛況のほどを推測し得るであらう。墺太利では維納大學の通俗講演の成績がかく良好であるから、近來は其例に倣つてインスブルグ(1)、グラーツ(2)、ブリュン(3)、レンベルグ(4)、プラーグ(5)及びチェルノウイッツ(6)等の大學に於ても、孰れも相競うて此通俗講演を擧行することになつた。

會計は年々の收入五萬クローネで、其中政府の補助が一萬六千クローネ、下墺太利地方廳の補助が二千クローネ、講演地元町村の補助が五、六千クローネ許りである。其他聽講券の收入については一講演に對し一期一クローネであるが、勞働者には割引をするから平均一人六十二ヘルラー位に過ぎない。毎年の聽講者は約二萬人であるから、此收入は約一萬二千クローネである。されば聽講券の收入は全收入の小部分を占むるに過ぎないが、併しそれでも聽講料を徴收する理由は、不

熱心の徒の素見半分に來聽することを防ぐ爲に外ならぬ。其他不足の分は篤志の人の寄附で以て之を補うて居る。中に或大學教授の如きは、創立當時から年々二千クローネ宛引續いて寄附して居る。支出の大部分は私講師たる講師の手當で、之が一人一期分百八十クローネ、卽ち一回が日本の金で十五圓許りに當る。地方出張の場合は其土地によつて、二百四十クローネから七百クローネを得る。而して此金額が約三萬クローネである。

四　平民館（ボルクスハイム）

「平民館」の起源は、以上に述べた「民育協會」及び「大學通俗講演」等の事業を一箇所に統一し、此處を以て維納通俗敎育の中心と爲し度いといふ希望が、特に大學講演の聽講者の間に高まつて、之が遂に大學敎授等の贊成する所となり、就中前のドクトル・ハルトマンの盡力に依り、初めて一九〇一年に有志の人々がオッタークリングと云ふ勞働者町(第十六區)の或破れ家の穴倉の四室を借受けて、之を講義室、實驗室、圖書閱覽室等に充てたのである。當時始めて設けた化學實驗室の如きはガラク

維納平民館

タを入るゝ物置を使用した位で、其他の事は推して知らるゝ。自分が昨年春今の新築平民館を參觀した折りに案内して呉れた事務員は創立當時から此館に務むる由で、頻りに當時の苦心を物語つて聞かせた。併し講演を初めた處が中中の大入りであつたので、間もなく其上の第一階の二、三室を借受け、夫より次第に擴張して遂に十八室を有するに至つた。其後聽講者は益〻增加したので、愈〻一定の建物が必要となつて來た。そこで有志者が奮發して資金募集に着手したが、思ふやうには集らない。それで已むを得ず先づ敷地を買入れ之を抵當として二十萬クローネを借入れ、又民育協會から二萬クローネを借り、又政府から臨時に一萬クローネの補助を得、其他は篤志者の寄附に仰いで總計約五十萬クローネの金を支出して今の平民館(第十六區コフラートバルク)を新築したのである。これが一九〇五年即ち今から八年前の事である。其建物は圖の如くに四階建にして、尙最下層がある。而して二階目には八百人を容るゝ小講堂及び五十人を容るゝ理化學講義室がある。又一階目には左に本館所屬の圖書館及び事務室等、右に民育協會開設の閱覽室がある。又最下層には體操場及び禁酒的料理場が設けてある。此他に尙澤山の室がある。その中で最も完備して居るのは化學實驗室で、二階目の理化學講義室の側にあつて、其設備は殆んど大學の實驗室にも劣らないと云ふ評判である。以上の外普通敎室、標本室器械室等もある。又三階目には圖畫室を設けてある。又各敎室には直接敎授に參考となる圖書を入れた本棚を備附けてある。

本館は前述の如く維納の通俗敎育の中心點たるべき目的で以て出來たのであるから、隨つて他の各種の會と最も密接なる聯絡を有つて居る。本館に於ては大

學通俗講演も開かれる。本館の會員は一期分の半額卽ち五十ヘルラーで聽講が出來る。それで一方には此講演を聽くものは、自然本館の會員となり、又本館の會員はまた自然此講演を聽くやうになるのである。又本館には研究室もあるから、前に申したやうに大學通俗講演を聽いて、尙深く研究し度いと思ふものは此處で實驗室其他に入つて實地練習をなすことが出來る。又本館で催して居る講義は概して程度の低いものであるから、進んで更に大學の通俗講演を聽かんとするものゝ爲には恰も其豫備敎育になるのである。民育協會との間にも密接な聯絡がある。每日曜日には民育協會に於ては本館の大講堂を利用して朗誦、演奏等を擧行する。之も亦聽衆をして自然本館の會員たらしむる原因になる。其外民育協會は前述の如く閱覽室を本館の會員には之を無料で閱覽せしめて居る。其他此處で婦人會、靑年勞働者會又は體育會と云ふやうな會が絶えず其講堂又は體操場などを借りて集會を催して居る。此內にある禁酒的料理場は禁酒會の婦人等が之を管理して、これも中々繁昌して居る。以上の外に又私立學校などが折り〳〵此處の敎場を借る事もある。此等は孰れも本館其物を利用すると

同時に、間接には本館を廣告して其會員を募集して呉れる譯になる。

併し本館には別に本館特有の講演を開き並に敎授をなすのである。而して其仕組の大體を云へば、其課程は大略小學、中學、大學に相當して三段に分かれて居る。小學程度のものゝ中には全く文字なき者に施す爲の極めて低い敎授もある。之は多くは敎育の普及しない地方から維納に出て來るものに必要なる敎育をなすのであるが、之も案外聽講者が多く、大抵は年長者が都市の生活に入つて初めて文字の必要を感じて之を習ひに來るので、中々熱心な生徒が多い。又中學程度のものは民育協會又は勞働者敎育協會が行ふものと略同一であるが、併し以上の會のみでは餘り充分でないので、本館も亦此事を企てゝ居る。多くは英語佛語を敎授するが、又ベーメン人などの爲に獨逸語をも敎へて居る。尤も此獨逸語は小學程度から中學程度まで敎授をして居る。此中學程度のものは一面に於ては高等程度の講習を聽く準備となるものである。獨逸特に伯林では勞働者の爲に初等敎育を同地の大學生の有志などが敎へて居るが、維納では此事は此平民館が之を行つて居る。大學程度の高等なるものは、卽ち

前に屢云つた大學通俗講演であるが、併し之は主催者が平民館でなく、唯平民館で行はるゝと云ふ丈である。尤も平民館自身でも不斷之に類似した講演を行つて居るが、之は誠に僅かである。平民館の此點に於ける特徴は、通俗講演の聽講者に更に進んで研究する便宜を與ふるといふ事にある。此事に就いては大略前に述べたが、唯一つ茲に附加へて置き度いのは、此設備の中で、實驗心理に關した器械の能く整頓して居る事である。これは此平民館の性質から云へば頗る緣の遠い學科であるが、それでも此處の此設備は大學にも劣らぬ位に善く整頓して居る。其他の設備も大概不自由なき迄になつて居る。それで前に申したやうに何學科に拘らず此處に來て充分に獨立研究をしたいものはする事が出來るのである。

さて平民館では前述の如く各種の程度の敎授を施す外に土曜日の晩には一回限りの講演もある。而已ならず日曜日の午前には博物館、繪畫展覽所の見學又は修學旅行等の企もある。會員は何れも特別の費用を要せずして之に加はることが出來る。大學通俗講演は前述の如く冬期のみであるが、こゝの講演及び敎授は年中每晩七時から大抵九時迄之を行つて居る。此處で一九〇八年乃至九年に開

*Fachgruppe

催した講演數は百以上で、其聽講者は五千人近くもあつた。此外に一回限りの講演や、朗誦、演奏なども澤山に擧行して居る。此等の催しに出席したものは二萬五千人以上に達して居る。

尙ほ一つ本館の特色を擧ぐれば、ファッファ・グルッペ*即ち分科團と云ふものである。其組織は最もよく本館の性質を表はすものである。之は本館の會員で學力優等なるものを其研究する學科によつて團體を作つたものである。此分科團には各一人の世話人があつて、此世話人は多くは其專門に緣故ある大學の敎師である。此世話人の指導の下に專門を同うするものが集つて團體を結ぶのである。今日存在する此分科團は國家學團、哲學團、文學團、藝術史團、英語團、自然科學團、其他寫眞團、旅行團、音樂團等である。此中の英語團は一名を「ジョン・ラスキン倶樂部」と稱して勞働者敎育の爲に盡力したラスキンの功績を記念して居る。此等は凡て本館の監督の下に立つて全く本館內部の一組織に過ぎない。併し其團員は每月二十ヘルラーから五十ヘルラーまでの出金をして、其分科團限りに必要なる研究の資に充つることにして居る。此分科團では各自其研究の結果を發表して團員

相互に他の批評を聽くことにして居る。而してこれは丁度大學のセミナールと同じである。畢竟各自の自習の便宜の爲に設けたものであるから、必要に應じては右の外に各自別に費用を出して特に教師を賴んで其講義を聽く事もある。此分科團の中で最も大なるは文學團の百十名で最も小なるは國家學團の十六名である。此分科團の教師たる人は大抵大學の教授若くは私講師が多い。而かも其多數は大學の通俗講演に從事する人である。但し語學の教師は多くは女子であつて、自然科學の教授の際には大學學生が多く之を補助する。分科團でも成る可く師弟の關係を親密にする爲に生徒側から代表者を立て、此代表者は生徒と教師との意見を交互に傳達する任務をして居る。此分科團では萬事師弟の相談で以て取極める事にして、教師の一存で以て專決するやうなことはない。又聽講者は男女の別なく殊に過半數は勞働者であることは最も注目す可き事である。

此館の會員を選ぶにも一つの特色がある。前述の如く本館は維納通俗教育の中心點となる事が主なる目的であるから、此目的を達する點よりして會員たらんと欲するものは、第一には大學通俗講演を聽く者、若くは聽きし者、第二には何れか

の通俗圖書館の閲讀者たる事、第三には民育協會又は勞働者教育協會の會員たる事、此三の條件の一を有するものにて會員の紹介があれば總會の決議を經て入會を許すことになつて居る。尤も會員中には正會員、贊助會員、保護會員等の區別があるが、こゝに云ふ會員は正會員を意味するのである。斯く入會の資格を嚴重にするは、一は本館と以上の諸會との聯絡を確實にする爲、又一は會員たるもの、精神を確めて、然る後に入會させると云ふ考へから斯うしたものである。以上の如き資格を有するものであれば、入會後勉强もし、又能く本館の爲に盡力する事疑ひない。正會員の會費は年に六クローネで決して安い方ではない、他の會費よりは比較的高い。尤も他の會から團體的に加入する場合は其半額の割合になつて居る。正會員の總會に於て其中から三十名を選んで委員とし、此委員は又其中から幹事長（オブマン）一人、副幹事長二人、書記二人、會計二人を互選して、之を幹部（アオアスワンド）とし、總會の議決を實行せしむる。近來は此事務を一名の事務員（セクレテール）を置いて之に委任して居る。委員、其他役員は本館の不偏不黨の主義に基きて、總ての方面から選擧してある。大學教授、勞働者、著述家、商業家等を網羅し、又男も女も加つて居る。其平民的である

ことは前の民育協會と同じである。

尚申して置き度い事は、本館は非常に世間の同情を得て居るから、標本、器械、圖書等の備附も多くは寄附で出來て、一々費用を投じて買入るゝ必要がない。實驗用器械の如きは、各種の職工が會員となつて居る關係からして、其中の複雜なものでも會員が作つて之を館に寄附したものが多い。尚會員が如何に本館を自己の物として熱心に其維持と繁榮とを圖つて居るかは、一度本館に足を入れれば、直に心付く事である。毎日午後七時頃に至れば、極めて質素なる風體の聽講者が續々諸方から押寄て來て、其際館の入口などは頗る混雜する。而して之を取締る爲に秩序掛と云ふものが設けてある。此秩序掛は篤志の會員が務めるので、中には終日勞働に從事した後こゝに來て働くのであるから、隨分疲勞して居る樣子も見えるが、親切に聽講者の指圖や案内をなして居て不足らしい顏は見えない。勿論之が爲に一文の報酬をも得る譯ではない。新しい講演を開始する前には市の處々に廣告を張出す。此世話も會員自身でする。廣告には色刷の略圖を添へて平民館に達する道筋迄も示してある。其他講演の題目、講師の姓名、開講の時間等の一切を記入してある事は云ふ迄もない。尚新に講習を始める前の日曜日には、何人にも本館の縱覽を許す。其際には本館の委員は勿論、秩序掛等は熱心且親切に館内を案内して、成る可く一人でも聽講者を多くしようと努むるのである。講演開催の時刻に平民館の方面へ行く電車に乘ると、往々乘合の勞働者などが尋ねもせぬに平民館は今かく〳〵の講演があるからと聽かれては如何うだなどゝ勸めることがあるさうである。此一事でも本館に對する會員の精神の程が大抵推察されるのである。

最後に本館の會計に就き一言すれば、一九〇八年乃至同九年の歲入は約七萬クローネで、歲出もこれに同じであるが、其中には二萬クローネと云ふ借金の返濟額が含まれて居るから、正味の歲入は五萬クローネである。而して收入の重なるものは各種會員の會費一萬五千クローネ、政府(二百クローネ)、商業會議所、貯蓄銀行等の補助約一萬クローネ並に本館の講堂敎場の貸附料約六千クローネ合計約三萬一千クローネである。會員の會費は全收入の三分の一にも足らぬ。政府以下の補助を加へても尚不足である。其上に二萬クローネの返濟金が必要であるから、

此不足は富豪の寄附に俟たねばならぬ。元來本館には社會黨の分子も多いが、實際は富豪との關係が頗る圓滿になつて居る。本館では强ひて富豪に反對して其援助を斥けようとする事もなく、又富豪の方では喜んで本館の希望を容れて、年々殆ど一定の人々が恰も名譽稅と云ふ形で以て多額の寄附をして居る。兩者の間は誠によく感情が融和して居る。特に極めて少額ではあるけれども政府の方でも補助して、其事業の有益なるものであるといふ事を公認して居る。但維納の市廳は本館に對して極めて冷淡で、一文の補助もしない。之は前に申したやうな事情に基づくもので、かゝる市廳の態度に就いては市民の多數は大に不平であつて、昨年の春の市會議員の選擧などには此不平が爆發して、大分反對派に議員の椅子を奪はれて了つた。それから歳出の重なるものは、本館備人の給料の九千クローネを筆頭として、講師の報酬の如きは五千五百クローネに過ぎない。之は語學、普通學の教師の外は、講師は多く無給で働いて呉れるからである。其外の俳優、音樂者なども多くは無報酬である。館の役員の事は言ふまでもなく同樣である。書籍器械等に就いては前に言つた通りで、これも多くは有志の寄附に係るものでめる。で、經費の少い割合に大なる仕事が出來るのである。

五　自由平民劇場

*Freie Volksbühne.

維納の通俗教育は凡ての點に於て獨逸に率先し、且之よりは遙に進歩して居るが、只此自由劇場のみは伯林のものを眞似たものである。元はブルクテアーター(王城劇場の意)即ち墺太利の王室劇場が日曜の晝間興行には澤山に割引券を發行して勞働者に配布したものであつたが、今日は經濟上の困難の爲に此事は廢せられて、只僅少の、而かも五、六、八、九月の夏期日曜の晝間興行十六回を限つて、四階の立見場所に三百人丈を極廉價(二十ヘルラー)に見物させることにしたのである。それで言ふまでもなく之れ丈にては一般勞働者の希望を充たすに足りないと言ふので、一二の勞働者組合では自力を以て仲間の爲に芝居を催すことにしたが、中々金がかゝるのである。尤も其中には初めから金を得る爲に之を催したものもある。現に今日でも二箇所の勞働者集會所で之を行つて居るが、之は同所の維持費を補ふと云ふのが其主たる目的である。しかも其劇と云ふものが道化芝居類の

ものが多く、之で以て藝術的感化を與へ、又は高尚なる趣味を涵養する事などはとても望まれないのである。又或る集會所の差配人は自己の手で寄席を開いて居るが、これなどは全く勞働者を相手に金を儲けるのが目的であるから、固より話にはならぬ。それでこれでは可くないといふので、有志の人々殊に勞働者に同情ある人々が相談をして「自由平民劇場」と云ふものを起す事となつたのである。之は一九〇六年の事であつて、其目的は主として勞働者に模範的の作物を見せて、其品性を高むるといふにある。發起人は此企に就いて勞働者組合員を勸誘した處が、忽ちにして多數の贊成者を得て、初めは二千人足らずの會員であつたが、今日では一萬五六千人以上の會員を有するに至つた。さて此會の主腦は二部の委員會である。委員會は一部は勞働者の代表者、他の一部は藝術に通じた人で組織してある。卽ち庶務部と藝術部との二である。藝術部には一人の部長があつて、これが大なる權限を有つて居る。一年中に興行する外題の目錄を作つて之を委員に示すだけで、若し他日故障が起れば部長で以て臨機の處置をするのである。伯林の方では五十人以上の委員があつて、それが一々喙を容れるから、其結果は却つて好

くないと云ふことである。會員は入會料の一クローネと、一等席月額一クローネを納める。其他は見物の都度番附、外套預り（ガルデローベ）料を合せて十ヘルラーを出せば宜い。一等席の志望者が案外に多いので入場券は抽籤の結果之を定める。

此會は全く政治上の關係を絶ち、何人と雖も會員となることが出來る。併し實際は勞働者が多數を占めて居る。一萬五六千人の會員中四分の一は勞働者組合員であつて、其他五分の一は女子で、其身分は不明であるが、過半は右の組合員の家族であると思ふ。其他小數の約千人許りは下級官公吏や學生等である。が併し、此分は年々減少するばかりであるから、結局は勞働者の專有になつて了ふ傾向である。之に反して女子の會員は近來著しく增加する。併し此事に就いては、かう女子が增加しては自然女子に理解されないやうな高尚な劇の上場を差控へるやうになるから、之は此劇場の發展の爲には甚だ好ましくない事であると云つて批難する人もある。それから此會は前に申す如く殆んど勞働者から出來て居るから、若し仕事がないと會費を納める事が出來ず、退會の已むなきに至るから、之を豫

防する爲に會費は後日になつて納めても宜いやうに特別な規定を設けてある。殊に最も注意す可き事は、此會は主として勞働者の爲に設け社會黨との關係もあるに拘らず、衆議院に於ける凡ての黨派は此自由劇場の通俗教育上の效果の大なることを認めて、加之、文部省も亦同意見であつて、一九〇八年からは年々此會に二千五百クローネの補助金を與へる事になつて居る。之は金も比較的多いが、それよりも此金を與へる人の誰であるかを考へて見れば、大に注目に價する事柄であらうと思ふ。

此處に上場する作物は、伯林と同樣で、主として近世物が多い。一九〇六年中の興行目錄を見るに、ハウプトマン、ハルトレーベン、アンチェングルーベル、イブセン等の作が其主たるもので、古典的のものは少い。之は必ずしも古典的のものを藝術部に於て好まないからといふ譯ではない。舞臺の狹いのや俳優の不揃である等の結果であつて、他日大に古典的な大仕掛のものも出し度いのが其希望である。現に其後の出し物を見れば、レッシング、シェークスピーア、モリエール、グリルパルチェル等の作も大分あつて、漸次其希望の實現に努めて居ることが分かる。興行は毎

*Wiener Tonkünstler-Orchester.

日曜日と其他の休日の午後であつて、今は維納の五つの劇場と契約して此五つの劇場で行つて居る。特に藝術部で選定した目錄通りの劇を上場するの外、便宜此劇場で上場して居るものを會員にのみ見物さすることもある。此會に於ては其專屬の劇場を設け度いことは最初からの希望であるが、これはまだ經濟上の關係で出來ない。併し會員の總數が三萬人になるとそれが實行される勘定になるさうで、會では切に一日も早く此處まで達したいものと願つて居る。此外此會でも劇の外に朗誦も音樂演奏も行る。管絃樂の如きは「維納音樂者管絃團」（ホウイーナー、トーンキュンスラー、オルヘスター）と交渉して、此團體所有の二千人も這入れる大ホールで特に會員の爲に演奏を開くことになつて居る。しかも此演奏の方法は頗るよく工夫されて居て、例へば一九〇八年乃至九年の目錄を見ると、ハイドン、モツァルトよりリスト、ワグナーに至るといふ歷史的發展の順序を追うて年五回の演奏を催して居る。勞働者の爲に催すものとしては中々高尙な遣方である。此演奏は劇とは別であるから、別に一クローネ半より四十ヘルラー位の入場料を徵することになつて居る。

經濟の大要は、一九〇八年乃至九年迄は收入十二萬クローネであつて、其中に二

千五百クローネの政府補助金がある。收入の九割五分は會員の會費と演奏會の入場料等である。支出も亦之に準ずる。其主なるは七割五分の劇場の借料、俳優の手當等である。併し此等は何れも特別に低廉に出來ることになつて居る。其他演奏會の際の音樂者の手當、ホールの借料等も亦同じく非常に割安になつて居る。會の事務費は僅に支出の一割五分といふ少額に過ぎない。之丈で以て事務員の手當其他一切の費用を支辨するのである。

六 *ウラーニア附民育聯合會

次に「ウラーニア」に就いて話さうと思ふが、これも伯林が元である。伯林から維納に這入つたものである。瑞西のチューリヒ始め其他の同國の都市にもこれがあるが、此處では其性質が少しく異つて居る。併し「ウラーニア」と稱するものには必ず天文臺が附物であるからチューリヒ其他にも此れ丈は備はつて居る。「ウラーニア」は古代希臘の星學の神樣の名である。この名を取つて星學其他一般の自然科學の普及を圖る會、又は其建物の名稱としたものである。伯林の「ウラーニア」

の事は後に話すが、此維納の「ウラーニア」は會員組織であつて、會費で以て會を維持して行くのを以て原則として居る。會員には贊助會員、これが年に五クローネを納むるもの、次が正會員、これが年に二十クローネ若くは一時に二百クローネを納むるもの、次がスチフター(寄附者)と云つて一時に少くも二千クローネ以上を寄附するものである。此外に通信會員、名譽會員などゝ云ふものがある。通信會員は通信をするもの、名譽會員は會の事業に功績あるものである。尤も通信會員と云つても立派な學者藝術家等であつて、新聞社の通信員やうのものでない。名譽會員もまた其通り何れも眞に世間に名譽ある人々である。會の事業は一般通俗教育の事にも關係するも、其主たる目的は自然科學と工藝上の知識を普及すると云ふ點にある。それで此會には他の會にない一の組織がある。之は學科顧問と名付けて、大學教授などからそれ〴〵專門の大家を囑託して、專門學科の講演に就いて講師及び講演題目などの選擇に關して其意見を聽くことにして居る。而して學科顧問には自然科學部(一)哲學史學部(二)法學國家學部(三)藝術音樂、文學部(四)及び工藝部(五)の五部があつて、少くも各專門學科から五名以上の代表者を採ること

になつて居る。學科顧問及び其各部の座長は「ウラーニア」の會長が之を兼ねて、其召集や議事等に關しては、此會長が指揮する權限を有つて居る。それから尙一つ此會に特殊の組織がある。それは學校委員といふものである。此委員を設けたのは「ウラーニア」の事業として傍ら學校敎育の缺點を補ふといふ目的で、學生生徒の爲に晝間講演を開き又は活動寫眞等を見せることにした。それで之が爲に「ウラーニア」の方では學務當局者及び學校長の同意を得て、各種類の學校から一人宛の代表者を選んで、之に著述家などを加へて此委員を設けたのである。此委員は各種類の學校と聯絡を保つて其學生生徒の爲に催す講演や、活動寫眞等に關するプログランムを調製するのが其主たる仕事である。此外に此學生生徒を率ゐて修學旅行をなす時の世話をするのも此委員の責任である。

「ウラーニア」で開催する講演は大概大學通俗講演に似たものであるが、之よりも稍新しい研究の成績を發表する事が多いやうである。而してこれは其機關雜誌の「ウラーニア」に載せてある論文を見れば分かる。此中には中々面白い研究の結果が見えて居る。其他は天文の觀測を其特有の天文臺で爲して、之を一般の人々にも見せる事で、これは他の會では出來ない事である。此外朗誦又は音樂演奏を爲すことは他の會と異つた處は無い。特に見學旅行などは隨分大仕掛のものを行る。一九一二年の春には大學敎授の指導の下に埃及へ往復三週間の旅行を行つた。船賃許りでも一人三等千クローネから一等千三百クローネと云ふ少からぬ金を出して男女百人以上も出掛けた。自分が「ウラーニア」に參觀に行つたのは丁度此出發の前日で掛員は多忙を極めて居つた。又會の規則に依れば料理屋の營業をも兼ねて經營し、其收入を會の費用に充つる事になつて居る。總て西洋の此種の建物は日本の劇場と學校とを折衷したやうなもので、愉快に樂みながら學問も出來るやうに仕組んである。

前に申したやうに「ウラーニア」の特徵は天文臺であるので、此維納の「ウラーニア」も一九一〇年に立派な天文臺附の建物を新築した。一寸東京の和泉橋といつたやうなアスペルン橋と云ふ橋の傍に、ドナウカナールと云ふ堀割に臨んで、屹然と石造の大建築が聳えて居る。內部の構造は略前の平民館や民育協會の本館に同じであるが、之よりもズット立派である。講堂も大小二箇あり、其他幾多の敎室、事

務室の外飲食室も備はつて居る。併し其最も誇りとする點は屋上高く築き上げたる天文臺である。此處に上ぼれば維納市の約半分は眼前に展開して極めて宜い眺めである。此建築の爲には會で四十萬クローネの債券を發行し其外王室を始め政府、市廳當りからも相當の補助を得たと云ふ事であるから、其經費の總額は多分五十萬クローネに近いものであらうと思はるゝ。建築落成式には皇帝代理の皇族も臨まれたなど、中々の盛況であつて、歐洲各國の新聞も盛んに當日の模

維納の「ウラニア」

様を報道し、兼ねて其事業の有益なることを稱贊した。

それから茲に一言すべきは、此會は維納市の勞働者同業組合の敎育委員との間にも聯絡を保つて居るが、併し此會は必しも主として勞働者を敎育するのではない。就れかと云へば前の諸會よりも稍貴族的で又稍專門的である。而して此特徴は前に擧げた二箇の特殊な組織に見えて居る。それで此會は政府の受けも自然前の諸會よりは良いやうである。その爲か知らんが、右の落成式の際には會長始め從來此事業に盡力したものに、それ〴〵勳章なども授與された。

尙此會の幹部の組織と云ふものも前の諸會とは多少異つて居る。中央委員（チエントラールアウスシュース）と云ふものは、これは總會で通常會員から選擧する十二名乃至二十四名のものと、債券の持主二名及び政府、市役所並に「ウラーニア」に加入の學術工藝に關する諸團體等の代表者、其外に學校委員會の座長等を以て組織して、其中から更に會長（プレジデント）一名副會長（ヴイツプ）三名及び會計一名書記一名を選擧し、尙此上に其中に就いて實行委員（エクセクテーブコンミテー）と秩序委員（オルドヌングスアウスシュース）とを依囑する。實行委員は會長と二人の中央委員から出來て、之が總て實際の事務を執行する。秩序委員は三名で其中一名は副會長一名は實行委員一名は監査委員である。主として爭議を裁決し、會員の資格雇員の執務を監督し、雇員過失ある場合には之を處罰する等の事を司る。それから總會、これは一切の大事を議決する。尙監査員（レヴイゾーレン）と云ふのもある。これは總會で三名を選擧して、主とし

て會計の監督をさする。必要に依つては三名の外に尙一名を債券の持主中から選擧して同じく監査員に加ふる事も出來る。以上の外に地方支部もあつて之にも委員が設けられ此委員も亦中央委員會に列席することが出來るやうになつて居る。それから玆に序に申すが、前に述べた民育協會でも平民館でも其組織は何れも平民主義であるが、其會長などは多くは學問のある大學の敎授などが多い。例へば民育協會の名譽會長がドクトル・フリードリヒ・ベッケェで共に大學敎授である。此「ウラーニア」の會長もドクトル・フリードリヒ・ヨードルで平民館の會長がドクトル・ルードウィッヒ・ケスラーと云ふ學者である。

最後に此會の會計狀態を說く筈であるが、參觀の際に得た書類を失くしたので詳細なことを言ふことが出來ぬ。併し大概六、七萬クローネの收支であつたと記憶して居る。但し講師の報酬などは他の會よりも多少良くなつて居る筈である。此事は「ウラーニア」の役員も誇つて話して居た。其後巴里で或る通俗敎育會を訪うた時當時は此報酬の金高も記憶して居たから之を話したら聞く人は大に此處の待遇に感服して居た程である。

前に民育普及會の事務所には、又墺太利民育協會聯合會本部の事務所があるといつたが、最後に此聯合會の事に就いて、少しく述べて置き度い。此聯合會は民育上に關する諸般の問題を討議し、並に其事業の普及を圖る事を目的とするもので、會其ものは別に直接仕事をするのでは無い。墺太利全國に散在する各種の民育を目的とする諸會の間の聯絡を圖り、之に依つて諸會の目的を達する爲の便宜を與へようとするのである。で、此會は名は大きいが、其仕事として特に擧ぐ可き事は隔年一回開く聯合會に於ける名士の演說、又は其決議事項に關する報告書を出版して居るが、此報告書位が參考になるのである。而して此會に加入して居る協會に如何なるものがあるかを擧げると、之に依つて墺太利に於ける民育事業が、獨り維納に限らず、一般によく行亙つて居る事を知るに足るから、次に此會の中で主なるものを列擧しよう。

（會の名稱）	（本部所在地）
一　下墺太利普通民育協會	クレムス
二　上墺太利民育協會	リンツ

三　オルミュッツ民育協會
四　ハルライン民育協會
五　獨逸ーメーレン民育協會
六　獨逸民育協會
七　墺太利ーシュレージェン獨逸民育協會
八　ザルツブルグ民育協會
九　ビーリッツーピヤラー民育協會
一〇　獨逸通俗的知識普及協會
一一　倫理會
一二　墺太利大學教員組合
一三　墺太利節酒會
一四　維納セットルメント

其他に前に言つたものが加はつて居る。此中で最も名高いのは第十の「獨逸通俗的知識普及協會」で、之は主として有益なる書籍を最も廉價で配布して居る。先づ

オルミュッツ
ハルライン
ブリュン
オストラウ
トロッパウ
ザルツブルグ
ビーリッツーピヤラー
プラーグ
維納
維納
維納
維納

以上に列擧したものが其主たるもので、此等は何れも中央部に聯合して居るのである。此聯合會は墺太利の文部省から年四千クローネの補助を受けて居る。其各箇の組織事業等は維納のものと大同小異である。隔年一回の會合には前の諸會から代議員を派遣して諸般の報告や演説やらを爲す。問題は風敎上の總ての領分に渉つて、敎育の事ばかりでなく劇場や活動寫眞等に關しても、取締や改善の方法等を討議するので、大概文部大臣、大學總長、警視總監、市長等は勿論其他の名士も多數出席するのである。併し前に言つた如く會其物は直接に何等の仕事を爲すのではないから、太した參考にはならない。で、此處に附けたりとして一言して置く譯である。

七　結論

此維納の例でも知らるゝ如く、一體西洋の通俗敎育は社會の下層人民を第一に注意し、これを施設の對象とするのであるから、自然勞働者敎育といふ事實となつて實行されて居る。日本の如く、通俗敎育、講演會を開けば、學生生徒が來聽すると

は異つて實際通俗教育の名に負かない。併し動もすれば勞働者の味方をなす結果、自然社會主義者に加擔するやうになる弊は多少ないでもないが、それでも元來、今日西洋で云ふ社會黨は、日本で想像するが如き危險分子の集合ではない。今日では餘程實着になつて、多くは自己の學問人品を高め、之に依て漸次相當の權力位置を得度いと希望して居るのである。特にこれまで申したものは社會黨の教育委員の或る事業のやうに、政黨などゝは一切の關係がない。却て社會黨などゝは反對の考へを有つて居るものが多い。一九一一年の平民館の總會の席上で、會計書記である大學教授エミール・ライヒと云ふ人が報告演說をした中にも、此誤解を事實によつて正して居る。それは同年の九月に平民館所在地のオッタクリングと云ふ例の勞働者町で、社會黨が亂暴して多數の負傷者を出し、爲に警官に捕縛されたものも多かつたが、同館二千の聽講者中から唯一人拘引された。然るにこれも實は手の利かぬ不具者であつて、とても物など壞すことの出來る力のない者と分つて直に放免された。こんな例を見ても勞働者でも教育を受くれば、亂暴などしないやうになることが分ると、かう云ふ事を右のライヒが述べて居る。如何にも其通りで、英吉利などでも教育を受けた勞働者は、無意味なストライキなどに加はるものが自然少いと云つて居る。

それから維納の通俗教育は其最初の首唱者二三は或篤志の人であつたが、今日實際經營維持の任に當るものは會員自身である。民育協會でも平民館でも又其他の會でも、多く會員自身が其必要を感じて之を經營維持して居るのである。我邦のやうに他から膳立てをしてもらつたから、箸を取るといふのとは大に其趣が違つて居る。又講演とは云ふものゝ、師弟の關係と云ふものが極めて親密である。而してこれは維納の通俗教育をして將來益〻根本的な發達をさする原因となるものと思ふ。講師は講演する丈、聽講者は聽く丈であれば、それは一時的の寄合ひで、到底組織あるインスチッーションとなる望はない。元來西洋の大學と云ふものは、最初政府が其權力で以て新しく組織したものでなく、師弟の關係が長く續く間に金が集り、建物が出來て、自然に今日のユニバーシチーと云ふ形になつたものである。それで此通俗教育も右の樣にして將來永く持續して行けば、遂に一種の大學になるであらうと思ふ。現に今日でも維納では民育協會、平民館等を平民大學（フオルクスウニウエルジテート）

といひ、其講師を平民教授（プオルクスプロフエツソル）と呼んで居る。通俗教育もこれまでに進めば、其效果は實に至大なるものであらう。今日我邦で行つて居るやうに一回限りの講演を主として、師弟の關係と云ふものが少しも生じないでは、まだ中々通俗教育の本當の效果は收められない。況んや聽講者は多くは冷かしに集つて來ると云ふに於ては、或は官の奬勵が止んだら其事業も忽にして消滅する事になるかも知れぬ。

以上維納の通俗教育の施設を見れば、之によつて大抵他の西洋諸國の通俗教育も想像し得らるゝのである。而かも規模や經費に於てこそ維納のものより大きいものも多くあるが、會と會との間に能く聯絡が付いて、又前に云つたやうに會員が非常に熱心であると云ふ點に於ては、如何うも此維納に及ぶ施設は多くないやうである。維納市の通俗教育事業が世界の評判になつたのも全く此の點に在るのである。

第二　伯林市の通俗教育

一　*伯林の大學通俗講演

伯林の通俗教育に就いて先づ第一に擧ぐべきは、同地の大學教師連の催に係る通俗講演會であらう。之は丁度維納の大學通俗講演に該當するものであるけれども、維納では大學の事業であるに反して、伯林では純然たる私のものである。其成立に動機を與へたものは、維納大學の通俗講演である。維納大學に於て率先して通俗講演を開いたので、伯林の大學教師連も之に倣ふの必要を認めて、一八九六年に多數の教師連署して其開設に關する建議を大學の評議員會（セナート）に提出した處が、評議員會は大學令を楯として之に應じなかつた。卽ち大學令は「大學の目的は國家及び教會の高等職務に就かしむる爲に相當の豫備教育を受けたるものに教授を施すにあり。」とあるから、此目的以外の事業は大學で經營すべきものでないと云ふ解釋の下に右の建議を却下して、今日に至つても尙大學通俗講演をば其事業として行はないのである。隨つて又政府も此事業に對しては何等の補助もしな

い。それで此教師連は已を得ず「伯林大學教師通俗講演協會」といふ一の私立の會(1)を設けて之を私の事業として實行することにした。處が伯林市及びシャルロッテンブルク兩市は勿論、劇場の持主などよりも無料で其講演の場所を供給して呉れたので、兎に角實行には差支ない丈の準備は出來た。

さてかくして出來た此會の目的と云ふものは、政黨、教會以外に立つて、學術研究の結果を社會の總ての階級に普及すると云ふことで、組織は會員組織で、會員は少くとも年五マークを支拂ふもので、此外に別に保護會員(プロテクトール)と云ふものがあつて、これは年百マーク又は一時に二千マークを支拂ふものである。尚會員たるべきものは大學の教師ばかりで、其他のものは會員にはなれない。會には委員があつて其上に會長がある。委員數は十五名乃至二十五名で、保護會員の一人も之に加はることになつて居る。會長は委員中から選擧される。事務所は「中央民福會」(2)(デー・ツェントラールステルレ・フュール・フォルクスウォールファールト)にあつて、庶務會計は此民福會の書記に依囑して處理せしめ、之が爲に會は少し許りの報酬を仕拂ふ約束である。

(1)Der Verein für Volkstümliche Kurse von Berliner Hochschullehrern.
(2)Die Zentralstelle für Volkswohlfahrt.

こゝに此「中央民福會」の組織を一言するの必要がある。此會の目的は元は單に勞働者保護の爲に起つたものであるが、今は廣く民福事業に關する各種の會の聯絡を圖り、相互の衝突重複を防ぎ、兼ねて必要なる改善を促し、又場合に依つては新に此目的を有する會を起させる。又此會は内外國に於ける社會的事業の各種の方面に亙つて參考の材料を集め、又同一目的を有する會の組織等に就いての相談に應じ、其他或は民福事業に關する文書を出版し、或は各種同一の目的を有する會の聯合會を開くなど、常に相互の間にあつて仲介者の位置に立つて民福事業の發達を圖ることをつとむるのである。それで多くの官衙、例へば普魯西の商工務省、勞働省、大都市の市役所、商業會議所、大工場、各種の民福を目的とし、又は通俗教育を目的とする協會、其他政治、實業に關する個人が澤山加入して居る。今其團體丈の數を擧げるも一九〇八年には百六十六に及んで居る。現會長は普魯西の前商工務大臣のフォン・メルラー(*von Möller)氏である。此會には特に通俗教育部並に通俗藝術部を置きて、特に之に重きを置く。斯樣な組織であつて、伯林の通俗教育の事業には最も大なる關係を有して居るから、前述の如く「大學教師通俗講演協會」も其事務を此會

*von Möller

に依託した譯である。右の如く此會は各方面に關係を有つて居るから、入場券の配布等に極めて好都合である。例へば此會は其會員に由つて住宅建築會社等と關係があつて、而して此會社は多くの借家を有して居るから、此會社に依託して聽講券を配布すれば其賣行きが自然に多いのである。

講演の範圍は凡ての學科に亙る。但し政治問題だけは避ける事になつて居るから、誤解を來し易い社會政策の如きは之を講じない。それで社會黨の機關新聞などはこれに對して不平を鳴らした事もある。が、併し其他は總ての學科に亙つて、殊に工場衞生に關する講演などは勞働者の聽衆も多い。伯林でも維納のやうに、王室劇場の劇や歌劇を回數を限つて勞働者に廉價で見物させることがあるが、かゝる際に當て此會では特に其出し物のミンナ・フォン・バレンヘルム外三種に就いての講演をしたが、之は非常に有益で且又非常に大入を取つたといふことである。講演者は初めの程はシューモーラー(經濟學)やワルダイエル(生理學)の如き大家も出たが、今日は多く若手の私講師(プリワートドチェント)である。場所は伯林、シャルロッテンの外地續きのリキスドルフ等に於て、多くは學校——大學をも含む——及び博物館等の講堂等に於て開催する。

時期は冬季で、六回を一課程(クルズース)とし、一週一回宛で、六週間に渉るを常とする。夜間八時半から十時まで開講する。此點は伯林は維納に比して都合が好い。維納では午後十時以後には何人に拘らず門番に閉門料として二十ヘルラーを支拂ふ事になつて居るが、伯林ではさうでない故、夜間を多く利用する歐羅巴の風習としては維納は不便である。それで維納では此慣例を廢すべしとの議論もあるが、多年の習慣であるから、容易に改め難い事情がある。然るに伯林では各自が門鍵を有つて居るから、十時は勿論十一時十二時になつても少しも心配はない。かう云ふ譯で維納では七時半に開講するが、伯林では八時半頃から開講する故、之が爲に勞働者は一度自宅に歸つて衣服を着更へて出掛ける餘裕がある。加之、商人は大抵八時迄店の仕事に從事するから、この爲にも八時半の開講は便宜である。

此會は創立以來聽講者の數は餘り增加しない。之は伯林では此種の會が非常に多くて、互に聽講者を奪合ふ傾向があつて、維納の如く相互の間に聯絡あり、統一あるのとは大に異つて居るからであらう。また會の組織も講師が主であつて、維納

のやうに會員自身が主でない。前に云つたやうに會員と云ふのは大學の教師ばかりであつて、聽講者は會員でない。唯金を出して講演を聽くばかりで、會の盛衰などは如何うでも宜いのである。それから又伯林には講演を聽いた後更に之を繼續的に練習したり、研究したりする設備が缺けて居る。これ等も此會が維納のやうに何回講演を聽いたものは、希望に因り試驗を施して證明書を與ふるなどゝ云ふ事はない。

會計は近年大概收入一萬マータ計りで、維納の三萬七千クローネに比較すれば餘程少い。其主なる者は聽講券で、之が六千マーク位で聽講券は一課程毎に一マーク、他の團體引受け並に教員、勞働者は六十ペンニヒである。補助は伯林市から千マーク——本年即ち一九一三年からは千二百マーク——シェルロッテン市から二百マークの外、商工務省から得た一時補助金三千マークを積立てゝ、之から生ずる利子が少許りある。不足の分は會員、保護會員の會費で補充する。こゝには國庫の補助金と云ふものは無い。支出は四千四百マーク許りの講師報酬で、これが一回二十五マーク、即ち一課程に百五十マークの割合である。其他は場所の借料、備人の手當等に要する費用である。維納の約一萬人の聽講者に對して、伯林の聽講者は九千人近くの割合であるから、經費の上から比較して見れば、伯林の成績は必ずしも惡い方とは云へない。併し其組織其他の點に於て維納に劣つて居ることは、前に言つた通りである。

二　自由大學

伯林には通俗教育機關が澤山あるが、多くは維納とは其趣を異にして、而かも其中の「自由大學」と云ふものは、最も異彩を放つて居る。之は今から十年程前、即ち一

*Freie Hochschule.

(1) Wilhelm Bölsche
(2) Bruno Wille

九〇二年に始めてウィルヘルム・ベルシェ、ブルノー・ウィルレなどいふ小説家、著述家等の創設したもので、其名の(1)如く政黨、宗教は勿論、國家も眼中に置かず、眞に眞善美を唯一の理想として、極めて不羈自由な態度を以て今日大學で教へ得ない事をも教へて其缺點を補ひ、以て人間自然の天性を在りのまゝに啓發しようとするのが、其主たる目的である。近頃東京で二三文士の主唱で自由講壇と云ふものが設けられたが、之は或點に於ては稍此自由大學に似た處がある。自由大學と云つても別に學校の建物を有つて居る譯ではない。普通の講演である。唯小さな事務所を有つて居る許りである。主たる講師がヂレクトリーム即ち幹部を組織し、之に一人の有給書記長(ゲネラールセクレテール)が屬して會計の事務を執つて、其他の庶務は幹部員が無給で處理して居る。此幹部の外に「自由大學中央協會」(ツェントラールフェルアインフュールフライエ・ホッホシューレ)と云ふものがあつて、之が此自由大學の爲に其主義を鼓吹し、會員を募集する。一九一一年には此會員が約四百人であつて、餘り多くない。會員は年に二マークを收むれば一回講演は無料で、其他の繼續講演は二割五分の割引きで聽けるといふ特典がある。而して謂ゆる大學の事務に對しては何等干渉し得る權利は有つて居ない。卽ちこれも會員が主となつて

作つたものでない。

講演は一課程通常十時乃至十二時間で、其聽講料が四マークである。普通の日の夜八時から十時迄の間に、市廳の內や學校の講堂で開講する。幻燈、活動寫眞又は實物提示の場合には、別に一マークを增徵する事もある。又此中央協會と聯絡ある諸會の會員は、右の聽講料は三マークである。講演の外に日曜日の午前に博物館に於て美術史に關する講演もあり、又動物園の案內もある。此「自由大學」は前に云つた如く元、文士の發起になるものであるから、其講演の科目も多くは文藝に關するもので、これに次ぐものは醫學衞生で、自然科學に關するものは殆んどないと云つても可い。講演の題目には頗る奇拔なるものが多い。心理學上の問題でも「千里眼の話」「幽靈に關する迷信」「暗示の奇蹟」又は「性慾生活及び其定律」などと云ふやうなもので、中々振つて居る。中には男子女子を別々にして講演する題目もある。殊に一兩年前に一時の人目を聳動した——男女關係事件の——秘密裁判の鑑定人として其名を知られた某醫師が、此事件に就いて講演した時などは、非常の大入を取つたと云ふ事である。其他此「自由大學」の一つの目的は人間生活の暗面に就

いて科學的說明を與ふると云ふことであるから、其講演の題目はこゝに擧げた外のものでも、他處では聽かれない風變りなものが多い。此大學の聽講者は近來メッキリ殖えて一九一〇年乃至同一一年即ち同年の冬季間の講演の聽講者は一萬八千人以上に上つて居る。講師は小說家著述家が主で、其他には無職の大學卒業生等である。それで其言論も自然放膽的であるのみならず、講師の報酬の分配と云ふものが、聽講者の多寡に依つて雜費を引去つた分を其人に配當する事になつて居るから、隨つて成るだけ人間の好奇心に合ふやうな題目を選んで、一人でも多く聽講者を自分の講演に引付けようとする弊も生ずる。

此會では會計の報告をしないで、唯或商店から多額の寄附を得たと云ふやうな事だけは報告して居る。而かも市は比較的厚き保護を此會に與へて居る。雜費は會持で、市の學校の講堂等を無料で貸すのみならず、以前は千マーク、近來は更に增して千五百マークを每年補助することにして居る。前の大學通俗講演よりも、之を餘程重く見て居るのは一寸不思議な感がする。或は何處も同じ新聞雜誌記者の機嫌取りの爲に、かゝることを爲すのでは無いかとも思はれる。

三 フンボルド・アカデミー(1)及びレッシング大學(2)

「フンボルド・アカデミー」と云ふのも通俗講演會の一種である。アカデミーと名付くるから學校だと思ふ人もあるが、實は學校ではない。これは一八七八年に經濟學者で、種々の著述を以て其名を知られた帝國議會の進步黨員のマックス・ヒルシ(3)と云ふ人の主唱で設立されたもので、伯林の通俗講演會の中では一番古い起原を有するのである。此會の設立者は「學術中央協會」と稱するもので、其個人會員の數は約六百人で、此外に約六十の團體會員がある。現今の會長は矢張り進步黨議員で、昨年帝國議會の議長に選ばれた伯林の澁澤男とも云ふべき銀行家ドクトル・ケンペ(4)と云ふ德望家である。東京の法科大學の講師であつた、伯林市の參事會員ドクトル・モッセなども過般此會の委員になつた。此會では一年を四期に分ち、第二期の七・八・九月丈休んで、殘る三期は打通して開講する。事業の種類には通俗學術講演、外國語講習及び無料學術講演の三つがある。通俗學術講演は一期卽ち三箇月間に十時乃至十二時間を以て完結する幾多の講演を開き、主として學術上の時事

(1) Humboldt-Akademie.
(2) Lessing-Hochschule.
(3) Max Hirsch.
(4) Dr. Joh. Kaempe.

問題を說明する。例へば「ニーチェの生活及び其哲學」とか「婦人問題及び現代の社會理論」とか「新聞事業の歷史及び其技術（テヒニック）」とかいふ樣な、現時最も多く人の話頭に上る問題に就いて講演する。又フリードリヒ大王の百年祭が近づけば「フリードリヒ大王迄のブランデンブルク國の發達」と云ふ題を出すと云ふ風で、同じ學術講演でも成るだけ世人の注意を惹くやうなものを選んで講演する。尤も昨年から特別（ゾンダル）講演（ナクルス）といふものを設けて、特別に時事問題の講演をすることになつたから、向後は更に一層多く講演が時事問題に觸れるやうになるだらうと思ふ。自分も其中の二三を聽いたが、聽講者は一箇所四五十人位で、日本のやうに多くないが、いづれも熱心に聽いて、講師の講演も大學などで聽くのと別に變りはない。極めて眞面目で、但稍〻解かり易く話すばかりで、日本の通俗講演で聽くやうに駄洒落などを多く言はない。

次は外國語講習であるが、これは英・佛・露・伊の諸國の言葉の外に西班牙語なども ある。此講習は外國へ出て商賣でもしようと思ふものが多く聽く。自分の同宿の獨逸人二名も近々南米に渡航する筈であるといふので、西班牙語の講習に出て

居たが、其人等は、授業が巧いから三箇月で結構一ト通り日常の用を辨ずる樣になる見込だと言つて居た。かう云ふ次第でこの講習は世間にも中々重寶がられて居るやうである。開催の時期及び聽講料は、通俗學術の方も外國語の方も同一で、一期で一段落を告げる。毎晩八時からの開講で、一週一回何學科は何曜日と極つて居る。又前の中央協會の會員の外、敎員、公私役人、勞働者、學生、生徒、商家丁稚などは一課程に付き五マーク、其他の人は六マークの聽講料であつて、維納は勿論伯林の他の會よりも稍〻高くなつて居る。尤も二學科以上同時に聽くといふ場合にはそれ〴〵割引が付く。

ペンニヒから一マークまでの割增を取られる。其上に幻燈、實驗などが必要な講演では五十

無料學術講演（ゾンダルクルス）は大概毎月一回の開催で、一回限りのものである。併し多くは內容豐富の大講演で、頗る有益なものである。講師は大學私講師、中學校敎諭、技師、醫師、著述家等であつて、第一流の大家は出ない。講演の場所は伯林市を始めシャルロッテン等の接續市の中・小學校凡そ二十三箇所を使用し、到る處に開演する。一九一二年の第一期丈でも九十人の講師が二百十一の課程（クルスース）を開催した。聽講者は

あらゆる職業の人を網羅して居るも、特に商業關係のものが多い。これは此會の本來の性質がさう云ふ傾向を有つて居るからである。

毎年の聽講者がどれだけあるかは、今手元に完全な統計がないから分らないが、一九一一年の第四期に卽ち十一・十二月の三箇月間に八千四百八十八人あつた。尤も此期は西洋では最も人の活動する時で、隨つて聽講者も割合に多いから、此例で他の期を推すことは出來ぬとしても、三期を通じて計算したら少くも三萬人以上に上るであらうと思ふ。又此會の會計狀態は不明であるが、之も此聽講者の數より推算すれば、恐らく十萬マーク以上の收支の豫算であらうと思ふ。會の組織は幹部として委員があり、其外委員から選んだ會長、副會長、書記長及び會計等があつて、何れも知名の人である。此中の書記長が實際の會の事務を處理する。毎期講演の始まる前には頗る能く整頓した講演目錄を、到る處の本屋などで無代で配布し、又伯林始め接續市の凡そ五十箇所に於て、聽講券並に會員券を賣捌かしむるなど、聽講者を得る手段は之を遺憾なく盡して居る。此外此會では、講師は、聽講者の希望に因りて試驗も施し、又證明書をも與へることも出來るやうになつて居る。

(2) Aus eigener Werkstatt. (1) Lessing-Gesellschaft für Kunst und Wissenschaft.

「レッシング大學」は「藝術及び學術奬勵レッシング會」(1)と云ふので一九〇一年に創立したもので、「フンボルド・アカデミー」に比ぶれば規模も小さく、其講演も主として文藝的のものが多い。一九一二年の第一期に開催した講演は二箇所に普通のもの十七課程と、特別のもの二課程とであつた位で、誠にまだ微々たるものである。聽講料は一課程四マークで、其他は大概「フンボルド・アカデミー」や「自由大學」と同じ仕組になつて居る。實際主たる仕事は或る本屋が引受けて行つて居る。で、一體前の「フンボルド・アカデミー」などとは到底較べものにはならぬ。但し此「レッシング大學」でも一昨年から維納の民育會と同じく、「自家の工場から」(2)と云ふ講演を催して大家の實歷談を聽くことにしたが、これは頗る當つて聽講者も多いやうである。今其題目の中に就いて面白さうなものを擧ぐれば、

「自家の工場から」

辯護士の工場から　司法官試補ドクトル・ウェルクタウエル

刑法上の爭論(カンプ)

著述家の工場から　オルガ・ウォールブリック

如何うして自分は今の身分になつたか

畫家の工場から　プロフェツソール・カール・ラングハンメル

藝術家と非藝術家

新聞記者の工場から　ゲオルグ・ベルンハルド

新聞紙及び新聞記者に就いて

飛行家の工場から　フイリップ・スパンドー

如何うして飛行を學ぶか

教育家の工場から　ドクトル・ウィネッケン

或る自由學校組合(非宗派の學校組合)の生活より

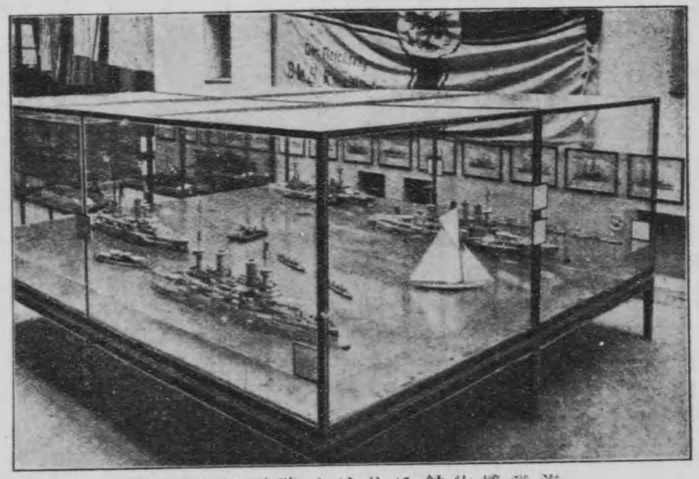
音樂家の工場から　ドクトル・ボクミール・チェプラー

作曲及び卽興作曲

外科醫の工場から　プロフェツソール・ドクトル・オイゲン・ホルレンダー

造形及び美容的手術に就いて

など云ふものがある。



海洋博物館に於ける陳列品の一部

四　海洋學館及び高等商業學校の講演

海洋學館これは原名を Das Königliche Institut für Meereskunde と云つて、伯林大學の海洋學研究所である。一九〇〇年以來國民の海事思想を養成する目的で此處に冬季一週一回の講演を開く。講師は多くは此館の仕事に從事する學者で、其外に大學教授、海軍軍人、商船乘組員等も出て講演をする。講演は大概一回打切りで、海洋學のあらゆる領分に亙つて、多くは幻燈、活動寫眞を使用し中々賑かなものである。毎年凡そ冬季に三十回位の講演を開いて、約一萬人位の聽講者がある。近來は一回限りのもの、外に、又六回一纏めの

*Dr. Albrecht Penck.

課程のものも開催して居るが、これは極めて少くてたゞ一二課程に過ぎない。此館には海洋博物館があつて、海洋學に關する一切の參考品が集めてある。又四百人位を容るゝ講堂があつて、之を他の會でも借りて講演を開く。而して其場合に成るべく一般に見する方針で、參觀は無料で模寫、採影共に勝手である。小學校の兒童なども敎員に連れられて、よく參觀に來るものが多い。館長は有名なる地理學者のプロフェッソール・ドクトル・ペンク*である。又此館からは「學洋學」と題する講演を集めた雜誌も出して、六マークを出して總ての講演を聽かるゝ連續券（ダウエルンデカルテ）を買つたものには、此雜誌を無代で配布する。普通聽講料は一回僅かに二十五ペンニヒで、これは小使の手當、目錄、聽講券の印刷費に充つるだけで、其他講師の報酬は政府から出し、又場所の使用に際して必要なる暖室、燈火の費用も此館の豫算内で支辨するから、此處の講演は殆んど全く國庫の負擔に屬するものと謂つて可い。而してこれは從來海上では一向振はなかつた獨逸が、此方面でも亦大に雄飛せんと企てた一般の國是に基いて、此講演を開くに至つたものであるから、かういふ風に政

府から特に保護を爲すのである。

伯林高等商業學校の講演は毎學期の冬期、夏期の開始前に其講演目錄を發表するが、之は誰でも往つて聽かれる譯ではない。唯其中に一回限りのものがある。これは少しばかりの聽講料を出せば、誰でも往つて聽かれることになつて居る。此聽衆が大概毎年千五六百人内外であつて、勿論其多數は商人である。

五 ウラーニア及びトレプトー天文臺*

伯林の諸新聞に凡そ十日目位に市内の各劇場の興行外題を一覽表にして掲ぐるが、其中にいつも「ウラーニア・テアーター」即ちウラーニア劇場と云ふものゝ外題が這入つて居る。それで一寸見ると、これも普通の劇場のやうに思はるゝが、實はさうでない、全く通俗學術講演の場所である。併し其仕組は略ゞ劇場に似て居る。其構造は大概劇場と同じで、但舞臺の奥が淺いだけ位が一見した處での差異である。之をテアーター即ち劇場と呼ぶのも敢て必しも無理の事ではない。扨此ウ

新ウラーニア

舊ウラーニア

ラ○○○ニア――ウラーニアは希臘の星學の神の名――は一八八八年にウィルヘルム・マイヤーと云ふ天文學者等の主唱で出來たもので、今は一箇の株式會社である。初は伯林の北部の稍〻片寄つた處にあつたが、今は中央の繁華な市街の内に移つて居る。前の者をば舊ウラーニア、後の者をば新ウラーニアと呼んで居る。舊ウラーニアは今は政府のものになつて、會社の所有では無いが、併し矢張り元の天文臺が其儘に殘つて、又其内の講堂では毎年十二回の天文學に關する講演が催されて居る。新ウラーニアの所在は東京で云へば銀座通りの横町のもつと雜沓する所であつて、隨分所謂俗惡の處である。其處で以て日本で考ふれば最も世間と遠ざかつて居る天文學を始め、總て理科に關した學術の講演をやるのである。如何にも周圍の

事情とのコントラストは著しいが、又それが却つて妙味の在る處である。大隱は市に隱るとでも言はうか、又俗に入つて俗を救ふとでも言はうか、いづれにしても、これが却つて學術の普及上に便利が多いと見たので、特にかういふ雜沓の俗地を選んで今の建物を建てたものと思ふ。新ウラーニアは舊ウラーニアに比べると餘程大きく又立派で、講堂も大は七百人、小は二百人を容るゝ二つを有つて、此外に六箇の理化學器械の陳列室がある。而かも此理化學器械は參觀人に於て自ら之を使用實驗することが出來るやうになつて居る。以上の外に飲食室も備はつて、ざつとした飲食も出來る。さて此處の講演は主としてウラーニア附きの學術高等役員（トリツヘ・オーベーアムテ）と云ふやうなものがあつて、これが交はる〳〵繼續的な講演を行ふ。外に、一回切りの講演も他から其道の大家を賴んで來て折り〳〵行ふる。此處に來て見ると、毎晩天上の事や海底の事などを、幻燈や活動寫眞で面白く説明して居る。亞弗利加内地の探險話もあれば、アルペンや北海海岸の研究談もある。何時も中々の大入りで、決して其直ぐ近處にある有名な下等劇場のバッサージ・テアーターにも劣らない。又こゝの六箇の陳列室は器械工藝部、化學工藝部、生物學部、物理學部の

四部に分れて、各部に部長があつて此部長始め其他の學者が小講堂の方に於て時時實驗的講演をする。右の四部の外に學術劇場部がある。大講堂の講演を掌るものは則ち此部長である。又舊ウラーニアの天文臺を世話する天文臺及び星學博物館部と云ふものがあつて、之にも部長が置いてある。此外此「ウラーニア」から「天と地」と題する廉價な通俗學術雜誌を昔から出して居る。維納の「ウラーニア」の雜誌（ヒンメルウンドエルデ）は之を眞似たものである。一九〇八年乃至同九年中に此處の大小講堂で擧行した講演は六百五十八回で、之に舊ウラーニアの十二回を加ふれば、六百六十回になり、此外にも「ウラーニア」が特に他の會の爲に催した講演も多數あつた。而して此年に新舊ウラーニアに入場したものが十七萬人近くで、其中唯參觀した許りのものは七千人許りで、他は總て講演に出席したものである。此外に又他の會の爲に催した特別な講演を聽きに來たものも五萬人近くあつたから、入場者の總數は二十二萬人以上に達した譯である。一箇處の學術講演に一年二十二萬人以上の人が集まると云ふ事は、これで以て獨逸の一般の國民が競うて自己の修養に努むることの一斑が窺はれるだらうと思ふ。

「ウラーニア」の聽講料は一乃至三マークで、學生生徒等には割引がある。又陳列室の參觀料は五十ペンニヒである。これが收入の大部分を占めて居るが、この外に伯林市から一萬マーク、並にシャルロッテン市から三千マークの補助がある。之に對して「ウラーニア」は時々同市の學校生徒の爲に講演を催しで無料で聽かせなければならぬ。一年の總收入がそれで約十七八萬マークに上つて居る。而して其中の約半分を講師と雇員の手當に充て、其他租稅などの支出を引去つて毎年總收入の三分即ち約十八萬マークに對する五千マーク許りの純益を得て居る勘定である。

トレプトー天文臺は世間で往々ウラーニアの附屬のやうに思つて居るものもあるが、さうでない。是は「トレプトー天文臺後援會」とも名づくべき一の協會が一八九八年に星學に關する知識を普及する目的を以て設置したものである。伯林の東方市外のトレプトーにあつて、ツアイス工場製作の大なる望遠鏡を備附けて、何人でも一マークを投ずれば自由に使用することが出來る。晴天の夜此處に出懸けて天體の觀測を爲すを以て伯林の市民は其娯樂の一として居る。此處には星

*Gesellschaft für volkstümliche Naturkunde.

學博物館もあつて、天隕石や其他星學に關した寫眞、圖畫等を多く陳列して、これも二十ペンニヒを出せば誰にも見せる。又六百人を容るゝ大講堂も近年出來上つて、此講堂で星學に關する通俗講演が折り〳〵開かれる。これも三十ペンニヒで以て何人でも聽講することが出來る。特に勞働者等の爲に入場料を割引きして講演をなすこともある。毎年の入場者の總數は詳かではないが、大概五六萬人の間を上下すると云ふことである。又其會計狀態も公にしたものが無いから分からない。

序に申して置かうと思ふのは、伯林には右の「ウラーニア」などと略同じ目的を有つて居る會が、まだ外にもあることである。例へば「通俗自然學會」(ホゲゼルシヤフト、フユール、フオルクスチユームリツヘ、ナツールクンデ)と云ふのは一八九五年の創立で、今は千五百人の會員を有して頗る盛んである。冬季に毎月一回理科、醫科等に關する通俗講演會を開き、會員には無料、會員外には少許りの入場料を徵して講演を聽かせる。此外時々公開無料の講演會も開き、又數回に亘る課程の講演も催す。又博物館、工場等の參觀をなし、及び修學旅行を擧行する。此會の爲に働いて居る講師の中には現代の大家も多く、隨つて講演は通俗であつても嚴

(1)Naturwissenschaftliche Wochenschrift.
(2)Der Deutsche Monistenbund.
(3)Keplerbund.

正なる學術の性質に背かない。他で開催して居る講演は、動もすると餘り通俗を主とする結果、自然皮相に流れ易い弊がある。「ウラーニア」の如きも此點に於ては多少の批難を免れない。自然科學を營利の手段として行かれるまでに、世の中が進歩したと云ふ事は、眞に喜ぶべきことであるが、併し餘り營利に重きを置くと、惡くすると學術の威嚴を損することになるから、これは餘程注意しなければならぬ。「自然學會」は多分かゝる弊を矯めんが爲に起つたものであらう。此會の講演は大概其機關雜誌「自然科學週報」(1)(ナツールウイツセンシヤフトリツヘ、ウヲツヘンシユリフト)に發表されて居る。之は中々評判の好い雜誌である。

それから又「獨逸一元論者組合」(2)(デア、ドイツチエ、モニステンブンド)と云ふ一九〇六年に、進化論者として我邦に知られて居るエルンスト・ヘッケルが創立して、又之も能く我邦の學者に知られて居る化學者のウィルヘルム・オストワルドを會長とする非宗教の通俗科學會がある。これはミュンヘンが本據であるけれども、伯林にも支部があつて六千人近くの會員を有つて、斷えず講演を開いて盛んに其自然科學に根據する宇宙觀を鼓吹して居る。又之に對して「ケプラー組合」(3)と云ふものがある。これも本據はフランクフルト・ア

ム・マインであるが、伯林にも其支部があつて知名の人が多く加入して居る。前者とは反對に昔の天文學者ケプラーの思想に基き、自然科學と宗教との調和を期するのが其目的である。これも八千人位の會員を有して、盛んに講演を開いて其主義の普及に努めて居る。此二つの組合の講演は自然科學に關したものが多いけれども、組合の目的が目的であるだけに、自から哲學めいて居る。兩方共種々なパンフレットを發行して居るが、就中前の「一元論者組合」からは其機關として「モニズム」即ち一元主義と云ふ雜誌を發行して居る。此外尚自然科學に關する講演を目的とする二三の會があるけれども、重なるものは大概前述の如きものである。

六　學生勞働者講習

*スツデンチツセ・アルバイターウンテルリヒツタルゼ

大學教授の通俗講演を始めるのを見た大學學生は之に倣つて學生勞働者講習、詳しく云へば學生が勞働者の爲に催す講習と云ふ者を始めた。勞働者に進んだ高等の教育を授けることも必要であるが、其一旦受けた教育を忘れないやうにすることも同じく必要である。又十八歲までは今日は誰でも實業補習教育を受けるから、それまでの青年勞働者には別段講習の必要もないが、それより少し年取つた、勞働者の爲には、これが必要である。この年頃には小學校で習つた事を多く忘れて了ふ。それで之を復習旁〻教へるのが此勞働者講習の目的とする所である。勿論其際に勞働者の職業に必要なる學科も多少は加へて居るが、併し主たる科目は矢張り初等普通學科である。

此講習は一九〇一年にシャルロッテンに在る高等工業學校——我邦の工科大學に相當する——の學生が始めて發起して、尋いで伯林大學の學生が之に倣ひ、今日では殆んど總ての大學で皆之を行つて居る。で、今日では此各處の講習會は聯合して「獨逸大學勞働者講習組合」と云ふものを組織して、其委員は時々伯林に集つて互に意見の交換をして居る。此講習の起つた以來、シャルロッテン市は頗る之に同情して、市立小學校の教場を小使附きで無料で貸與し、又必要なる燈火、暖室の費用も負擔して呉れる。今は勞働者の通學に一番都合の好い離宮所在の城町（シュロースストラーセ）の小學校を以て之に充てゝ居る。學年は冬夏の二學期に分つて、一課程は一學期間續く。授業は一學科毎に一週一回で、夜八時より十時までゞある。一九一一年乃至

同一二年の冬期には課程が二十三で、生徒が四百一人で、之に從事した敎師が三十二人であつた。自分も右の小學校が直ぐ下宿の近處にあつたから一寸覗いて見たが、全く小學校で但し生徒が年取つて居るだけが違つて居た。聞く所に依ると、師弟の間は親密に接近することを主として、生徒の中からも總代を選出して先生の相談相手とすると云ふ風であるといふ。會長と云ふものを定めてはあるが、學校長と云ふ如き嚴めしいものでなく、ホンの庶務の世話役に過ぎない。又生徒に練習問題などを與へる際には、生徒の中から學力の進んだものを選んで之を練習指導として附けて置く。而して此際には一組の人數を成るべく少くして、二十人乃至二十人充分に注意の行屆くやうにする。此外日曜日其他の休日には、學生の先生が勞働者の生徒を引連れて郊外に散歩したり、博物館、展覽會、印刷場又は工場等の參觀に出懸けることもある。又前に申した「中央民福會」の紹介で、例の王立劇場やシルラー劇場の割引參觀も特に出來るやうになつて居る。

シャルロッテンの勞働者講習は原名を Freie Fortbildungskurse für Arbeiter. 卽ち「勞働者の爲の自由補充講習」と云つて、右の高等工業學校の社會學部の學生であつて、何れの

學生組合にも屬しない謂ゆる「野獸團」(無所屬)が經營して居るが、伯林の方のは「勞働者の爲の大學講習」云つてこれも同大學の學生中の「自由學生團」の設置に係つて居る。「自由學生團」とは「野獸團」と同じく他の學生組合に屬しない獨立不羈の團體と云ふことで、舊式の飮酒、決鬪等を事とする學生團と違つて、學問を專一に勉强する事を其主義とする謂はゞ新派の學生團である。さて此伯林の方の勞働者講習、これは後に起つたけれども、シャルロッテンの方よりは今は稍盛んである。講習の場所も三箇所にある。一九一一年乃至一二年の冬季の講習には課程が四十七、生徒が九百九十一人、其中二割近くは女子であつた。而して授業に從事した敎師は男學生九十八人、女學生六人の外に既に高等文官試補になつたもの四人であつた。講習の聽講料は兩方とも一學期五十ペンニヒで、此收入で以て經費の大部分を支辨して居ると云ふ有樣であるから、會の支出と云つても知れたもので、シャルロッテンが千マーク許り伯林が二千マーク許りである。近着の伯林の新聞紙を見ると、市では此講習に多少の補助をなすことにして居る。尙伯林には特に女子勞働者の爲に、一週三時間宛ペスタロッチー・フレーベルハウス(館)に於て大學學生に依頼して

講習を開いて居る。又これは大學學生の企ではないが、シャルロッテン市で市の事業としても、勞働者の爲に無料補充講習を各處の市立小學校で開いて居る。

最後に、學生勞働者講習」と云ふものは、察するに元は英吉利の大學殖民と譯する彼のユニバーシチー・セットルメントを學んだものであるらしい。但し英吉利では大學の學生に金持の子弟が多いので、これが下層社會の事情に通ずる爲に、特にトインビーホールのやうな處に出懸けて、貧民と交際する傍に多少授業もするのであるが、獨逸では學生が自ら進んで勞働者を敎育するといふ事が主になつて居るから、兩者の間の事情には餘程違つた處がある。

七　通俗圖書館及び博物館の案内

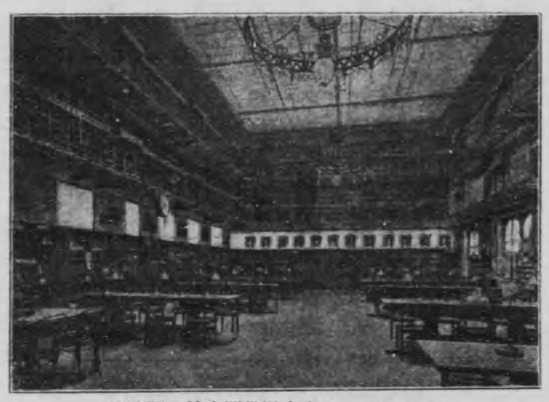
*Museumfülung.

伯林には勞働者同業組合などの設置する圖書館——圖書館と云つても多くは五百冊から一千冊までの私人の藏書の稍大きな者である——の外に、市立の平民圖書館卽ち通俗圖書館が二十八あつて、これが伯林の市中に散在し、多くは市立小學校に置いてある。特に新築の學校には此圖書館を置く爲に、特別な建築をして

ある。其最も大なるものは二萬冊、最も小さいものは四千冊位を備附けて、其中の十四箇所には閱覽室も設けてある。閱覽室には辭書類の外、新聞雜誌を多く備へてあつて、而かも必ず保守黨から社會黨迄の新聞紙を一樣に取揃へてある。これは、圖書館の政治上に於て不偏不黨であることを示すためである。かうして置くと社會黨などでも機嫌よく圖書館に寄附いて、自然讀書に親しむようになると云ふ事である。それから五六年前に「市立圖書館」（スタット・ビブリオテーク）と云ふものが新に設置された。これは前の二十四の平民圖書館の親圖書館で、十萬冊以上の稍高尙なる圖書を藏して、直接にも貸出すが、また平民圖書館の紹介でも貸出す。但借覽人の年齡は平民圖書館では十四歲と定めてあるが、此處ではそれが十六歲以上となつて居る。其他貸與期間も多少異つて居る。市立圖書館でも又平民圖書館でも借覽料はないが、借覽申込用紙が定つて居て、これが十枚五ペンニヒである。これは丁度維納と同じやうに、只で見するといふのは閱覽人の責任の感を薄くすると云ふ考へからしてかうしたもので、收入の關係からではない。併し伯林では私立の圖書館の方は全く一文の借覽料を取らないから、右の考へは伯林の圖書館に通じて實行されて

は、居ない。市立圖書館には閲覧室もある。閲覧人は其内に在る書棚から勝手に好きな本を取出して讀むことが出來る。借出しも其場で出來る。其他の手續は總て、簡便である。平日は平民圖書館の閲覧室は毎晩六時から十時まで——市立圖書館の方は午前午後に亙つて開く——の開館であるが、日曜日は午前十時から十二時までである。維納では、日曜日が一番多く圖書館に來るものが多いが、伯林の、人は、日曜日には、多く、散歩に出るか、ら圖書館は、甚だ繁昌しない。それでかう伯林では日曜日の開館時間を少くするのである。平民圖書館の貸出し時間は圖書館に依つて多少の差あるも、大概平日は午後四時より九時まで、日曜日は午後の二時間位が常である。開館の定刻前から群衆——就中婦人少年が多い——が館前に押寄せて、開館を今や遅しと待つて居る。入口の戸が開かれると、群衆は我勝ちにと先を爭うて闖入する。子供などは折角父親が本の名を書いて呉れた紙片を滅茶々々にされながらも、尚之を手に高く掲げて群集に押されながら館内に流れ込むと云ふ有様だと、或人が書いて居るが、自分もいろ〳〵の圖書館を覗いたが、遂にこんな盛況を實見しなかつたが、毎日の貸出し時間に一定の制限があるから、或

はさう云ふこともあるかとも思ふ。併し圖書館を利用するもの〻數は維納の處で言つた如く、統計の上では伯林は必ずしも上等の位置を占めて居ないやうである。それでも伯林市が圖書館全體の爲に費す金額は二十三萬マーク近くに達して居る。



シャルロッテンブルッテン市立通俗圖書館の閲覧室

右の伯林の市立圖書館の外に、其地續きの市にも總てで二十一の市立圖書館がある。中にもシャルロッテン市の圖書館は四萬冊以上を藏して、其設備は最も完全であつて、本館一、分館二で、經費も年六萬マーク以上をかけて居る。自分も兩三度行つて見たが、本館の閲覧室は百五十人位を容れて、凡そ有名なる新聞、雜誌は其内に悉く備附けてある。又日常必要なる參考書も其上の三方のガレリーの書棚に陳列してあつて、何人でも勝手に抽出して見ることが出來る。特に閲覧室内の靜肅なることは、恰も森嚴なお寺の

本堂にあるやうで、微かな咳拂ひ一つしても、それが滿堂に響き亙る程である。最も低い聲で以て館員と問覽人とが互に交換する一言一句でも、尙明白に一々之を聽取る事が出來る。其他貸出に關した事項は大抵伯林の圖書館に同じで、別に更めて述べる必要もないと思ふ。次にシェーネベルヒの市立圖書館もよく整頓して居る。それから私立の圖書館ではフーゴー・ハイネマン[1]と云ふ州會議員で、社會黨に屬した人の創立に係る同名の圖書館、獨逸倫理敎育會[2]の設立に係る閱覽室、及び猶太人の仲間の爲に設けた猶太閱覽室並に圖書館等[3]があつて、いづれも相當の利用者がある。それから之は言ふまでもない事であるが、以上は主として通俗敎育を目的とする圖書館に就いて述べたので、維納でも伯林でも此外に本當な市立の圖書館を有つて居る。特に伯林には世界で第三番目と云はるゝ市立大圖書館を有つて居る。其他專門の圖書館は殆んど一事業、一學術毎にそれ〴〵に備へられてあるのである。

博物館其他展覽會の參觀も甚だ盛んである。「ムゼーム、フュールレンング」卽ち博物館の案內と云ふのは、此參觀を只の參觀に止めず、一定の方法に依つて有功に擧行する

(1) Hugo Heinemann. (2) Die Deutsche Gesellschaft für ethische Kultur. (3) Die Jüdische Lesehalle und Bibliothek.

ものである。前に申した如く「學生勞働者講習」に於ても勞働者同業組合」に於ても之をなすも、就中之を最も組織的に、又大規模に擧行するのは、これも前に述べた「中央民福會」である。此會は此等の事業を爲す爲に特に平民展覽事業施設委員と云ふものを設けて、此委員中に各勞働者同業組合等から代表者が出て居る。博物館案內は大概當年の秋から翌年の春にかけて、凡そ二期に分かつて擧行する。一回切りの案內の外、二回若くは三回に亙つた案內もある。此日曜日は何處、次きの日曜日に此處と云ふ風に、數回の案內を豫め一定して希望者を募るのである。一九〇八年乃至九年には百二十三回の案內中此連續案內を四十回も行つて居る。入場券は此會で作つて、其都度一定數丈を右の代表者の手を經て、希望者に無代で分配するのである。案內は日曜日の午前未だ一般の參觀人を入れない前、又は其午後の晝休みに一寸館を閉ぢる時間に於てする。これは雜沓を避けて緩つくり觀察する爲で、之が爲には會の方で博物館と交涉して、其特許を得るの必要あることは言ふまでもない。案內する博物館は伯林中の殆んど總ての博物館であつて、此處では博物館が分業になつて居るから、其數が中々多い。就中勞働者の爲になる

美術博物館、科學博物館、海洋博物館、及び動物園等が最も多く案内せらるゝ處で、其外勞働博物館、遞信博物館、ホーヘンツォルレン博物館等は勿論、他の工場學校等へも亦折り〳〵案内をする。大きな博物館に行く時は當日特に案内すべき部分を限定して、其旨を別に掲へて分配する案内目錄の中に注意してある。これは觀察の散漫になることを防がんとの主旨に出づるのである。それから案内者は美術、科學の專門家で、多くは特に當該博物館の館員に囑託するのであるが、又會の役員、若くは中學校の敎員等が其任に當ることもある。案内者は何れも經驗ある人で、其說明は懇切周到で、且器械ならば之を使用して見せ、又標本ならば之を皆んなに廻して見せると云ふ鹽梅で、日本のやうに唯恐る〳〵拜聽、又は拜觀するとか、云ふ風ではない。それから此博物館案内の費用と云ふものが、文部省から出て居る。案内者即ち說明者の報酬一回十マーク、其處の小使の心付は少し許り、此他には印刷代位のものである。これを毎年文部省から補助する四千マークの金で以て、支辨して居る。此外に「プラウト基金」*と云ふものがあつて、不足の分は之から も出して補ふ事が出來る。但し會の方では其斡旋に對して何等の報酬も求めな

*Plauth-Stiftung.

い。一九一〇年乃至一一年に此會で案内した勞働者の數は六千五百人だと、其事業報告に見えて居る。以上申したものは重に勞働者などのやうな貧乏な者の爲にする事業であるが、此外一般の人の爲に一マーク以上の入會金を取つて、博物館、工場、病院、育兒院などの類を案内する事業も隨分盛んである。又博物館の方でも自ら進んで時々講演もし、案内もする。就中海洋博物館の外、科學博物館（ナトゥールクンデ・ムゼーム）の講演は知名の專門家が出席して中々盛んである。要するに伯林に於ける博物館等の利用は殆んど遺憾なく行はれて居る。

八　自由平民劇場及び其他の通俗興行

昔の羅馬人の間には Panem et circenses 即ち「麵包と芝居」と云ふ諺があつて、麵包と共に劇と云ふものは、當時の人の生活に缺くべからざるものであつたと聞いて居るが、今の西洋人に就いて見ても略此感がある。西洋人の芝居好きなのは又格別である。それで貧乏人に取つては麵包を得られぬ事も大なる苦痛であるが、之と同く劇を見られぬことも亦少からぬ苦痛である。「自由平民劇場」と云ふのは、先づ

こんな事情からして、成るだけ廉價で誰れでも良い劇を見る事の出來るやうにしようと云ふ處からして起つたものである。其外此劇場の發起者の考へでは、今日の劇は如何うも貴族的で、一部金持の嗜好に投合することを務むるから好くない。之が爲に人間の眞の趣味と云ふものは墮落しつゝあるのである。であるから一つ之を改善しなければならぬと云ふのもこれも亦此自由劇場の起る一の原因になつたのである。イブセンやハウプトマンが、鋭利な筆鋒で、現代、社會、生活の缺點を暴露するる劇などは、一部社會の現狀に不平ある仲間に最も歡迎されて、此點に於て近代の劇は漸く一般の社會問題に接觸して來た。前の發起人等の考へを露骨に云へば、詰りこんな風な現代劇で以て、今の社會組織を根本的に改革しようと云ふのであつた。自由平民劇場の始めて起つたのは一八九〇年で、當時之が爲に熱心に働いたのは、其時は未だ一箇の青年文士であつたブルノー・ウィリー*であつた。創立の當初は隨分激烈な革命思想を含んだものを上場して、一時下層社會の人氣を得て大に繁昌したが、幾何もなくして幹部内に感情上の衝突が起つて遂に二派に分かれ、ウィリーは其多數の同志と共に脱會して、別に「新自由平民劇場」と云ふ會を組

*Bruno Willi

織した。かくて此以後は自由平民劇場と云ふものに二派ある樣になつた。卽ち舊自由平民劇場に對して新自由平民劇場と云ふものが出來た。かうして過き行く内に一八九五年に此二派の自由平民劇場に取つて容易ならぬ事が起つた。と云ふのは、伯林の警視廳では此二派の劇場に向つて、他の劇場と同じく其上場する脚本の檢閲を受くるやうにと命令した。これまでは此劇場は會員組織で、公開のものでないと云ふ理由からして、此檢閲を受くるに及ばなかつたのである。以前からして官の檢閲を受けないで、勝手に脚本を上場する劇場があつて、之を自由劇場と呼んで居た。自由平民劇場は之を學んで脚本の檢閲を免れて居つたが、それが忽ち出來なくなつた。それで無論兩派とも大に困つたが、如何うする事も出來ないので、舊い方の劇場ではそんな檢閲などを受くる事は厭だと言つて、遂に其會を解散して了つた。處がウィリーの方の派では不平だが致方ないと云ふので、其會則を改正して普通の結社とし、更めて脚本の檢閲を受くる事にした。之を見た舊い方の派でも亦間もなく考へ直して、到頭ウィリーの方で爲した通りの規則を作つて、再び設立の許可を受けた。かくてまた以前の通りに新舊二派共に其事業を繼

續して今日に至つて居るのである。

「自由平民劇場」の組織は幹部（フオアスタンド）と技藝委員とがあつて、庶務は一切幹部が處理する。其爲に有給の書記が一人居る。幹部及び技藝委員は皆名譽職で、唯車代を得るはかりである。幹部も技藝委員も總會で選擧する。又秩序掛（オルドナー）とでも云ふべきものがあつて、出入着席などの世話をする。會員は誰でも差支ない、十六歳以上でありさへすればなれる。但し前科者だけはいけない。幹部はこんなものゝ入會を拒む權能を有つて居る。會費は會の主義に基づいて極めて廉くしてある。一箇月會費一マーク内外であつて、近來は新に入會するものから少し許りの手數料を取る。市内到る處に入會申込所を設けて入會の便利を圖つて居る。以上は大體新舊の兩方に通じて同じくさうである。會員の數は舊の方が約一萬八千人で、其百八十五回の興行に對する一年の支出が十八萬マーク許りで、新の方はズット之より多く、約五萬人で、又其興行も五百回に及んで、之が爲に一年に五十六萬マーク許りを費して居る。（一九一〇年乃至一二年の調査）

右の如く兩方とも會員の數が多數であつて、而かも劇場の座席には限りがあるから、無論之を一時に見物させることは出來ない。それで會員を幾組にも分けて、毎組に一年の中九月から五月までの間に十回乃至十二回の見物が出來るやうに仕組んである。初めの程は一定の劇場を借りて、こゝで會附きの舞臺監督（レジッセール）の下に會の好きな脚本を選んで興行したものであつたが、後には又此外に他の劇場と特約して、此劇場の豫定の出し物を其儘借りて之を見物さすることにした。今日の處では此方が普通の興行法となつて居る。併し若し此豫定の出し物が會の技藝委員の氣に入らない場合には、特約劇場でも會の注文に應じて別に新しい脚本を上場する。それで此劇場で新作物を出す場合には、其稽古の際に必ず會の技藝委員を招待することになつて居る。技藝委員は之を見て、會の爲行つて貰ひ度いと思ふ脚本を選定するのである。目下の處では、舊の方では四箇、新の方では七箇の劇場と特約を結んで居る。維納の自由平民劇場でも會員が五萬人になつたら、自己專有の劇場を建つる筈になつて居るが、伯林の新自由平民劇場の會員は既に五萬人に達して居る。で、此會では夙に其會所有の劇場を新築したいとの希望で、會員から少し許りの會費の割增を取り、また有志の寄附を募つて既に巨額の積立金

を作つて居る。豫定計畫に依れば昨年中には「平民藝術館（アルバスクンストハウス）」と云ふ劇場で、音樂も出來、圖書館も備つた立派な建物が落成する筈であつたが、果して如何うなつたか、その處は遂に聞くを得なかつた。尤もこれが出來ても、從前の他の劇場との特約は之を廢するのではない。自己所有の一つの劇場に興行を限ると、脚本の選擇が自然一方に偏して、いろ〳〵異つた會員の希望を滿足することが出來ないから、依然舊の如く他の劇場の興行をも、會の方で其儘借受ける筈である。自由平民劇場の興行は大概日曜日の午後の晝間であるが、近來は就中新自由平民劇場の方では、普通劇場同樣に夜間の興行もすることがある。

出し物に就いて云へば、新舊劇場の中でも舊の方が、寧ろ其當初の主義に忠實なのである。此方で興行するものは、必ず現代の作品に限つて、舊いものは一切出さない。之に反して新の方では他の劇場の興行を其儘借りると云ふ關係もあるからでもあらうが、現代物以外にクラシック物も隨分多く見せる。一九〇七年乃至九年の興行目錄を見れば、其中にはシェークスピア、レッシングなどの作品も可なり多く見えて居る。其外はストリンドベルグ、カルデロン、メーテルリング、ゴルキー、ゴーゴルズーデルマン、ヘッベル、ハルベ等の作である。要するに創立當初の如くに貧民生活の慘狀を描いた脚本のみを興行するのは新自由平民劇場の今日の現況ではない。而してこれの方が却つて一般會員の氣受けが好いやうである。勞働者だからと云つていつも同じ其仲間の生活情態を描いたもの許り見せられては、鼻につきて面白くないに相違ない。富貴の人であつて時に貧賤の生活を觀、貧賤の者であつて偶に富貴の生活を見ると云ふ方が却つて雙方共に感興は深いものである。新自由劇場の方が舊自由劇場の方よりも其主義には忠實でないに拘らず、會員も多く、總じて景氣の好いのは、全くこれが爲であらうと思ふ。それで今日の有樣では、自由平民劇場と云つても、其內容は多く他の劇場に異つて居ない。これが社會主義の鼓吹機關であつたのは僅かに創立當初の事であつて、今は殆んど普通の娛樂機關になつて了つて居る。

それから此會の興行の實際の有樣に就いて云へば、見物人は他の場合に話したドレスデンの民福座（フォルクスウオールザール）などと違つて、服裝なども概して立派で、一寸勞働者の男女の集りとは見えない。孰れを見ても相當な風をして居る。就中座に着いた後の行

儀などは、却つて普通の劇場の觀客よりも丁寧である。何處から見てもこれが終日工場内に煙ぶつて居る勞働者だとは思はれない程に、互の挨拶も會釋も至極上品である。幕開きの時は勿論、幕間に休息所に出て居る時でも、誠に靜肅で、行儀作法共に立派な紳士である。それから此劇場で特に目に立つのは、入口の廣間に小さな机の上に二箇の盆のやうなものが置いてあつて、一方には一人だけの座席、他方には二人連れの座席を欲しいものは右の籤を抽いた結果、仕合せものは平土間の好い處に、又不仕合せのものは三階四階の立見場に行くやうなことになる。(バルケット)孰れにしても上下の座席を金で賣らずに抽籤で以て定める處は、流石に平民主義を標榜する此會の遣り口としては、さもあるべき事と思はるゝ。

尙此會では定期の興行の外に、臨時の興行も行り、又演奏、朗誦等も行る。會員の親睦會見たやうな事も行る。偶には團體旅行も行る。臨時興行其他には會費以外に多少の入場料を取る。又此會から月報を出して會員に無代で配付する。こ

れは毎月の事務報告が主であつて、少し許り文學に關する記事が載つて居る。此雜誌の編輯は幹部がするので、之が爲に幾分かの報酬を會から幹部に與ふることとなつて居る。幹部は新舊兩方共に文士の集りで、前に申した「自由大學」などと關係を有つものが多い。

次には王立劇場が特に勞働者の爲にする興行の事であるが、之は國立博物館の小使及び造兵廠の職工の外、一般の勞働者の爲にカイザーの特命で以て擧行するもので、其世話は前に申したやうに「中央民福會」が主として之をすることになつて居る。入場券の價は僅かに五十ペンニヒで、民福會の方から之を勞働者の團體に都合好く分配するのである。興行は冬期十回と定めて、此五六年前から始めて、毎回いつも凡そ千五六百人といふ大入りである。今日までは王立劇場及び王立樂劇場の豫備としてある謂ゆる新劇場即ち俗にクロルと云ふ劇場に於てこの興行は催されて居る。第一回の催しの際にはカイザー及び其家族の方も親しく臨まれた。而して其時の出し物は「ホンブルヒ皇子」と云ふ普魯西魂を最も能く藝術化したもので、社會主義にかぶれた勞働者などには向きさうもなかつたが、見物人は

皆一同大喜びで見物して、殆んど平素の階級觀念に基づく憎惡の念を打忘れて了つたやうに見えたと云ふ事である。其後に上場したものも、「オルレアンの小女」と か何んとか、孰れも國家的思想を養成するものであつたが、それが却つて見物人の嗜好に適つて大に歡迎されて、今日でも一般勞働者は此王立劇場の特別興行の日を指折り數へて待つて居ると云ふ有樣である。要するに此企は確かに成功して、或意味に於ては「自由平民劇場」の氣勢を幾分か挫いたものと言へる。此事實と前に言つた新自由平民劇場の漸くクラッシック物に傾くといふ事實は、共に我國民の爲にも大に參考にならうと思ふ。それから右の入場料は僅かに五十ペンニヒであるから、收支相償はざることは勿論である。聞く所では毎回王立劇場の方では缺損を塡める爲に少からぬ金を注ぎ込むと云ふことである。尙例の「中央民福會」では、これも之が爲に一年中には多少の損をして、前に申したやうな仲介の世話をして居ると云ふ事である。

九　各種の平民娯樂事業

※フォルクスウンテルハルツング

伯林には以上の外に平民娯樂を目的とする事業が幾らもある。其中で最も著名なものはシャルロッテン市にある。此劇場は二つあつて、一つは伯林の東部、ノイケルン[1]でも百六十萬マークを投じてモ一つこれを設くることにして、既に市會（一九一三年）を經て居る。シャルロッテン市にあるのはワグナーの好みに從つて建てたと云ふバイロイトのフェストシュピールハウス[2]（式劇館）の型を採つて建築したもので、その持主はシャルロッテン市で、今はシルラー劇場株式會社と云ふのに賃貸してある。此劇場では重にクラッシック物を出して、且入場料も普通より安く、五十ペンニヒ乃至三マークである。我國でもこんな安い芝居は少い。尙其上に日曜日の午後には更に割引きをする。此劇場は右の如くクラッシック物を出し、特に其名の如くシルラーの作品は此處の呼物であつて、ウィルヘルム・テルの如きは小學校の生徒は卒業までには必ず一度は觀るべきものになつて居る。此外にシルラー劇場は色々の平民娯樂事業を施設して居る。

(1)Neukölln.　(2)Festspielhaus.　(3)Dichter-und Tondichterabend.

「詩人及び音詩人會」[3]は冬期毎日曜日の夜に開催され、入場料は僅かに五十ペンニヒである。詩人の生涯及び其作品に關する講演があつて、それから其朗誦若くは演

(4)Natur Theater. (3)Dr. Emil Gayar. (1)Kammer Musik-Matinee (2)Das Märkische Wandertheater.

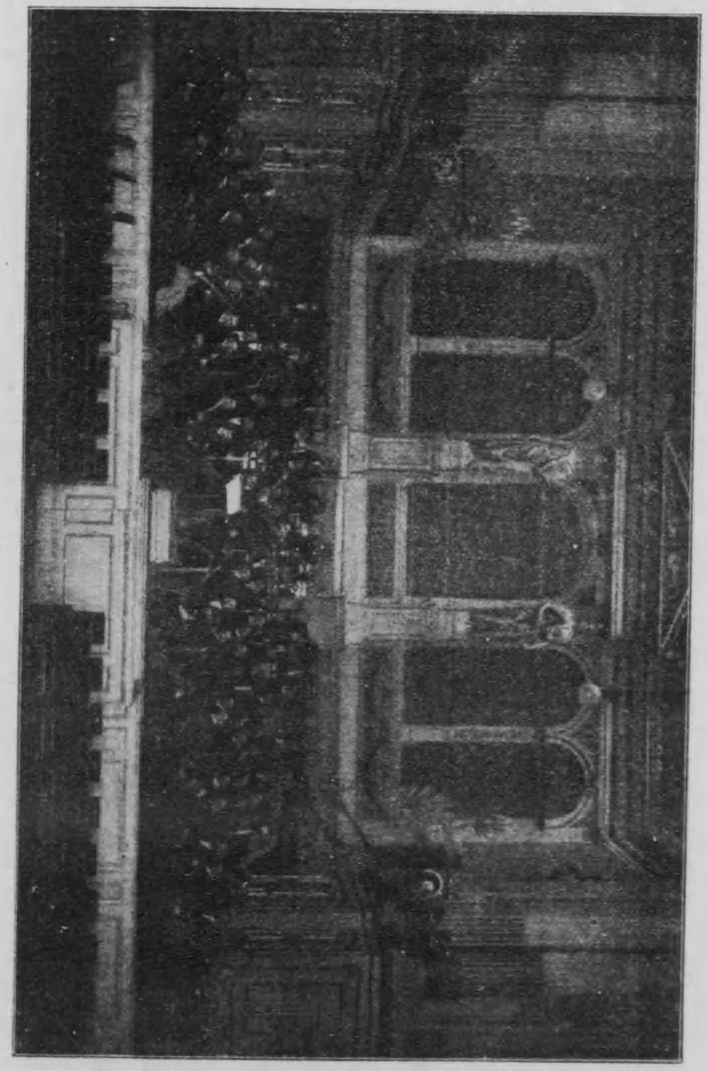
奏に移る。朗誦者は多くはシルラー劇場附きの俳優で、毎回非常の大入りである。「室樂晝間演奏」(1)と云ふのも亦、冬期の隔日曜日に擧行し、室樂の外聲樂の演奏もある。以上の二者は定時の施設であるが、此外に以前は時々美術に關した連續講演を催したが、今日は此講演は劇場から分離獨立して居る。

「地方巡回劇場」(2)と云ふのは、地方の村落などで常設劇場を有たない處の住民の爲に、善い芝居を興行して見せるを以て其目的として居る。此劇場はドクトル・エミール・ガイヤーの指導の下に既にブランデンブルヒ州は勿論、其以外の地方にも及んで到る處に興行して大なる成績を擧げて居る。其事業報告を見ると、一九〇九年乃至一〇年のシーゾン中に六十九箇所で百九十九回の興行をなしたとある。之で以て其事業の大略の景況が分かるであらう。それから又近頃の流行として「天然劇場」(4)と云ふものがある。これは所謂野天芝居で、天氣の好い時分に郊外の野原などで興行するのである。伯林から餘り遠くないポッツダム縣のベルナウ、ブラウハウスベルヒなどは則ち其最も評判な場所である。ドレスデンのハイデバルクの天然劇場の事は他の場合に話した通りで、今日は獨逸到る處に此劇場が流

(1)Volksfestspielgesellschaft. (2)Verening für Deutsche Heimatspie'e. (3)Berliner Verein für Volksunterhaltungen. (4)Verein für bildende Volksunterhaltnng. (5)Für Herz und Geist.

行して居る。此劇場に上場する脚本は多くは純獨逸趣味の物で、專門家の外に素人も加はる、否素人が主となつて行る場合が多い。普通は國祭日記念日などに擧行し、國民的觀念を涵養する效果の著しいものだと言はれて居る。此事業の爲に主として盡力するものは「平民祝祭演藝會」及び「獨逸鄉土演藝協會」(2)などと云ふ團體である。此外に農村保護を目的とする諸會に於ても亦此事を奬勵して居る。

中央民福會の事業は前に述べた通りであるが、此外に「伯林平民娯樂協會」と云ふのがあつて、平民娯樂の普及に關しては略、民福會と同樣の事をして居る。併し此方は必ずしも勞働者の爲に圖るばかりでない。誰れ彼れの差別なく多くの費用を掛けずして高尚な娯樂を取らするのが其目的である。此會は丁度民福會が政府の補助を得るやうに、伯林市から年に三千マーク許りの補助を得て居る。併し其規模は固より民福會の如くに大きくない。尙此外にも之と略同じ事業をする敎育的平民娯樂協會(4)と云ふものがある。これは劇及び音樂等に關する各種の施設をする外に、文藝科學に關した論文を集めた「情緒と精神の爲」(5)と題する叢書を發行して居る。併し之は餘り振つて居ないやうである。



ニッキシュ氏指揮の下に於けるフィルハルモニーの管絃樂

(1) Das Philharmonische Orchester.

(2) Dr. Fischer.

最後に市自ら施設し若くは援助を與ふる平民娛樂事業の二三を擧ぐれば、シェーネベルヒ市では冬期六回丈演奏、朗誦の會を催し、極廉價の入場料で聽かする。ノイケルン市でも亦之に似た事を行つて居る。それから伯林市では一昨年から有名なる「フィルハルモニー管絃樂團」(1)と云ふ伯林第一の名手揃ひの音樂團に毎年六萬マークを補助して之に夏三十五回冬五回、合計四十回だけ公開演奏をさする事にした。フィルハルモニーでは之までも民福會などの依頼で廉價で演奏を行つて來たが、伯林市では尙一層之を普ねく聽かすると云ふ趣旨で前の如く頗る多額の補助を與ふるに至つたのである。併し何れかと云へば、伯林市の方は他の獨逸の都市に較ぶれば、平民娛樂の爲に比較的多くの金を出す處とは謂はれない。又これは直接に平民娛樂の爲にすると云ふのではないが、伯林の學事主任(シュールラート)として名高いドクトル・フィッシャーの主唱で、三年目毎に市內二千人の小學校兒童を選拔して、之を東京(2)の國技館どころのチルクス・ブッシュ(ブッシュの曲馬場の意)に集めて大合唱を行らせるが、これは中々の聽物であつて、敎育者には大に參考になる。

これで以て大概伯林市の通俗敎育の事業は盡した積りであるが、之を我國のも

のと比較して見ると、各種の點に於て相違した處がある。而してこれが却て通俗敎育の實行の局に當るもの、爲に、多少の參考になるだらうと思ふのである。

〔追記〕其後彼地の新聞紙の報ずる所に依ると、新自由平民劇場協會は愈、其豫定計畫の實行に着手し、既に地所の買入れを了し、建築費の幾分として伯林市より二百萬マークを借入るゝ事となり、市參事會は之に同意して本年正月の市會に其議案を提出した。當時一二の議員より市自からかゝる劇場を經營してはどうである、市は右の協會と事業を共同しては如何、市は此事業の爲に將來補助を與ふる積りかなど云ふ、質問も出でゝ多少の反對もあつたが、遂に委員附託となり、右議案は幾分修正の上にて市會を通過したのであるから、前に申した所謂「平民藝術館」は目下正に建築中の事と想像するのである。

(2)Lüneburger Strasse. (1)Gesellschaft für Verbreitung der Volksbildung.

第三　獨逸に於ける最も著名なる民育機關

一　(1)民育普及會

獨逸の通俗敎育會の事に就ては色々話して置いたが、此等は多くは其所在地方の局部に限つたものであつた。處が、其他に其所在地方限りでなく廣く獨逸全國に手を伸ばして居るもの、又はそれ程には行かずとも其附近の地方を包括して居るものがあるから、今茲に此等の廣い範圍に亙つて居る通俗敎育會に就いて話して見度いと思ふ。就中其設立も古く且又最も名の知れて居るものは、伯林市に本據を有する「民育普及會」である。此會の事に就いては自分も夙に耳にして居つたから、伯林滯在中に親しく其會の事務所に就いて其實際を視察した。伯林を貫通するスプレー河の北岸なるリュンネブルガー街の町角に當つて、四階建の可なり大きな建物がある。民育普及會(2)の事務所は此內にある。其二階は十室以上あるが、之を此會で總て借りて居るので、西洋に於ける此種の會の事務所としては先づ大きい方である。名刺を出して事務員に面會を乞ふと、二階の上り口の應接間に

通された。此處には大きいテーブルの上に、後に言ふ此會で出版した各種の通俗教育に關した小冊子や色々の表などを幷べてあつて、來訪者に會の事業を廣告する用に供してある。程なく書記長のテウスといふ人が出て來た。此人は小學校の校長上りであつて、學問も相當にあり、且事務の才が勝れて居るので聞えて居る。

現會長ハインリッヒ・ブリンツ氏

四十四五歳の痩形の人である。色々懇切に說明し、又案內して呉れた。應接間の隣りが書記長室で、此處には蓄音機があつて、書記長は一寸失禮と言ひながら自ら之に手紙の文句を吹込めば、電鈴に應じて次の室から女書記が出て來て、此蓄音機を持つて行つて之からタイプライターに移して、署名丈すれば可いやうになつて來るといふ風に、如何にも事務の進行が迅速である。伴はれて此處を出て次へ行くと、凡疊四十疊敷もあらうかと思はれる一室に四五人の事務員が熱心に事務を執つて居る。此次は一段低い室で、我國ならば物置ともいふ可き場所で、見六十疊敷程あるが、此處に書物が堆高く小山のやうに積んであつて、六七人の婦人や子僧が居つて、或は破損したものを修繕したり、或は荷造りをしたりして居る。之は巡廻文庫の返つて來たものゝ跡始末をし、又は更に巡廻文庫として送り出す準備をして居るのである。其他に會議室や倉庫などもある。一ト通り案內して貰つて再び書記長の室に戻ると、丁度一人の來客があつた。此人は此會と關係ある巡廻劇場の世話人で、又其所屬俳優であつて、色々巡廻劇場の組織效能の話などをして聽かして呉れた。此人から聞いた巡廻劇場の事は後に話すが、兎に角自分は此民育普及會の事務所を訪問して、彼地に於ける此種の事業の執務の方法に關しても略ゝ想像が付いたから、態々行つて見た丈の甲斐はあつたと思つた。

因つて次には其時の話及び其際得た書類によつて、此會の大體の組織並に事業を述べようと思ふ。此會は徐程古い歷史を有つて居つて、一八七一年に亙つた普佛戰爭の濟んだ當年、卽ち一八七一年に成立したのである。最初の發企者は今日はウィスバーデンの名譽市民として世に知られて居る經濟學者で實業家であるフリッツ・カレー*といふ人である。此人は普佛戰爭當時には篤志者として

*Fritz Kalle.

負傷者の世話などをしたが、それも一ト通り片付いた故、慰勞の爲に凡二週間許り瑞西に旅行した。而して其間に英人トーマス・バックルの英國文明史を讀んで、其中に獨逸人は中々立派な國民であつて、哲學者にも詩人にも有名な人が多く、且又敎育に就いても政府の世話がよく行屆いて居るが、併し自分自らを獨立して治めて行くといふ所謂獨立自治の精神は、英吉利は愚か佛蘭西にも劣つて居るとあるのを見て、大いに感じて思へらく、獨逸は戰爭には勝つたが、此戰勝の利益を全うするには國民は大に猛省を要する。普佛戰爭に於ては下層社會の人民迄も偉大なる精神を發揮して世人を驚かしたが、退いて考ふれば誠にバックルの言ふ通りである。獨立自治の精神無きものは、善にも導かれ易いが、また惡にも感染し易いと覺悟せねばならぬ。既に今日は普通選擧を行つて社會黨なども起つて來た。若しかゝる思想が獨立自治の精神無きものゝ間に擴がれば、どんな事になるか知れぬ。況んや國民は戰勝の餘威を負うて頗ぶる慢心の態であるから、尙更此缺點を矯めて一層獨立自治の精神を養成せねばならぬ。而して之が爲には學校敎育に於て此點に注意する事も固より必要であるが、一方に於ては獨逸の各地方に民育會を澤

(1)Dr. Franz. Leibing.
(2)Viktor Böhmert.
(3)Holtzendorff.
(4)Virchio.
(5)Schulze-Delitzsch.

山設立し、しかも相互に提携して、共同の力に依つて此目的を遂行して行くようにせねばならぬと、かう考へたのである。處が、カレーの此考に同感する者にドクトル・フランツ・ライビング[1]といふ人があつた。此人は中學校の敎師であつたが、之より先き前述のカレーの意見と略、同樣の考の下に通俗敎育の事に意を致し、色々と既設の民育會の調査などをして、此等類似の會の合同を希望して居つた。カレーも若く此人を識るや、之に由つて其志を達し樣と考へた。然るにライビングは未だ年めて遣る必要を認めて、彼を當時有名なる社會經濟學者のウイクトール・ベーメル[2]ト、國際法の大家ホルチンドルフ[3]、醫學の泰斗ウイルヒー[4]等に紹介して、此等の人の助力を求めさせ、又愈〻會が成立すれば會長となるものが一番大事であるから、其候補者として信用組合の開祖として有名なるシュルチ・デリッチ[5]を推薦し、ライビング自身も親しくシュルチェを訪うて遂に其承諾を得て、茲に民育普及會設立の宣言書、及び實際上の施設に關する要項五箇條を發表して、同志を全國に向つて募つたのである。其宣言書の主旨は大體前に述べたカ

レーの意見と同一のものである。而して實際の施設上の方法として擧げたる五箇條といふのは、(一)補習學校增設の事、獨り都市のみならず農村に於ても亦之を普及さする事、就中農村に於ては彼の丁抹の農民高等學校（フォルンホイスコーレ）の如きものゝ設立を奬勵する事。(二)通俗敎育の目的を有する各種の會を增設し、及び其間聯絡をつけて互に意見の交換をなし、且互に補助し合ふやうにする事。(三)通俗敎育の普及を圖り、且各種の會の狀況を報ずる爲に機關雜誌を發行する事。(四)通俗講演の施設の爲に優良なる巡廻講師を得る事に力を致す事。(五)通俗敎育に關係する通俗書類や、其他の目的を達する施設方法等に關して書いた小冊子を發行する事等であつた。此要項は悉く會の定款となつて現はれて居るが、但し定款には此外後に附加へたる事も這入つて居る。かくして右の宣言書には前に擧げたベーメルト、ホルチェンドルフ、ウィルヒョーを始めとして、其他有名なる大學敎授、新聞記者、帝國議院議員等が署名してこれを發表した處が、世間から相應の贊成を得て玆に會が成立した。これが一八七一年であつた。而して最初の會長が豫定の如くシュルチェ・デリッチュで書記長がライビング、幹部にもそれ〳〵當時の名士が選擧された。

以上の如くして成立した民育普及會の當初の情況はどうであつたかといふに、此時は既に通俗敎育等の目的を以て成立した勞働者、職工等の敎育組合などが澤山あり、殊に此會の起る前後は此種の會が最も盛んに起りつゝある時であつたが、此會の創立せらるゝや進んで之に加入したものが百五十八團體で、此外に個人の會員が千二百九十九人加入した。それから約四十年後の一九一〇年には團體の會員が七千五百二十、個人の會員が五千六百二十八人となつた。で、總計の上で千四百五十七の會員から一萬三千百四十八の會員に增した譯である。尙其內譯を見れば右の數字で分る通り、個人會員の數は左程增さぬが團體會員は非常に增加して居る。而して此成績は本會の豫ての希望に叶つたものである。本會では團體の多數の聯合といふことを初めから目的として居つて、個人の會員は餘り望まぬ。望まぬでもないが、それよりも一層多く團體の方を望んで居る。之は一つには個人の會員は移動が多いが、團體はさうで無いからでもある。而して此加入團體には種々樣々なるものがあつて、其中には勞働者組合、職工組合、婦人會、青年會、體

育會、在鄉軍人會、農會、工業會、各種學會、兵營等もある。殊に近年は圖書館協會、市町村役場、小學校、教員組合、教會などの會員が著しく增加した。之は畢竟此民育普及會が手輕に、且僅かな經費で圖書館を設置して呉れるので、之を便利として加入するに至つたのである。それから兵營としての會員も追々に殖ゆるが、之は陸軍大臣から各團體の長に向つて軍隊の爲に圖書館を設くるの必要を訓示し、尙本會の事業を紹介に及んだ結果だと云ふ事である。

次に會の內部の組織はどうであるかといふに、本會の下に支會（ツヴイグフエレアイン）といふものがある。之は或一地方に會員が多く集つた場合に其處で作るもので、比較的範圍の狹いものである。又最寄り〳〵で多數の團體が聯合して居るものがある。此聯合團（フエルバンド）は比較的廣い範圍に亙つて居て、一縣、一州乃至一國を包括して居る。併し支會といひ聯合團といふも、其範圍の廣狹によつて名（ウンド）を異にするのみで實質に相違は無い。二者共に定款を作つて本部の認可を得て、之に依つて獨立に仕事をする事になつて居る。處が、支會を作れば本會に對して其收入の幾分を納めねばならぬといふ不利な條件があるから、一時は二十もあつた支會が、次第に減少して今では

九つ位となり、其他のものは割のよい團體會員として本會に加入する事になつた。其中で本會の主唱者たるカレーの仕地であるウィスバーデンは、今も支會を維持して居るが、之は實は支會とはいふものゝ隨分有力な仕事をして居つて、實際に於ては獨立の民育普及會と少しも異つた所はない。又聯合團はサクセンに於るものゝみは、其國內の各種のものを統一して一國總て纏まつて居るが、其他は地方各種の團體中一部のみが聯合して、其他の多くの團體は個々に直接本會に加入して居る。聯合團も支會も夫々幹部があつて、其決議によつて獨立に本會と同じやうな仕事をする。卽ち巡廻講師を廻したり、映畫の貸出をしたり、巡廻文庫を出したりなどして居る。而かもこれは全く本會には關係なしに行つて居るのである。而してかういふ仕組の方が實際色々の施設をする上に便利であるが、併し又大小不同の聯合團では不都合の事も少くない、特に國や州の聯合では其範圍が大き過ぎる故、一縣を單位として聯合させ、此土臺の上に本會を据ゑやうとして、屢〻之を計畫したが、どうも行はれないで今尙大多數の團體、又は個人は直接に本會に屬して居る。又此會の事業は以前主として都市に限られて、農村地方には餘り及んで居ら

なかつたが、其後之が普及に力を盡した結果、近來は稍此方面にも發展して、一九一〇年の調査では農村に於て三千八百の團體會員と千三百人の個人會員、合計約五千有餘の會員を有するに至つた。元來此會は獨逸全國を相手に事業を經營せんとする抱負であるが、元伯林を中心として普魯西からして其事が起つて居るから、自然、會員も主として普魯西の領內卽ち北方獨逸の方に多い。勿論其他の聯邦にも亙るやうに努めては居るが、普魯西以外ではサクセン國位が多い方であつて、バイエルン、ウェルテンベルヒ・バーデン等には未だ其勢力が充分に及んでは居らぬ。此等の地方には以前から別に色々の會があつて、それで通俗敎育上の仕事をして居るから、わざ〳〵此民育普及會に加入する必要が少いからである。

さて此會の事業は色々あるが、先づ圖書館に關する仕事から述べよう。之は既設の通俗圖書館を完成し、又は新に通俗圖書館を設立するといふのが其主たる目的である。「通俗圖書館の爲の圖書」(ホビユツヘルフユール・フオルタスビブリオテーケン)と題する模範目錄を作つて、之を頒つて圖書館經營者の參考に供して居る。此會が創立以來一八九一年迄に圖書の無償寄附に依つて新設したる通俗圖書館は約三百七十に達した。然るに此年になつて金が

無くなつたから、會では圖書、又は現金の補助を廣く世間に仰いだ處が、大に世の同情を得て、續々寄附があつて爾後凡そ二十年間に、卽ち一九一〇年迄に全體では圖書十萬部以上現金十三萬マークが集つた。かくて更に此圖書と現金とを以て新に設立した圖書館が總計約四千三百で、援助を與へたものが總計約一萬九千であつて、其他に巡廻文庫、自有文庫(アイゲンビユツヘライ)等で此會の餘澤を蒙つて居るものは、其規模は大小不同であるが、其數だけを云へば總計五萬以上に達して居る。右の寄附金中には普魯西の內務省文部省等のものもあつた。尤も內務省の分は一八九八年に一時限り五百マークであつたが、文部省は一八九八年以來一九〇二年迄は年々多い年は二千マーク、少い年は二百五十マーク位宛を補助して來たが、近來は止めて了つた。此事に就いてはテウス氏の話では、本會は文部省の方針に對しても善くないと思ふ事は遠慮なくドシ〳〵攻擊した事があつたから、文部省の役人はそれが癪に障つて補助を止めたのだらうと思ふと話したが、成る程其機關雜誌を見ると、官の補助を受ける事は通俗敎育の性質としては可く無い、宜しく國民自身の力で以て行る可しであるなど力んで居る。それで一方文部省の關係者にはテウスとい

ふ男は法螺吹きで、實際は口で言ふ程の仕事はして居らぬなどと批難するものもある。其當否は兎も角、雙方の關係が、今の處では、餘り圓滑に行つて居らぬのは事實である。處がカイザーの方では特に本會の圖書館事業の爲にとて一八九八年以來今も尚年々三千マーク宛の補助をなして居られる。此外ルドルフ・モッセと云ふ伯林で有名な印刷業者も一九〇一年以來年々千マークを寄附して居る。

此會の圖書館事業の中で、最も成功して居るのは「巡廻文庫」であつて、一九〇〇年から一九一〇年迄の間に巡廻さした文庫の總數が八萬八千三百で、其圖書の數が約三十八萬冊以上に達して居る。右の成績は巡廻文庫としては獨逸は勿論、他の歐羅巴諸國にも類の無い良成績であるといふ。又本會では地方の圖書館を經營するものゝ爲に幾多の便法を與へて居る。例へば或團體に於て圖書館を設立せんとすれば、年に六マークから七十マークから先づ七十マーク迄納るると、本會から百マーク迄の價格の圖書を其團體の選擇に應じて貸附する。而して尚其上に毎年必要な圖書を送つて補充して遣る。尤も其圖書館が廢止になれば、其圖書は本會に返納さする事になつて居るが、若し買取つて獨立して經營しようとする場合

には會費を滯りなく納めて居るものには、極廉價で之を讓渡すといふやうな事もして居る。其他初めから團體所有の、即ち前に言つた獨立圖書館を設立しようとすれば、例へば百マークの圖書を備附け度いと思ふ場合には、之を四回に分つて二十五マーク宛を分納すれば則ち百マーク丈の圖書を得らるゝ便法も開いてある。かくて初めから少しばかりの金を出して自分所有の文庫（自有文庫）を設くる事も出來るのである。尚又本會では學校の爲に「學級圖書館」といふものを設けて遣る事にして居る。之は普通の「生徒圖書館」（シューレルビブリオテーク）といふのとは意味が少し異つて居て、一學級の生徒が皆同一の書物を用ふる場合に必要なる部數を、例へば年六マークの會費に對しては三十マークの價格丈の本を送ると云ふ風に、極めて割合の好い條件で以て備附さするのである。此外本會では俗惡文學の蔓延を防ぐ爲に其機關雜誌には時々青年讀物の目錄を掲載し、又特に俗惡文學排斥の講演を開き、此講演を集めて「排俗惡文學」（ギーゲン・ディー・シュンドリテラツール）と云ふ本などを出して居る。而已ならず更に進んで、若し地方で善良なる通俗圖書を集めて展覽會などを催す際には之を無賃で送つてやる。又「兵營圖書館」も設けて居るが、之は他の會などで企てゝ居るものと略同じで別段

(1)Wachtstubenbibliothek.
(2)Gründet Volksbibliotheken.
(3)Das öffentliche Vortragswesen.
(4)Ländliche Volksunterhaltungsabende.

珍らしくも無いが「番兵所圖書館」と云ふものは一寸變つた思付きである。之は陸軍大臣に紹介して、其同意を得て番兵の無聊を慰める目的を以て、諸方の番兵所に一箇所に凡そ二十冊許りの圖書(重に古本)を送付する法である。其他圖書館事業に未熟なる館員の爲に圖書館管理に關する樣式、其他一切の雜形などを作つて之を會員に配布して居るが、之に依つて素人でも小さい圖書館位は別に修業せずに相當に經營する事が出來る。又會自身で各種の著書、特に小冊子を出して居る。前に述べた「排俗惡文學」の如きも其一である。其他「通俗圖書館を設置せよ」「公開講演事業」「地方の平民娯樂夜會」などいふやうな書物を出し、且創立者カレーの著書なども賣捌いて居る。其他にも澤山あるが、孰れも本會の主義を鼓吹し普及するに必要なるものゝみである。又前に言つた通り、他の本屋の出版に係る善良なる圖書を精選して、其目錄を調製して、配布して居る。本會の機關雜誌は今は「民育」と名付けて居るが、初めは「民育協會」と稱して後に今のやうに改題したのである。雜誌としては薄ッペラの粗末なものであるが、獨逸に於ける民育會の仕事を初め、一般民育上の大小の出來事を網羅して居る。

(1)Adressbuch der deutschen Rednerschaft.
(2)Dr. v. Pohlmeyer.

次の仕事は講演及び平民娯樂事業である。講演は地方を主とし、如何なる場所へでも依頼に應じて講師を向ける事が出來るやうに澤山の人を頼んであり又「獨逸演說家宿所簿」と稱するものを年々出版して、其中に講演者の姓名宿所は勿論、之を地方別にして誰々は何々地方に限るとか、何某は何處でも差支ないとか、其他旅費、手當、期間、講演の題目、內容の大體等を一々記入してある。之を無代で團體會員に配付するので、地方では之を見て其望む所の講演者に直接申込めば、直ぐに講演を開く事が出來る。尤も之は主として學術及び技術上に關する方面の講演者であるが、其外に本會の主義擴張の爲に地方を演說して廻らせる常雇の辯士がある。其中で有名なるはドクドル、ポールマイヤーといふ人で、此人は此仕事で本會の爲に二十餘年來忠實に働いて居る。又書記長テウス氏なども時々諸方を演說して歩くのである。本會自身が催す此講演數は大概年に三百位で、費用は一講演について六十マークより七十マーク迄である。此費用の約半額は開會地の團體の負擔であるが、其他の半額は本會で支辨し、之が爲に本會では年々二萬マーク位は支出して居る。併し概して言へば本會紹介の講演者は多くは無職の學者記者

などで大學教授などは一人もない。大概前に申した伯林のフンボルド・アカデミーなどの如き私立の講演所の講師などである。惡く云へば謂ゆる講演屋である。特に宿所簿に出て居る朗誦家などには隨分如何はしい者もあるやうに思はれる。それでも之が爲に地方は相當に便益を得て居るのは事實である。次は平民娛樂事業であるが、之には別に變つた施設も無いから之は略する。

それから本會では映畫殊に活動寫眞、幻燈の映畫を講演風の說明をつけ、連續した幾枚かを一組づゝにして之を貸與して居る。で、之が爲に一九〇二年に映畫器械の使用法に關する講義を、全國鐵道線路の交叉點に當つて最も往復の便の好い都市に於て開いた事が三十三箇所に及び、其後また深く地方に踏込んで所々に二百回以上も同一の目的を有する講演をした。かくして一九一〇年には本會所有の映畫の數も追々に殖えて二百十組以上に達し、其貸出數も二千九百十二組以上に及んで居る。又一九〇七年からは更に進んで機械の貸出所をも附設し、一九一〇年には百六十六の機械を貸出した。それから一九一一年には特に專門家を雇つて既成のフィルムに就いて通俗教育、幷に學術講演に必要なるものを選んでフィルムの目錄を作つて之を公にした。而して本會自らも亦冬期になれば午後には子供の爲に、夜間は大人の爲に幻燈や活動寫眞入りの講演を催して居る。尙本會が主催となつて伯林の小學校長などを會合して活動寫眞の利害に關して意見の交換をなした事などもある。

更に本會は進んで一九〇七年からシルラー劇場株式會社と相談して「地方巡廻劇場」（ダス・メルテツシエ・ヴンダーテアーター）といふものを企てた。シルラー劇場は教育的の劇を上場する事を目的としては居るものゝ、もと〳〵營利會社であるが、之が民育普及會と提携して玆に始めて純然たる一つの公益的株式會社を起して、一九〇八年に其筋の認可を得て愈〻其事業に着手した。株式であつても公益的會社といふのであるから、印紙稅の免除を受けるのみならず、營業稅も納めるに及ばぬ特典を受けるのである。此巡廻劇場は地方の常設劇場の無い處に於て高尙なる劇を黑人、卽ちシルラー劇場の俳優が興行して見せるのである。株主には各種の民育を目的とする團體を初め、實業家、官吏、好劇家の面々が喜んで加入して居る。固より一般利益の配當と云ふものは無いが、但〻拂込金額に對して四分以下の利子を付ける事は出來るやうに定款に

(1)Max Pategg. (2)Dr. Emil. Geiyar.

は規定してある。で、それ以上の收入があれば之は勿論事業の擴張費に充てゝ行かねばならぬのである。此會社は獨立のものであるが、成立が右の様な次第であるから會長には民育普及會の副會長カール・シュラーデルといふ人が推されて居り、副會長はシルラー劇場株式會社の社長マックス・パテッグ(1)といふ人、又藝の指導者卽ち劇場長は此方面で名を知られて居るドクトル・エミール・ガイヤー(2)である。

此巡廻劇場は地方の要求に應じて、其土地に行つて興行するのであるが、一回分の報酬の多寡を其土地の人口に比例して定めてある。例へば六千人以下の處は二百マーク、六千人から一萬人迄の處は二百二十五マーク、一萬人以上の處では二百五十マークといふ事になつて居る。之は演劇の費用であるが其外に場所代、廣告代、荷物運搬費等は、一般に十マーク乃至四十マークになつて居るから、割合に安くて興行の出來る事は此數字の上でも明かである。處が會では尙も費用を節約する様にと種々の注意を與へて居る。例へば荷物運搬の際には金の代りに入場券をやるとか、新聞の廣告は割引をさせるとかする様にして居るから、こんな事をすれば尙一層金はかゝらぬ。豫期以上の收入のあつた時には先づ地元の主催者

が雜費を差引く、それでも尙餘りある場合には巡廻劇場の方で三分の二を取り、地元の方で三分の一を取る事に定めてあるが、併し元々公益事業であるから、其地元で取る可き三分の一も成る可くは會社の方で貰つて、事業發展の助けとしたいと希望して居る。興行上尙一層便宜あらしむる様にと、二三年前から巡廻劇場の爲に地方に委員を設けてある。此委員は地方の市町村役場が主となつて、其土地の學校種々の團體などゝ協議の上で選定する。此委員には成るべく土地の有力なる新聞の持主、又は劇場に適する場所の持主等の加はる事を望んで居る、之は仕事の上に援助になるからである。勿論委員は會計上の責任があるから、成る可く金持の人を選ぶやうにして居るが、併し今日迄の經驗では最も不入の時でも、缺損は五十マーク以上に達した事はなく、隨つて地元の負擔は五十マークを超えた事は無い。委員は平日は此事業の爲に同志を募集して居り、一回切りの興行では效果が少いから、四週間目又は六週間目毎には是非共之を繰返して行くやうに努めて居る。

又本會の方では興行上周到なる注意を與へてある。例へばシルラーの「盜賊」の

如きを興行するには男の馬の脚が十人から二十人迄必要であるから、之を興行するには豫めその用意を要するとか、シェークスピーアの「御意のまゝ」やアンチェングルーパーの「良心の蟲」（チア・グウイツセンスウルム）を興行しようとするには小さな管絃樂がいるとか、又はシルラーの「リーベライ」の場合にはピアノが二三臺いるとかいふやうに、主たる俳優以外に別に人手を要し、又は樂器を要し、其準備を豫め地元でして置かねばならぬものは、夫々しらべて發表してある。上場する芝居はどんな種類のものかといふに、之は巡廻劇場の事であるから俳優の數も少く、道具背景等も簡略を主とする必要があるから、少數の俳優で簡單な道具背景を以て演ずる事の出來るクラッシックのものを選んで居る。例へばゲーテの「イフヒゲニー・アウフ・タウリース」、レッシングの「賢者ナタン」（ナタン・ゲア・ワイゼ）、シルラーの「陰謀と戀」（カバーレー・ウンド・リーベ）、レッシングの「ミンナ・フオン・バレンヘルム」、イブセンの「ノラ」、其他之に類するものを選んで來たが、元來之等の種類のものは誠に少數であつて、今では殆んど之を選び盡して了つたから、近來は更に費用を增して、其事業を擴張してシルラーの「盜賊」などを始め、前に擧げた多少人數を多く要する稍大仕掛のものも上場するやうになつた。

其他本年三月から更に「藝術的平民演奏會委員」（ホコミヤー・フユール・キユンストレリツシエ・フオルクスコンチエルテ）を設けた。其委員長に前に擧げた帝國議會議員カール・シュラーデルを推し、委員にはダルベール、フンパーヂング、リリー・レーマンの如き第一流の音樂者も之に加はつて居る。其目的は最も廉價に高尙なる音樂を一般の人にも聽かせるのである。之は今迄は兎角平民的の演奏會には第一流の人が出演する事が少かつたから、此缺點を補ふ爲に此施設を初めたのである。之は各所の民育會、教員組合其他勞働者同業組合等の求に應じて何時でも其聘に應ずるといふ仕組である。

以上述べた種々の事業は主として本會の仕事であつて、支會及び聯合團體に於ても夫々同一の仕事をして居るが、之は本會の報告書には載つて居らぬから、今茲に詳しく述べる事は出來ぬ。此會では年々總會を開くが、其會場は伯林のみではなく、年每に場所を變更し、有志者があつた時には獨逸以外のモスコーなどに迄行つて開いた事がある。通俗教育上の重大問題は凡て此總會で議決し其決議は種種の方面に影響を及ぼすのである。例へば定款にある補習學校の增設の事は夙に本會の問題となり、此奬勵によつて支會などでは自ら補習學校を經營して居る

ものも少くなかつた。一八七四年の總會に於て伯林市並に普魯西一般の補習學校の改正、及び之に對する國庫の補助に就いて建議し、其結果が普魯西衆議院の問題となつて、衆議院では遂に政府に建議して、其年の豫算に補習學校に對する補助費を編入さする事を決議した。此際には本會の幹部員で代議士である人が院内に於て働いて斯様な好結果を收め得たのである。衆議院の此決議は直に政府の採用する處となつて、右決議通りに五萬ターレルの補助費が豫算に編入された。以來補習學校は漸次發達して、伯林市は勿論農村迄も之を以て義務教育とする様になつたが、畢竟之は本會の盡力に基づくものと言つても過言でないからう。本會では又補習學校を置くに就いては公民心得（ビュルガークンデ）を入れる必要を認めて、會の事業として懸賞を以て適當なる讀本を募集した。而して之が刺撃となつて公民心得に關する多くの著書が世に出た。又小學校の改善に關する事は當初の定款には無かつたが、幾何もなく之を定款中に加へ、小學教育改善の事に就いても總會の問題となり、種々教案の改正に意見を提出して、之が頗る好結果を來した例も少くない。此會は前にも一寸言つたやうに、今日では餘り政府には頼らないが、民間の新聞と

(1) Heinrich Prinz zu Schönaich-Carolath. (2) Dr. Karl Schrader.

は餘程關係が親密であつて、此會で通信する事は新聞でも好意を以て之を掲載するといふ様な次第で、會の隆盛になつたに就いては新聞政策も與つて力があると云ふ事である。併し反對する者もあつて、中央黨（ツエントルーム）、社會黨などからは善くは言はれて居らぬ。本會は他の通俗教育機關と異つて必ずしも勞働者だけの味方をして居らぬ事は、勞働者の團體の加入者の少いのでも解る通りであるから、社會黨などからは惡く言はれるのである。又本會は其主義としては政黨政派には屬せず、不偏不黨であると標榜して居るが、其幹部の顔觸れを見ればどうも國民自由黨、進歩黨（フォルクスパルテー）の側に屬して居る様に思はれるから、中央黨からも批難されるのだらうと思ふ。

會長は今日では普魯西貴族院議員で獨逸帝國議會議員たるハインリヒ・プリンツ・ツー・シューナイヒ・カロラート（國民自由黨）といふ人で、副會長は元の鐵道管理局長ドクトル・カール・シュラーデル（進歩黨）といふ人である。其他法律顧問、書記長、會計等(2)孰れも世に信用ある人である。最後に會計狀態を一言すれば、一八七一年から七二年迄は二萬マーク足らずの收支であつたが、一九一〇年に至つて歳出入共に五十萬マーク内外となつた。收入中には會員の會費が大部分を占めて居るが、又二

三のやゝ大なる寄附基金もある。

二　ライン・マイン民育聯合會

右に述べた民育普及會の外に廣い範圍に亘つて居る通俗敎育會の一に「ライン・マイン民育聯合會」といふものがある。之はフランクフルト・アム・マインを中心として此處に事務所を置き、ライン河とマイン河との沿岸地方の民育を目的とする各種の團體を聯合して成つたものである。其團體加入者の及んで居る範圍は、普魯西に屬するものはヘッセン・ナッソー州、ライン州に限り、此二州で八十の團體が加入して居り、其他バーデン國から五、オールデンブルク國から二つの團體が加入して居り、一番多いのはヘッセン國の百十四の團體であつて、總計二百十二の團體を聯合して居る。此配置によつて見ても、中心はヘッセン地方であることが分る。卽ちフランクフルト・アム・マインを中心として、其附近に手を延して居るのである。其他に各地に散在して居る個人の會員が六百二十一人ある。

以上が一九一一年の現況である。

*Rhein-Mainischer Verband für Volksbildung.

此聯合會は前の民育普及會に比べると規模は小であるが、會の主義は聊か異つて、就れかといへば英米の通俗敎育に關する施設を眞似たものと見える。自分は實際其事務所に就いて調査する迄が無かつたから、書面を以て色々尋ねた處が、其事務所からの返信によれば、本會はバウル・ナトルプ氏の主義に基づいて居る。それで氏の演說を送るから之を讀んで、本會の精神を了解して貰い度いといつて來た。ナトルプ氏は我邦の學者にも知られて居る通り、マーグデブルグの敎授であつて、哲學者・敎育學者殊に社會敎育學者として名高い。今氏の演說によつて此會の主義の大要を紹介すれば、元來通俗敎育會は之を三種に大別する事が出來る。第一は下層社會の人が發起して下層社會の利益の爲にするもので、例へば社會黨の敎育事業の如く黨員の發起で黨員のためにするもの、または勞働者同業組合の發起で勞働者同業組合のためにするものゝ如きである。第二は上層社會の人が發起して下層社會の人の爲にするもので、上層の人が下層の人の爲に保護的慈善的に施設するもの、卽ちすべて平民の爲にするものであるが、併し平民をして自らこれを企てさせることは好まない、卽ち民は由らしむべし知らしむ可からず

*Worker's Educational Association.

ずといふ風のもので、凡そ慈善を目的として起つた會は必ず多少の敎育的施設をして居るが、之が多くは此第二のものである。所謂民育即ち通俗敎育會にはこの二種のものが多いが、此等は夫々缺點がある。故に玆に第三種のものゝ必要がある。之は初めから階級を否定してかゝるのである。成る程世に階級は存在するが、知識道德に關した事柄には階級があるべきもので無い。物がよく解るや否や、或は又其人の行が善か惡かといふ事は階級、職業乃至宗敎、政治上の黨派如何には關係しない。只個人の性質、年齡、其人の體質、健康の如何には關するが、其他のものには關係しない。眞理を求め、人格を磨く上に於ては萬人赤裸々で凡て平等である、即ち知德を進める上には階級を眼中に置かぬ。故に此事業は貧富男女を問はず共同にすべし、貴賤上下打混じて行ふ可きものである。此理想を實現したものは即ち近來英國に起つて居る「勞働者敎育協會」*ウオーカース、エヂユケーショナル、アツソシエーション であらう。此協會に於ては勞働者と大學の方面とが各〻等分に代表者を出して、此兩方面の共同作用によつて事業を進めて居る。尤も以前には此勞働者側に於ては餘りに自己の階級の利益に重きを置き過ぎた。即ち自己の經濟上の改善を圖り、又は自己の政治上の主義の

普及に重きを置き過ぎた。而して其結果一時世間の惡評を招いたが、今日では勞働者の先覺者も其非を悟つて、敎育はかゝる階級的思想を以て爲す可きものでない、宜しく政治は勿論宗敎以外に超然として知德を磨き、人格を修養して行く可きものであるとして、此點に重きを置くに至つた。此精神此方法が最も善い。又英吉利の大學擴張講演（ユニワーシチー、エキステンション）の如きも初めは勞働者を目的としたのが、後には次第に變つて近來は中等社會の敎育機關となつて了つた。之は洵に遺憾なる事と思ふ、特に獨逸の通俗敎育機關には中等社會の爲にするものが多い。——之は暗に前の民育普及會を指して居るのであらう。同會は實際さうである——之では宜しくないから階級を離れて上下打混じてやらなくてはならぬ。而して此目的を達する爲には各方面の人を集めねばならぬ。さり乍ら元來敎育機關であるから、各方面とはいふものゝ敎育上から見た各方面といふに過ぎぬ。之に就いて第一に必要なるは大學の敎師で、之は實際大切な要素であつて、敎育上上層を代表するものである。第二には中流の敎育上の要素としては、大學の卒業生にして各種の事業に從事して居る人、及び大學の學生と、最後に小學校特に地方の小學校の敎員である。

(3) Unterrichtskurse. (2) Lehrgänge. (1) Einzelvorträge.

第三は勞働者である。之は社會の大部分を占めて居るから、之が加はらぬと、總ての各階級を通じた共同事業とはならぬ。以上はナトルプ氏の民育卽ち通俗敎育會に就いての意見の要旨である。

本會は如上の主義によつて成立したものであつて、其名の示す通り聯合會であつて、本會は只大體の指導をする丈であつて、各地方々々に組合が出來て居る。其中で最も大なるはフランクフルトにあるもので、此組合には勞働者同業組合から多くの代表者を其幹部に出して居て、其事業は勞働者同業組合の援助を受けてよく發達して居る。例へば講演の入場券を頒布するにしても、勞働者同業組合の機關新聞が其大部分を引受けて呉れる。其他の地方にある組合も大概さうである。

此會の事業の種類は如何うかといふに、之は殆んど前の民育普及會などゝ大同小異である。先づ其講演の方法は英吉利及び維納等のものと同じて、一回講演、連續講演(リアインツェルアオアトレーグ)(ツーザンメンヘンゲンデ)及び授業(ウンターリヒツクルセ)である。授業といふのは無學の勞働者などに普通學の初歩を授けるので、之によつて多少力がつくと、今度は一回講演を聽き、更に連續講演にも出るやうになるのである。次に娯樂的事業には別に珍らしいものもないが、巡廻

(3) Zeitschrift für soziale Heimatkunde. (1) Deutsche Tonsetzer-Gesellschaft. (2) Gemeinützige Blätter.

劇、場、は、徐、程、よ、く、行、屆、い、て、居、て、此、會、の、領、內、には、模、範、的、に、普、及、して、居、る。又會から「獨逸」作曲者協會(ドイツチエ・トーンゼツチエルゲゼルシヤフト)に對して年に若干の金を拂つて居て、之に依て此協會に屬する作曲者の作物を自由に演奏し得る權利を豫め得て居る。之は民育普及會がシルラー劇場株式會社と提携して巡廻劇場を組織して居る仕事に匹敵すべきもので、あつて、娯樂的施設として注目の價値がある。又映畫及び映畫の機械の貸附もやつて居る。其他良書の出版及び普及、圖書館の施設等も民育普及會のものと大差ない。尙平民藝術の保護、巡廻展覽會の開催、博物館の案內、複製古畫の廉價賣擴等をなす。次に鄕土研究及び鄕土保護にも力を致し、鄕土博物館を設置したり、又は鄕土天然物產の採集をして之を分配することなどに努めて居る。又地方團體の爲に通俗敎育會普及の相談相手になり、又は勞働者などの爲に法律上の質疑に關して無報酬で應答してやる。此外此會から「公益雜誌」(ダス・アインニツヒ・ゲメインヌツツイゲ・ブレツチ)といふ機關雜誌も發刊して居る。此雜誌は本會の機關であると同時に、勞働者住居の改善を目的とする會などの爲にも盡力して、其他に關する記事を揭げて、一名を「社會的鄕土誌の爲の雜誌」と呼んで居る。(3)

以上は大概通俗敎育事業に通有したものであるが、只玆に一つ本會の特色として誇つて居る事がある。それは「平民大學」（ホフオルクスアカデーミー）である。平民大學とはいふものゝ維納の平民大學とも（フオルクスウニフエルジテート）、丁抹の平民高等學校（フオルクスホツホシユーレ）とも異つて、後に話す亞米利加のチヤトカの講習と稍〻性質を同じうするもので、元は多分英吉利のオツクスフオルド大學當りの夏期講習（サンマーミーチング）を學んで出來たものであらう。之は或閑靜な景色の佳い地などを選んで、秋季の時候の好い節に會員が上下打混じて會合するのである。尤もチヤトカの如く一定の場所に年々會合するのではなく、其會場は毎年變更する。一九〇五年に其第一回をヘツセンの領内で、郡役所の所在地にして其附近に名勝古跡などに富んだリユツセルハイムと云ふ地を選んで開いた。爾來毎年凡そこんなやうな地を選んで今日迄繼續開會して居る。會期は大概十四日間で、此間に來會者は出來る丈同じ場所に宿泊し、止むを得ずして分宿しても、食事丈は同じ處で喰べるやうにしてある。午前は講演午後は演奏といふやうな風に、會に變化あらしめ、又講演時間は短く、寧ろ之を端緒として討論を主とし、學術上の講演よりは民育普及上の意見の交換、之に關する經驗談などが多い。各方面の人が知名も無名もスッカ

リ集つて來る。そこで此平民大學は前述の本會の主義を最もよく具體的に實現したものである。學問研究人格修養の前には階級なく、此目的の爲には何人も平等にベンチを列べて坐る事が出來る。此處に何人でも互に手を携へて行ける公道があつて、また此處に眞の共同生活といふものが出來るのである。今日の如く世の進歩と共に生存競爭が愈〻激甚となれば、階級間の反目は益〻盛んにならざるを得ない。而もこれは自然の大勢であるから之を根絶する事は難い。只其間に一致の點を見出して、此處に於て共同し、之に依つて反目を緩和する外に途はない。況んや反目といふ事は善く云へば競爭であつて、一方から見れば社會を進める所以であるから、强ひて之を抑へるには及ばぬ。而して誰でも一致調和して相携へて歩かれる處といへば、知德修養の道より外には無い。それで之が實行上此平民大學と云ふものが開かれたのであつて、而かも今日迄の處では至つて好成績である。（以上の議論はナトルフの演說に據る）

會の組織は各團體の總會に於て選擧した幹部があり、其上に會長がある。會長は今日ではドクトル・デア・メヂチン、ドクトル・デア・フィロゾフィーの學位を有するウ*

イルヘルム・コベルトといふ以前大學の教授であつたが、今は退いて民間の著述家として有名なる人である。其他幹部には學者、宗教家、實業家など各方面の名士が多く書記、會計のあるは言ふ迄もない。經費は大概四萬五六千マーク許りの收支である。

三 *聖ボロモイス協會

最後に尚一つの通俗教育に關する事業を話して置き度いと思ふ。それは「聖ボロモイス協會」の事である。之は一八四五年ボンに於てアウグスト・ライヘンスペルゲル等のカトリック教の有志によつて起されたもので、代々のケルンの大僧正を保護者として仰いで居る。其本據は今でもボンにある。此協會の目的は昔十六世紀の中頃に於て、ミランの僧正であつて殊に青年の教育に盡力したといふので名高い聖ボロモイスの遺志を奉じて、良書の普及を圖つて人心の改善をしようといふにある。其事業は誠に單純で圖書の普及だけを圖つて居る。そこで此事業に就いて特に話す可き事は、他と多少趣を異にする其方法位である。此會の仕事

には二つある。其一は家庭に良書を供給すること、他は諸處に圖書館を設置することである。今先づ第一の仕事から述ぶれば、會費によつて會員を三等に分ち、年六マーク納めるものを一等會員、三マーク納めるものを二等會員、一マーク半納めるものを三等會員とし、斯樣に等差をつけて、年々一種特別なガーベン・アウスワール・フェルツァイヒニスとて選り取り勝手の書目とでも云ふべき頗る完備した目錄を作つて、之等の會員に配布する。此目錄は會員の等級に應じて三部に分れて居て、一等の會員は第一部の中から其好みに應じて一冊を選擇する事が出來る。尤も此第一部には二千餘の書目を擧げてあるが、若し此中のものが氣に入らなければ、第二部又は第三部中から好む處の二冊を選ぶ事が出來る。又二等及び三等の會員は夫々第二部又は第三部から一冊を選ぶ事が出來る。此第二部及び第三部にも各、六七百の書名を列記してある。而して此目錄は年々增補して行く事になつて居る。六マークを納める一等會員の取る本は實價六マーク以上の物である。隨つて辭書、辭典、又は叢書類乃至大著述である。又續いて出る者はかくして年々一冊宛買うて行く事が出來る。二等三等會員に關しても條件は略同樣である。

(2)Bibliotheksgabenverzeichnis. (1)Hilfsverein.

かくして會費を集め、そして餘つた金を以て會員、並に其以外の一般の人々の爲に各地に通俗圖書館を建てる。尤も其補ふが爲に、援助協會といふものを設立してある。又此通俗圖書館の爲にも前に言つたやうな特別な性質の書籍目錄(ビブリオテークスガーベンフェルツァイヒニス)を作つて之を配布し、各圖書館は其中から隨意に選擇して、或程度までは必要なものを無代で貰ひ受ける事が出來る。其他一般に亙つた模範目錄も作つて居る。之は精密な調査によつて調製したもので、最初に圖書館を經營する際には之に依つて圖書を備附け、補充して行く爲には前に言つた特別に拵へた目錄に依つて選擇する手續になつて居る。此圖書館は三等を通じて凡て會員には無料で使用させ、其他の一般の人には少し許りの手數料を取つて貸附ける事になつて居る。昔はカトリックの教義によつた圖書のみを選擇したが、今日では左程偏狹ではなく、苟も教義を破壞する虞なきものは、凡て寬大な精神を以て之を網羅して、廣く讀者を利益する樣につとめて居る。併し俗惡文學の跋扈を抑壓するは本會の主たる目的である故、苟もかゝる傾向を有する種類のものは最も嚴密に之を淘汰するのである。

此會はケルンの大僧正の保護の下に各地の教會區が夫々盡力して拵へたもので、カトリック教會の事業として經營した圖書館としては最も古い歴史を有つて居て、今尚年々非常の勢を以て發展して行きつゝあるのである。援助協會は大都市などには澤山あるから、それが聯合して本部援助協會(ハウプトフェライン)と稱して居る。其他の多くは教會區を以て其管轄範圍として居る。而して之が一九一〇年には獨逸以外の佛蘭西、白耳義、和蘭、瑞西、埃太利等に及び、尚又亞米利加などに迄亘つて居て、此等を合せると約四千二百であつて會員は約二十萬人といふ多數に上つて居る。特に其中でもカトリック教の盛んな場所に多く、獨逸以外の國でも此會に入るものは宗教上の關係からであつて、佛蘭西、白耳義以下カトリック教の盛んな國に多く、又獨逸ではケルンの如きはカトリック教の本場であるから、此處だけでも援助協會は約一千もあつて、之が互に聯合して前述の本部援助協會を組織して居る。本會の事業報告によれば、一八四五年創立以來一九一〇年迄六十五年間に凡そ價格にして二千三百萬マークに相當する圖書を本會から配布したといふ事である。前の民育

普及會では創立以來四十年間に總ての事業に約四百萬マークを使つて居ると云ふことであるが、之に比すると本會は唯、圖書館丈に毎年それよりも約三倍半以上、即ち前者の平均十萬マークに對して後者は平均三十五萬マークに當つて居る。それで本會の事業は頗ぶる善く普及したもので、現にケルン市などでは通俗圖書館は大概此會の經營に係り、圖書館の事を一口にボロモイスといつて居る位である。會員數も上述の通りであるから、會の費用も一九一〇年の調査では六十二萬マークの收入があり、又それに應ずるだけの事業をして居るといふ。此會の組織は例によつて幹部があつて之は總會に於て選舉し、三年の任期で毎年其三分の一宛改選する。現時會長はボン大學の神學教授ドクトル・ヨゼーフ・フェルテンといふ人である。本會からは機關雜誌「圖書世界」[2]といふものを發行して、新舊出版の圖書の紹介批評をして居る。

[1] Prof. Dr. J. Felten. [2] Bücherwelt. [2] ビュッヒェルヴェルト

以上で以て獨逸に於ける通俗敎育の事業で、多少世に名の聞えて居るものは大略話し盡した積りである。此外に慈善事業を兼ねて通俗敎育をして居るものは澤山あるが、これ迄話すといふ事は問題外であるから、之を略する。前後比較して

見れば凡そ獨逸に於ける通俗敎育事業のどういふものかゞ大概分るであらう。但注意すべきは、凡そ私設の事業は經營者が其事業を鼓吹せんが爲に誇張して話をし、又は之を同じ筆法で以て書物にして世に廣告する傾きがあるから、只それだけによつては、其事業が官公立の大學や專門學校よりも一層盛んであるやうに思はれるが、實際は夜間他の校舍を借りて正式に敎育を受ける事の出來ぬ者の爲に補遺的敎育を施すのであるから、現場に臨んで見れば、其中には僅かの人を集めて講演して居るものも少くなく、之を官公立の學校などに比較すれば誠に微々たるものが多い。圖書館と稱するものでも同じく其通りで中には我邦の貸本屋にも劣るものが少くない。官立の圖書館などに比ぶれば固より話にならぬものが多い。併し世の敎育界の落伍者の爲にする補遺的事業としては、其冥々裡に貢獻する處極めて大なるは蓋し疑ないことである。其他事業の性質に我邦に於て學ぶ可きもの學ぶ可からざるもの、又は學ばんとするも學び得ざるもの等あるは、此等は夫々國情の相違に基づく自然の結果であるから致方ない。が、要するに知つて居れば多少何かの參考とはなるであらうと思ふ。

四　ハンブルグの講演館

ハンブルグの講演館の施設は純粋な通俗教育事業に屬するものとは言はれぬが、さればとて又純然たる學校とも見做されぬ。其程度からいへば大學及び專門學校に匹敵すべきものであつて、組織から見れば一種の講習所であるといふ、他に一寸類の無い仕組である。ハンブルグ市内には、早晩之を大學組織に改造して了はうとの說もあるが、又之に反對して此儘特色を保存して行く方が良いといふ人もあるので、未だ何れとも定まらない。兎に角只今の處では、他に類例の無い一種自由な組織を有する大學と見て可からうと思ふ。

扨此施設は詳しく言へば二部に分れて居て、其一部は*ハンブルグ殖民學館（コロニヤールインスチツート）で、他の一部は一般講演事業（アルゲマイネス・フオアレーズンクスウエーゼン）で、此二つを合したものが卽ちハンブルグの講演館の施設である。此講演館は一九〇七年にハンブルグ市民中の有志者が四百萬マークを醵出して其基礎を置いたものである。其内容を言へば一般講演の中には公開講演があつて、絶えず學術上の各種の問題に就いて名士が講演する、此部分から

*Hamburgisches Kolonialinstitut und Allgemeines Vorlesungswesen.

見れば此施設は通俗教育の事業をなして居る。之は無料であるが、併し一定の席を得ようとする者からは、年五マーク許りを徴する事になつて居る。此公開講演以外のものは入學に一定の資格がある。今先づ之を殖民學館に就いて見ると、此處には聽講生は中學校又は師範學校を卒業して正教員の試驗に合格したもの、其他商工業又は農業等に從事する實業であると一年志願兵の資格あるもの、又は之と同等以上の學力あるものといふ事に定まつて居る。以上の聽講生の外に傍聽生といふものがあるが、之は十八歳以上の者であれば、教授會の見込によつて之を許可する事になつて居る。こゝでは聽講生、傍聽生共に聽講料を徴收する。而してそれには數學期に亘るものは割合に安く、一學期のものは割合に高いとか、實驗の練習に從事するものは普通二倍の聽講料と實驗の材料の實費とを要するとかいふやうに、色々細かい規定がある。併し概して高くは無く、六學期卽ち三箇年の聽講料が二十マーク卽ち我國の約十圓に當り、其他は之に準じて四學期、二學期乃至一學期のものは夫々幾分割合が高いといふ位に過ぎぬから、概して安いと言つて可い。其上貧窮なるものは獨逸人であれば、申出によつて聽講料を免除し、又は

輕減する規定がある。

學科課程は一般殖民學上の修業に在つては、二學期卽ち一箇年であるが、特に殖民的農業經濟を研究せんとする場合は、四學期卽ち二箇年に亘る。併し學科の取捨は生徒の自由であつて、完全に修業しようとする者は二箇年以上三箇年も在學して、其好む學科を研究する事が出來る。又此處では海外貿易に從事する商人の爲に有益なる敎育を施して居る。卽ち亞弗利加、亞米利加及び東洋諸國の事に關する必要なる商業上の知識を授けるのであつて、四學期で修業が出來る。其他佛蘭西語、伊太利語、西班牙語、葡萄牙語、日本語等をも速成の者と、稍〻根本的に研究するものとの二種に分けて敎へて居る。此中の日本語の敎師には、獨逸人もあるが、又日本人も居る。眞面目に規定の時間だけ出席したものには、いづれの學科にあつても修了證を與へる。又一般殖民學、殖民的農業經濟、及び殖民的商業に就いては、夫々制規の年限だけ修業したものに對しては、希望によつて試驗を施し、合格した者には卒業證書を授與する事になつて居る。此殖民學館の課程は一般講演の課程と密接の關係があつて、殖民館の課程に洩れて居るものは、一般講演の方で補つて行くやうにして、實際は此二つを集めて完全なるものになつて居る。

一般講演は殖民學以外の凡ての領分に亘つて居る。併し又各種の方面からの依託によつて講演を開催して居るものも多い。例へばハンブルグ上級學務局の依頼によつて、一般講演の外に高等女學校正敎員の養成をなし、又ハンブルグ學術會（ヴィッセンシャフツング）——此會が主唱者となつて一般講演は起つたものである——の依託によつて講演及び實習をなし、神學試驗委員の依囑によつて牧師候補等の爲に準備敎育を施し、エッペンドルフ病院の依頼によつて開業醫の爲に醫學上の補習敎育を授け、又ハンブルグ醫務委員會の依託によつて藥劑學上の講演をするなど、中々多方面に亘つて居る。其他特に商業家等に必要なる講演及び實習を施して居る。而して此一般講演は之を凡そ三種に分ける事が出來る。第一は公開講演であつて、十六歲以上のものは誰でも聽講が出來るし、十六歲以下のものでも席があれば特に許される事がある。如何なる種類のものが公開であるや否やは、講演目錄中に一々印しをしてある。又前にも言つた通り年五マーク出せば番號の附いて居る一定の席を占める事が出來る。併し之は全體の三分の一以內に限つてあつて、

一般聽講者の爲に多くの席を存して置いて其便を圖つて居る。第二は專門講演（ファッファフオアレーズンダ）で、之には色々あつて聽講者は其學科に關係のある職業に從事して居る者である。換言すれば既に一定の職業に就いて居るもので、更に進んで傍ら之に關する專門の知識を得ようとする者の爲に開催するのである。之は概して聽講料を徴收する。第三は實習と實驗とである。之は只講演を聽くのみでなく、更に其學科に就いて論文を作り、又は實地試驗をなし、或は實地見學を企てる事などを主とする。專門講演は夫々依託の學生を養成するを目的とするものが多いから、之れには自ら聽講生の資格が定まつて居る。殊に高等女學校正敎員の養成の如きは、其聽講生は高等女學校敎員の資格を有つたもの、傍聽生は既に小學校敎員試驗を經て一定の位置を有するもので、進んで高等小學校敎員（ミツデルシユールレーレリン）又は小學校專科敎員の試驗を受けようとするものに限つて許す事になつて居る。其他は學科毎に、これは如何なる種類の人の爲に開くかと云ふことを注意してあるから、希望者は其受持の講師に其身分と素養との證明をすれば、それで聽講料に對して事務所から聽講券が貰へる。

講演の場所は講演館（フオアレーズングスグボイテ）と稱へて居る。之はエドモンド・ジーメルス竝木路（アレー）といふ處の側の廣々とした處にある。二階建の低い建物であるが、附近に建物が無いから非常に壯大に見える。此建物の中には餘程大きな大講堂と幾つかの敎室とがあつて、此處で斷えず講義をする。尙其他各處でも開く。例へば哲學實習所とか、人種學博物館や自然學博物館の講堂とか、理化學試驗場とか、植物園の實習室とか、同上の藥劑學敎室とかいふやうなハンブルグ市で經營する各種の建物の中で其設備を利用しつゝ講義をするから、其講演の場所は殆んど全市に亘つて居ると謂つて可い。

ハンブルグ講演館

講演館の管理は獨逸帝國の殖民省、海軍省及び土地の商業家から出て居る委員があつて之を司つて、而して其敎務は敎授會に於て之を決定する。敎授會の會長

は嘗て我國の大學に居つた事のある有名な經濟學者ドクトル・ラートゲン氏で、此人が實際の校長處をやつて居る。一體ハンブルグ市は獨逸の最も大なる開港場であつて、世界各國特に獨逸と殖民地との間に於ける密接なる關係を握つて居る關門である。で、獨逸においては世界的知識は先づ玆に集まる場所であるから、餘程自由を貴び、教育上に於ても常に新機軸を出して居る。其上獨逸の亞米利加と言はれる程に豐裕な都市である。であるから此講演館の如きも、大學組織では無いに拘らず、近來は各方面から續々知名の學者を招聘して居る。就中實驗教育學の泰斗として我國にも其名を知られて居るモイマン氏の如きも、一昨年末頃にラ イプチッヒから引抜かれて、多額の報酬を得て此講演館の教授になつた程である。其樣な次第であるから、其將來の發達は思ひ遣られるのである。

第四　獨逸に於ける俗惡文學の跋扈竝に其取締法

俗惡文學の盛況

俗惡文學は獨逸語にてシュンドリテラツール[1]といひ、ヤクザ文學といふ意味である。此種の文學に由つて起る風敎上の弊害の著しい事は、近來西洋諸國に於て一般に世人の注意を惹き、之に關する議論多く、隨つてそれに關係する著述も獨逸のみにても數十種に上つて、シュンドリテラツールといふ言葉は現に獨逸敎育社會の警語の一つになつて居る。然らば謂ゆる俗惡文學とは何ぞといふに、之には二樣の區別がある。第一には文學上劣惡なるも道德上無害のもの、第二には文學上價値なきと共に、道德上危險なるものである。此二種を含めて俗惡文學といふのである。此種の文學の出版は今や殆んど其極度に達し、賣行の盛んなことも實に非常である。而して之は多くは普通の書肆で販賣するのではなく、多くは所謂コルポルテール[2]といふ觸賣人によつて賣捌かれるのである。而して此觸賣人の數は

(1) Schundliteratur.　(2) Kolporteure.

(1) Der Deutsche Verein für ländliche Wahlfahrts-und Heimatpflege.
(2) Prof. Heinrich Sohnrey.

「農村幸福並に鄕土保護協會」——此協會の事は他の場合に話して置いた——の創立者たる(1)プロフェッソル・ハインリッヒ・ゾーンレー氏の調査(一八九四年)に依ると、獨逸と墺太利とを合せて凡そ四萬五千餘人もあつて、而かもこの俗惡文學の害毒に侵されて居るものが、右の二國を通じて約二千萬人はあるであらうといふことである。尤も此調査は今より十八年前であるから、今日は餘程變はつて居るに相違ないが、これでもつて其弊害の甚しいことが想像されるであらう。此俗惡文學の中には所謂際物、卽ち何か異常の出來事があればそれに虛實を打混ぜて讀者の好奇心を惹くやうに仕組んで、卽座に作つたものもある。例へば墺太利の皇太子ルドルフが失戀の結果自殺した時には、直に之に關する際物が出來て、其數二十餘種にも及んだ。而して其中最も賣行の善かつたのは實に十八萬冊の多きに達した。又バイエルンの國王は精神錯亂して位を退き、今は攝政の時代であるが、此事に關しても七八種の俗惡文學が出版された。而して之が伯林のみにても五萬冊以上の賣行があつた。又近年に最も賣行きの多かつたのは、伯林の刑手(シャルフリヒター)といふ小說で、これは二百二十二萬人の購讀者があつて、之が爲に其出版人は百二十五萬マー

(1) Schmutzliteratur. (2) Nick Carter. (3) Sherlock Holmes.

クの收入を得たといふことである。其他にもこんな類は實に枚擧に遑が無いほどである。

俗惡文學の特徵

かゝる時々の出來事に依つて、人生の祕密を訐いて讀者の好奇心に訴ふる書物の外に、性慾文學、一名汚穢文學——これは獨逸語にては(1)シュムッツリテラッツールといふ——これは言ふまでもなく男女の劣情挑發を主としたもので、此中には學術の假面を被つて表裝などゝも麗々しく出來て之を立派な眞面目な本と一處に置いても恥しくないものもある。歷とした書肆の店頭にドクトル某著「自衒」などといふ本を列べてあるのを見ることがある。而して此種の文學も中々賣行が良いので出て居る。これは普通に(2)ニック・カーター本と稱するもので、ニック・カーターとは亞米利加の或る探偵の名で、もとは亞米利加から渡つて來たものである。又右の中にはニック・カーター本の外にセルロック・ホルムス(3)などいふのがある。これも探偵の名で矢張り多く亞米利加の探偵物語を書いたものである。其他我國で昨今西洋の

ジゴマに對して日本ジゴマを作つたと同じやうに、右の外國の探偵に對して獨逸セルロック・ホルムスなどといふ、獨逸の探偵を主人公として作つたものもある。尚其他にも種々なる探偵の名を附けた俗惡文學の種類がいくらもある。然らば所謂ニック・カーター本の內容は、如何なるものかといふに、第一には言ふ迄もなく探偵譚である。それから强盜譚、竊盜譚、海賊譚、冒險譚、幽靈譚、印度人譚等であつて、其外に性慾に關する俗惡文學も含んで居る。ニック・カーター本の外にヒンタートレッペ*ンロマーン卽ち裏店向きの小說といふものがあるが、其內容は大概ニック・カーター本と同樣である。何れも每週位に一冊宛假綴の本を出し、これが多いのは二百冊に達するまでも續くことがある。而して其內に書いてある事は言ふ迄もなく、唯人間のあらゆる弱點と暗黑面とを描寫して、殘酷、隱險、獸性等を材料として、讀者の好奇心を釣り、其想像と感情とを濫用するを主眼とするものであるから、之を文學上から見れば、勿論結構は支離滅裂であつて、主人公の性格の如きも何等一貫せる處もなく、初めは殘忍刻薄な人であるかと思へば、後には*律義誠實の人である等、一向筋が立つて居ない。加之、文章は概して拙劣にして沒趣味を極めて居る。後で

* Hintertreppenroman.

申さうと思ふドレスデンの衞生博覽會の陳列品中に、或出版人から俗惡文學の作者に宛てた手紙があつて、而して其中にこんな事が書いてあつた。「我々は既に第四冊目にかゝつて居るが、未だ一回も恐怖すべき所行を見ない。何時まで此儘で續くのであるか。何時になつたら人殺しの場が出て來て、讀者の心膽を寒からしむるであらうか。家族生活の愉快なる記事は我々の讀者の趣味に合ふものでない。……第七冊目、卽ち最終には是非人殺しの慘虐な場を十分に又詳密に描寫することが必要である、云々。」これで以つて今日の俗惡文學が抑〻如何うして出來て、而かも出來た上はどんな物であるかゞ、略〻想像せらるゝであらう。

其例

今現に獨逸に行はれて居る俗惡文學の如何なるものであるかを想像せんが爲に、略〻其內容を窺ふに足るべき右の文學に付けた標題の著しいものだけを擧ぐれば、「秘密の棺」「墮落女」「少女屠り」「毒と劍」「ロンドンの賞金造り」「古家の人牢」「ミルスターの幽靈」「毒盛りの犧牲」「罪人王カルーテス」「ニューヨークの盜賊團」「人間の形ちせる惡魔ドクトル・クアルツ」「墓地グリーンウードの埋葬者」「バルムの虛無黨」「初婚の夜の謎」「恐ろ